研究紀要第59号
令和４年度

創立60周年記念

よりよい人間関係や生活をつくり、自己のよさを生かす特別活動

東京都小学校特別活動研究会

東京都小学校特別活動研究会
創立６０周年記念
令和４年度　研究紀要第５９号

目　次

○　目次　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１

○　これまでの研究集録・研究紀要一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２

○　会長あいさつ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３

○　創立６０周年記念特集　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４

・歴代会長先生からのメッセージ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４

・都小特活６０年のあゆみ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１５

○　研究の基調　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２０

○　研究の構想・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２１

○　令和４年度　創立６０周年記念　研究発表大会要項　・・・・・・・・・・・・・・・・　２２

○　都小特活ホームページ紹介　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２４

○　各活動部の研究活動

Ⅰ　学 級 活 動 部　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２５

Ⅱ　児童会活動部　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４３

Ⅲ　クラブ活動部　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５９

Ⅳ　学 校 行 事 部　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７７

○　本年度の研究の成果と今後の課題　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　９５

○　東京都小学校特別活動研究会会則　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　９６

○　顧問・役員・本部幹事・理事・副理事名簿　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　９８

○　あとがき　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０１

これまでの研究集録・研究紀要一覧

第　1　号	（昭和　39　年度）	特別教育活動における指導計画作成上の諸問題
第　2　号	（昭和　40　年度）	特別教育活動の本質をふまえた指導計画のあり方
第　3　号	（昭和　41　年度）	特別教育活動の本質をふまえた望ましい指導計画と実施計画
第４～５号	（昭和 42～43 年度）	望ましい指導計画による実践事例とその考察
第６～７号	（昭和 44～45 年度）	改訂指導要領実施のための具体的方策と問題点
第　8　号	（昭和　46　年度）	新教育課程実践上の諸問題
第　9　号	（昭和　47　年度）	教育課程実践上の諸問題
第　10　号	（昭和　48　年度）	特別活動と他領域との関連
第 11～13 号	（昭和 49～51 年度）	ひとりひとりを生かす特別活動の特質と指導のあり方
第 14～16 号	（昭和 52～54 年度）	楽しく充実した学校生活をめざす特別活動
第 17～19 号	（昭和 55～57 年度）	豊かな人間を育てる特別活動
第 20～21 号	（昭和 58～59 年度）	特別活動の特質をふまえ豊かな人間性の育成
第 22～23 号	（昭和 60～61 年度）	実践力を育てる集団活動のあり方
第 24～26 号	（昭和 62～平成元年度）	個が生きる集団活動の育成
第 27～28 号	（平成２～３年度）	望ましい人間関係を育てる特別活動の計画と実践
第 29～31 号	（平成４～６年度）	特別活動における新しい学力観と評価
第 32～34 号	（平成７～９年度）	学校週５日制と新しい特別活動の創造
第 35～37 号	（平成 10～12 年度）	生きる力をはぐくむこれからの特別活動の創造
第 38～40 号	（平成 13～15 年度）	豊かな学校生活を創造する特別活動
第 41～43 号	（平成 16～18 年度）	子どもたちの社会性をはぐくむ特別活動
第 44～46 号	（平成 19～21 年度）	自立を促す望ましい集団活動の創造
第 47～49 号	（平成 22～24 年度）	特別活動で育つ子供たちの力
第 50～52 号	（平成 25～27 年度）	よりよい人間関係を形成する特別活動の在り方
第 53～55 号	（平成 28～30 年度）	自己の有用感を高める望ましい集団活動
第　５６　号	（令和元年度）	集団や自己の生活上の課題を解決し、『自己実現』を目指す力を育てる特別活動
第 57～59 号	（令和２～４年度）	よりよい人間関係や生活をつくり、自己のよさを生かす特別活動

あ　い　さ　つ

東京都小学校特別活動研究会会長
目黒区立下目黒小学校長　　秋山　美栄子

本研究会は今年度、創立６０周年を迎えました。人で言えば還暦にあたり、歴代の会長先生方からいただいたメッセージを拝読すると、特別活動に対する諸先輩方の熱き情熱に支えられて都小特活の活動が重ねられてきたことが改めてよく分かり、感謝の念とともに深い感慨を抱いているところです。今年度の紀要は、「創立６０周年記念特集」を加えて発刊させていただきます。

さて、「よりよい人間関係や生活をつくり、自己のよさを生かす特別活動」を主題に掲げた研究も３年目を迎えました。と言っても、一昨年度は様々な制約があったため実質的には２年目の研究となります。

現行学習指導要領では、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の３つの視点を手がかりとし、「集団や社会の形成者としての見方・考え方」を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決していく経験を積み重ねていくことが、特別活動に求められています。そして、特別活動の目標を達成していくためには、学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事の４つの内容の関連を図っていくことが重要です。そこで、一昨年度から学級活動部、児童会活動部、クラブ活動部、学校行事部の４部は、研究の視点を共通にし、今年度は、各部２回ずつの研究授業と部員の日々の授業実践を通して各部の手だての有効性について検証してきました。今年度の私たちの学びを本紀要に記しましたので、お目通しいただければ幸いです。

私たちは、「不易と流行」という言葉をよく使います。都小特活における「不易」は、一連の活動を積み重ねる中で、特別活動の方法原理である「なすことによって学ぶ」を実践し、自主性や社会性、実践力などを児童が着実に身に付けてきていることや、東京都の特別活動の充実を図るために研究成果の発信に努めてきていることなどと言えるでしょう。また、「流行」にあたる事柄としては、長引くコロナ禍の中でも４つの内容について実施可能な方法を検討してきたことや、一人１台のタブレット端末の効果的な活用などがあげられると思います。本会の多くの会員は、コロナ禍だからと諦めるのではなく常に前向きに工夫を重ね、効果的な内容や方法を追究してきました。特別活動が目指す本質は変わることはありませんが、社会が求める資質・能力は時代と共に少しずつ変わってきています。特別活動を充実させていくためには、本質を守るとともに、新たな手だてを取り入れていくことが肝要です。教科書がない特別活動です。指導の充実を図り、児童一人一人に資質・能力を確実に育んでいくためには、全都の小学校教員に対し、取り組みやすく効果的な内容や方法を発信していくことが本会の使命であると考え、ホームページの充実等研究内容の汎化にも力を入れてきました。６０周年を機に、決意も新たに、研究内容を深化させることとともに、研究成果の汎化に努めてまいります。

結びに、研究発表大会で御講演賜ります文部科学省初等中等教育局視学官　安部　恭子　先生をはじめ、これまで御指導・御助言をくださいました講師の先生方、日頃より御支援いただいております東京都教育委員会、各地区教育委員会及び理事の皆様、関係研究団体の皆様、研究会場を御提供くださいました学校関係者の皆様方に、厚く御礼申し上げます。

創立６０周年記念特集　歴代会長先生からのメッセージ

特別活動の内容の変遷と研究発表会形式の変遷

第 24 代会長　小川　進一

私が特活の研究活動に参加し始めた頃は、「特別教育活動」の時代でした。

「学級会活動」は、独立した時代で、学級指導も独立した時代でした。児童の自発的自治的活動を推進する時代でした。「生活指導」が声高に叫ばれる時代で、学級指導も「しつけ」を重視した生活指導としての位置づけが重視されたと思っています。「学校行事」は、児童の活動とは、分離されて独立の分野として扱われ、特活の研究発表会とは、別の独立した研究組織をもっていました。

その後、昭和４８年代から学習指導要領の変更によって「特別教育活動」から「特別活動」の時代に変わりました。「学級会」は、学級活動（１）の内容扱いとなり学級指導は学級活動（２）の扱いの内容に変更されました。

「研究発表会の形式の変遷」　私が発表会に参加し始めた頃は、千代田区の今川小学校で行われた時代で、白井　健二会長の時代でした。この時代の研究発表会は、各教室に「学級会」「児童会」「クラブ活動」「学級指導」と別々に発表会を行っていました。

学校行事の発表会は、別の研究組織で行われていました。その後、中川　健二会長時代に学校行事も現在の特活の研究組織の中に入れるように変更し、研究部毎の発表形式から、全部合同して発表する形式に変更することになりました。初めての合同発表会が、江戸川区で行われました。江戸川区の公会堂で行われ、盛大な研究発表会の出発点となって今日に至っています。それから時代が移り変わり、内容の変更があるかもしれませんが、益々発展していくように祈っています。

事業部とポツンと一軒宿

第 25 代会長　髙松　和彦

今から２０年程前の都小特活創立４０周年の頃、吉祥寺駅南口井の頭恩賜公園間近の武蔵野公会堂。大きな会場ではありませんが、当時特活への関心が高まってきた時期でもあり、都内外からの参会者で満席の状態の中、研究発表会を２回開催しました。

その何年か前に事業部長を数年間務めていた時のことを記したいと思います。

事業部は、縁の下の力持ち的なセクションです。一緒に活動する７～８名のメンバーで余暇を利用して親睦を兼ねての合宿をすることに。近郊であまり人に知られていない隠れ家的な宿を、丹沢山麓や三浦半島の先端に見つけました。１年に１～２回顧問の先生もお招きして一泊二日の日程の中で、特活への思いや事業部での取り組みのアイデアを深夜近くまで話し合いました。山では清々しい森の風や、海では潮の香を受け、非日常的な環境の中で不思議な連帯感のようなものも醸成されるというおまけもついた大人の宿泊行事でした。普段の会合と違い、時間が潤沢にあり意見交換が十分にできること。一泊とは言え寝食を共に時間を共有することによって、良くも悪くも互いの人間性の一端が理解し合えたこと。見どころや楽しめる体験場所が決まると全員でぞろぞろと参じたこと等々。

当時事業部員として都小特活の資料作成や発送、研究懇談会の設定や運営に力を合わせて鋭意取り組んだ方々は、その後重要な立場で本会の研究推進に活躍されてきました。そして年月の経過とともに後進に道を託していきました。今回改めて現在の役員・委員の名簿を見てみると、６０周年のこの年に在会しているのは、当時事業部員で最も若かった星のような存在の１名です。

６０周年に脈々と引き継がれ、教育界に大きな寄与をされている都小特活。万歳です。

創立６０周年を迎えて

第 27 代会長　森山　裕夫

東京都小学校特別活動研究会が創立６０周年を迎えられたとのこと。心からお祝い申し上げます。顧みれば、私は昭和４２年（1967）に都の教員になり昭和４８年（1973）白井　健二会長の時から本会の一員です。傘寿を目前に控えていますから本会とは５５年間の長きにわたって関わりを持っていることになります。感無量です。ひとえに、現秋山会長以下、歴代の会長・役員・活動部員そして本研究会を理解し支えてくださった学校・関係諸機関の先生方のお力添えがあったればこそと感謝の気持ちでいっぱいです。後期高齢者になった今も本会で学び身に付けてきたことが私の生涯学習の基盤になっていると言っても過言ではありません。

今、私の手元には第５７号を含む５１冊の研究紀要がありますが、どの１冊を手にとっても研究主題を踏まえて子供たちのそして特別活動に関心を持つ先生方の役に立つ特別活動の充実・発展に取り組んでいる各活動部の成果や労苦加えて研究半ばにしてご他界された先生の顔が思い出される貴重な歴史簿です。「集録」から「紀要」とネーミングを変えたのも研究団体としての自信と誇りの表れであり、学校行事研究会として独立していた学校行事を学級活動部、児童会活動部、クラブ活動部と並んで学校行事部として誕生させ、４活動部の１つに位置付けたのも本研究会を充実発展させる狙いからでした。なお、本会の紀要は現在も各学校に１冊配布されていますが、かつては発表会当日、各区市町村の理事さんが受け取りに来ていたのです。９０ページの冊子ですから学校数の多い区市町村の理事さん方に大変な思いをさせていたわけで今でも申し訳なく思っています。

本会の益々のご発展と会員の皆様のご活躍ご健勝を祈念して挨拶とします。

都小特活を支える三つのワーク

第 28 代会長　川嶋　武司

東京都小学校特別活動研究会（以下、都小特活）創立６０周年おめでとうございます。新型コロナウイルス感染症が、未だ終息の兆しが見えない昨今です。都小特活　秋山　美栄子会長はじめ会員皆様には、お元気でご活躍のことと拝察いたします。他の都小研の追随を許さない我が都小特活の会員皆様の献身的な活動を支えるものは何か、三つのワークについて述べてみます。

第一は全員のチームワークの素晴らしさです。学級活動・児童会活動・クラブ活動・学校行事の４つの部会による研究推進は正に部員の団結及び共同作業なくしては遂行できません。部員相互が研究主題に向けて授業実践を中心に意欲的に取り組まれ、その過程で自ずとチームワークが醸成されることを小生自身も体験しました。コロナ禍において行動制限がある中、部員相互の強固な絆を願います。

第二は都小特活の役員・部員のネットワークの充実です。特に四つの活動部会を支える連絡組織が機能発揮することで研究・実践等が途絶えることなく継続します。そして活動部会を物心両面で支援する庶務・会計・研究・事業・編集の五つの業務部の連絡組織網は、研究紀要、会報等の全都への配布を例にとっても歴史と伝統そのものであり誇りです。

第三は会員のフットワークの良さです。私が会長時の関係役員・部員皆様の活動で、どんなことにも素早い対応をされる場や機会に幾度も出合い、感謝の念で一杯でした。多分各所属校・地区での関係者、関係機関等に対する言動の実績が都小特活でも十分に生かされたと確信しています。今後どんなピンチでもチャンスに変える迅速な対応を期待します。

まだ続くウィズコロナ時代においても常に安全・安心を心掛けられ、会員の皆様のご活躍と本会のますますのご発展を心からお祈りし、創立６０周年の祝意といたします。

６０周年に寄せて

第 29 代会長　小野　莞一

２０２２年夏、甲子園優勝校仙台育英の須江監督の「青春って、すごく密なので・・」という言葉が強烈に国民の胸に響きました。

コロナ下の学校現場は大変ご苦労をされていると聞きます。運動会も修学旅行もない学校生活は想像できません。在校生や来賓のいない卒業式、マスクでお互いの表情のよめない学級会はどうだったのでしょうか。そんな状況でも都特活は活動を継続されています。皆様の努力に敬意と感謝の気持ちでいっぱいです。

遡る４月、成年年齢が１８歳になりました。１４０年ぶりの民法改正ですが、様々な課題があります。その一つが投票率の低さなどの政治参画意識が乏しい事です。一因は今までの教育にあると思います。「自己を生かし、社会に参画する力こそ小学校特別活動から育てていかなければ」と反省をこめてそう思います。

さて、私が学級会活動部員だった頃、研究紀要の原稿は手書きでした。研究部長の時代にはワープロ、A版化しましたが、校正は深夜に及びました。当時、学級会の助言のあり方一つでも様々な考え方がありました。しかし、自由に意見を述べ、異なる考えを尊重しつつ研究していくことは喜びでした。何度も学習指導要領は変わりました。どんなに時代が変わろうとも特別活動の基本は「なすことによって学ぶ」ことです。国の方針を受け、現場でどう生かして行くかが使命の一つですが、同時に現場から発信する力も大切です。

『継続は力なり』という言葉があります。17 代会長の小野　眞澄先生や先輩たちから頂いた励ましの言葉です。現職の皆さんにもこの言葉を贈ります。

私の都特活での２０数年は、多くの人々と出会い、すばらしい授業に参加できた人生の宝物 :「都特活での青春は密」でした。

通奏低音の響き・・全ての教育活動を支える基盤

第 30 代会長　藤縄　清

２００８年に退職してから、十数年、現場の先生方の授業を通じて１２０件ほどの実践を見せていただき、共に学ばせていただきました。自分が現役の時よりも質の高い学級活動の授業に感動することが多くありました。特活で、望ましい実践ができるようになったら、その方法を学年に、そして学校全体に広めて継続的に学校の教育活動を高める力になっていただけたらと思っています。特別活動に限らず、他の教科の研究も実践も「限られた時間」の中で進められています。1 単位時間の「授業」として行うからには、密度のあるものにしていきたいものです。

今、改めて振り返ってみて、一つ心を痛めてきたことがあります。学習指導要領で「主体的・対話的で深い学び」が求められていますが、学級の中には、「話し合う」ことなんか好きではない児童が少なからずいます。学級会では、当初、全体の空気が読めて、気の利いた意見を言える児童が話合いをリードしていきますが、学級会で一度も発言せずに座っている子がいたら、「今度は発言してみようね。」とすぐに求めるのではなく、「よくお話を聞いていてえらかったね。」と、認めてあげてください。また、学級会のグッズ作りなどを任せるなどして活躍の場を与えてみてください。「みんなの学級会」にするには、このあたりから先の育て方が大切ではないかと思っています。特別活動の基盤がしっかりしている学校には、深い響きがあるように思います。バロック音楽の通奏低音のように、豊かに、温かく鳴り続けることを願っています。

不登校と特別活動

第 31 代会長　鹿海　治

東京都小学校特別活動研究会創立６０周年、誠におめでとうございます。

昨年度不登校小中学生が約２４万５千人（昨年から約５万人増）で過去最多となったことが文部科学省の調査で判明し、教育現場の大きな課題となっています。

今回の急増した理由は、様々なことが考えられますが、一つにはコロナの影響で漠然とした不安や生活リズムの乱れも要因になって不登校が増えていると考えられます。生活リズムが乱れやすく交友関係を築くことが難しくなり、登校意欲もわきにくい状況となってきています。

二つ目として、友人と遊ぶ時間が減り、部活動、様々な行事が減ったことで人間関係が作りにくくなってきたことも要因と考えます。人間関係の希薄さ、集団での問題解決能力の未熟さなど、子供の社会性や自律性が十分育っていないことがあげられます。このことを解決するには、子供にとって豊かな生活体験や社会体験を学校や地域社会に復活させるとともに、人とのかかわりを意図的・計画的に行う「特別活動」の果たす役割が一層重要であり、どの学校、学級でも確実に実践を広めていくことが極めて大切であると考えます。

三つ目としては、学校が楽しくないと思う子供が増えてきています。今まで楽しみにしていた学校での学習が少なくなってきています。遠足や修学旅行や運動会、学芸会などの学校行事の縮小や中止、給食中の会話を控える黙食が徹底され、体育の授業では身体接触が制限され、グループ活動も少なくなり、人と触れあう場面が急速に減ってきています。これらの問題を解決するには、子供が楽しいと思える学校づくりを工夫することや、学校と学校外の力を結集して子供の居場所作りを工夫する必要があると考えます。

特活の心　永遠に

第 32 代会長　井上　和芳

創立六十周年　誠におめでとうございます。

この度の周年記念事業に当たり、皆様方のご援助・ご協力に深く感謝する次第です。

私が会長職を務めた平成２０年度は、前年に新小学校学習指導要領が公示され、次年度より移行措置の実施、特別活動の先行実施をする前年でした。その過程で示された特別活動の課題に正面から取り組んでいかなければならない一年でした。

これらを踏まえて、前年度定めた研究主題「自立を促す望ましい集団活動の創造」を継続し、学習指導要領改訂の趣旨を捉えた研究内容の充実を求めていきました。年間を通して、４つの活動部は昨年の研究の上に立って、研究主題に迫る視点［人間関係を形成する力］［社会に参画する力 ］［自治的能力］を追究し、よりよい授業のあり方を目指して取り組みました。そして、例年通りその一年間の研究内容を紀要としてまとめ､研究発表大会で提示して全都の小学校に対して研究の一端を伝えました。

このように都小特活は創立以来、会員相互で研究実践を積み上げ取り組んできております。このことは、歴代の会長先生を始めとする会員の努力精進、そして、それを惜しみなく支援された東京都教育委員会をはじめ、各地区の教育委員会及び理事の皆様、ご指導くださった講師の先生方、各会場校の校長先生方、教職員の皆様方、これら全てが織り合わさって作り出した輝かしい成果であると思います。

こうした都小特活の輝かしい歴史を礎に、特活の心を心として、更により優れた「都小特活」に向かって、新たなる出発の第一歩を踏み出してほしいと念じております。

祝創立６０周年にあたり

第 33 代会長　棚田　政治

東京都小学校特別活動研究会、創立６０周年、誠におめでとうございます。

多くの先達に導かれ、３３代会長を務めさせていただきました。私にとって、特別活動研究会での活動は、教育実践の礎であり、教員生活の財産です。今日でも、先輩方や当時の研究仲間に支えられ、若手教員の育成にあたらせて戴いております。創立６０周年にあたり、これまで本研究会を支えて戴きましたみなさま方に心から感謝申し上げます。

さて、ＡＩやＩｏＴなどの急激な技術の進歩により、社会が激しく変化し、多様な課題が生じている今日、特別活動が担う役割も注視されています。

新学習指導要領において育成を目指す資質･能力のうち､「学びに向かう力､人間性等」については、主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力や自己の感情や行動を統制する力、よりよい生活や人間関係を自主的に形成する態度を育成することされています。また、児童生徒が学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要としつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ることとされています。

このように急激に変化する時代の中で、育むべき資質･能力に必要な改革を躊躇なく進めることで、従来の日本型学校教育を発展させ、「令和の日本型学校教育」を実現させることが喫緊の課題です。

そのためにも、自立を促す望ましい集団活動を創造する特別活動を推進することが期待されています。共に力を尽くしましょう。

結びにあたり、本研究会のますますの発展を祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。

創立６０周年記念に寄せて

第 34 代会長　藤本　仁

東京都小学校特別研究会「創立６０周年」誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。さて、今年２月に頂いた第５８号の研究紀要の「研究収録・研究紀要一覧」から、そのテーマを見ると昭和３９年度の草創期から４０年代は、特別活動の指導計画や教育課程に関わる内容で、それ以降は、特別活動で育む人間性（資質・能力）や集団活動の指導の在り方が主な内容になっています。このことは、その時代に求められる人間としての本質につながる内容であると捉えることができます。このような研究活動の歴史の中で、私自身は昭和５５年ころから都小特活に関わらせていただき、その当時は第 23 代会長の米本　滋雄先生が「学級指導部長」(現在の学級活動（２）（３）に当たる内容）で、多大なご指導をいただきました。特に、「自分や学級生活の良さに目を向け、さらに伸ばす」という指導方法を追究したことを思い出します。

現在の子供たちは今後、少子高齢化等の人口の偏りなど、変動性、不確実性、複雑性、曖昧性の時代（「VUCA」の時代）を迎えることになります。そのような時代に「持続可能な社会の創り手」となるよう、学校や地域社会の一員として、自らの個性を生かし幸せに生活でき、誰一人取り残されず、一人一人の可能性が最大限に引き出すようにする。他者への共感や寛容性、多様性を尊重する態度、人間関係を築く力、異なる考えの人々と議論を重ねながら問題を解決していく力などの育成を目指した特別活動の充実と発展を本研究会が中心となり推進されることを期待いたします。

最後になりますが、秋山　美栄子会長はじめ部員の皆様による６０周年記念の企画に感謝するとともに今後のご活躍を祈念し、お祝いの言葉に代えさせていただきます。

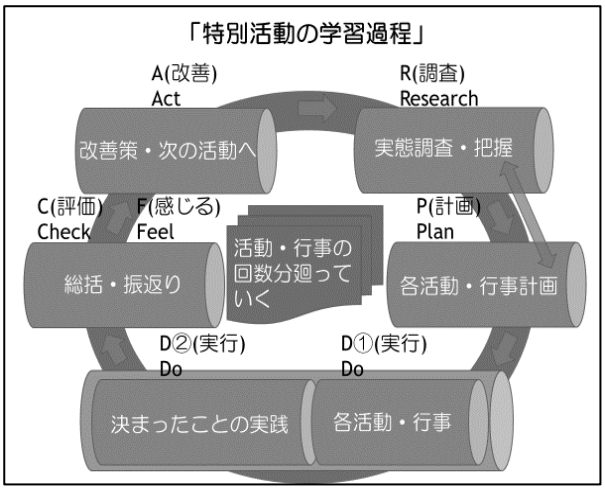
特別活動と主体的・対話的で深い学び

第 35 代会長　長田　信彦

東京都小学校特別活動研究会、創立６０周年、誠におめでとうございます。本研究会に育てていただいた私としては、自分が小学校に入学した年に設立された本会の諸先輩方に深く感謝を申し上げる次第です。

さて、大学の授業改革を求めて、文部科学省が提唱した「アクティブ・ラーニング」。小学校学習指導要領では「主体的・対話的で深い学び」に変わりました。

特別活動においては、従前より各活動部と学校行事部において「主体的な学びから、話合い活動を進め、個々の自己実現を図っていく」という考え方を根底に研究に取り組んできたと思います。今後もこの方向性は、変わらないと考えています。ここで一つ課題となるのは、各活動・行事において、子供たちの学びという観点から「P・D・C・A サイクル」を意識した学びの場として深く追究してきたのかということであります。言い換えれば、学びの質を高めるための取り組みといってもいいでしょう。



私たちは、能動的な学びの実現を目指して、「問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう」子供たちの姿をより追い求めていく必要があるのではないでしょうか。

都小特活の更なる発展を祈念しております。

祝６０周年　心からありがとうです。

第 36 代会長　若林　彰

東京都小学校特別活動研究会、創立６０周年おめでとうございます。

私の人生にとって、都小特活は無くてはならないものです。私が都小特活にお世話になって４０年ほどになりました。その４０年の中に、たくさんの先輩方、後輩達をはじめとした仲間達と出会うことが出来ました。それは私にとってかけがえの無い財産です。

都小特活にお世話になり始めた頃、多くの先輩達にたくさんの事を教えてもらいました。あんなに生意気で、結局のところ、特別活動のことはちっとも分かっていない私の話をいつも笑顔で聞いてくれて、その上で、先輩方は丁寧に実践を語られ、基本的な考え方を説いてくれました。「特別活動の理論なんて分からないし、必要感を感じない」なんてことを言う私に、「若林さんの進めている実践、それが理論だよ、そのまま言葉にまとめてみるといいんだよ」そんなことを教えてくれました。今でも胸に突き刺さっています。一ヶ月に一回程度の協議会後に盃を酌み交わしながら特活のことを語り合うのが、当時の至福の楽しみでした。後輩のみなさんにも心から感謝しています。みんなでたくさんのことを語り合いました。当時新卒２年目という先生、大塚の駅前のお店で、二人でお店のビールを呑み尽くすまで、語り合ったのも楽しい思い出です。その後、私は教育行政に出てしまい、学校の特別活動の実践の場からは物理的に離れてしまいました。でも、みなさんが私に声をかけてくださり、夜の呑み会だけに参加なんてことも何度かありました。おかげでなんとか特別活動の実践について行くことが出来ました。本当に感謝の極みです。現在も都小特活の仲間の皆さんのお力を借りて生活しています。これからもです。心からの感謝です。

創立６０周年　おめでとうございます

第 37 代会長　関　幸治

東京都小学校特別活動研究会の創立６０周年、誠におめでとうございます。
私が都小特活に入ったのは、採用４年目に当時在籍していた青南小学校の中川　秀男先生にお誘いを受けたのがきっかけでした。当時の港区特別活動部は部員が少なく６人に満たない人数で活動をしていました。そういう中で都小特活に出て様々な情報を手に入れ、それらを部の研究に取り入れたり、自校の特別活動の充実に役立てたりしました。研究員の募集も４～５年に一度しか区に回ってこず、研究員になりたくてもなれない時期でもありました。

役員として活動をし始めたのが庶務部でした。皆さんの研究活動が円滑に進むように他の庶務部員と協力しながら活動を進めました。年ごとに少しずつ各研究部の部員も増え、研究の充実ぶりがよくわかりました。毎年の研究発表大会では、各研究部ともにその研究の成果を分かりやすく、来場の方々の印象に残るように工夫し発表されていたこと覚えています。

今、特別活動が目指す「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の育成は、これからを担っていく子どもたちにとってとても必要とされるものです。特別活動を中心に据え指導していくことも大切ですが、全教育活動においてもこの視点をしっかりもっておくことが重要なのです。どの学級、どの学年、どの学校でもこの視点をしっかりとらえ、子どもたちの教育に当たっていけば、人間性の充実した人となりうると確信します。特別活動に携わる皆さんには、このことを各校でしっかり示し伝えていくという使命があるとい思います。ぜひこれからも研究を進め、力を合わせて課題の解決に向け力を発揮してください。東京都小学校特別活動研究会のますますの充実と発展を祈念しております。

東京都小学校特別活動研究会創立６０周年に寄せて

第 38 代会長　上野　研二

東京都小学校特別活動研究会創立６０周年おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。昭和 39 年度以来、毎年授業研究のもと研究発表会を行い、会報・研究紀要を発行し続けていることは素晴らしいことです。私も研究紀要を手にする度に、「今までの研究集録・研究紀要一覧」を確認する一人です。研究主題を読み返しては、その時代の教育界の動向に正対し、学習指導要領の改訂に対応した研究を積み重ねてこられた先輩方のご努力への感謝と、実践を通して研究課題を深めより質の高い特別活動の創造と全都への普及に取り組み続けている本研究会の存在を強く感じてきました。

私は、昭和５０年代後半の学級指導研究部の授業研究会への参加を契機に、学級活動部、学校行事部でご指導・ご支援をいただき、特別活動の魅力を体感してきました。特に、宿泊研修会において、会長先生はじめ、素晴らしい先輩の先生方から、特別活動の体幹と言える「為すことによって学ぶ」の方法原理を児童の活動と変容の姿、教師の姿勢をもとに伺い、私自身の特別活動指導力と教師力の糧としてきました。とりわけ、コミュニケーション力・話合い力「相手の身に心が行き届き、言葉が伝わるコミュニケーション」は、今も人間的成長の基盤、エネルギーとなっております。職層や立場に応じて、「心と言葉が行き届けば、人（児童・教職員・保護者等）が生きる、組織（学級・学年、学校、地域社会等）が活きる」と実感してまいりました。現役退職後も、東京都教職員研修センター等において研修者の先生方や教員を目指す東京教師養成塾の大学生に、特別活動の重要性や魅力を啓発・伝えてまいりました。微力ではありますが特別活動の発展に貢献できたこと、本研究会に対するご恩返しができたことと自負しております。創立６０周年にあたり、秋山　美栄子会長のもとますます本会が発展しますこと、会員の皆様のご活躍と子供たちの幸せを祈念申し上げます。

やわらかに

第 39 代会長　石井　友行

東京都小学校特別活動研究会との関わりは、私が初任初異動で着任した学校で特別活動主任を任せられたのがきっかけでした。学級会の指導もまともにできていなかったのに、代表委員会の指導を任されました。その時初めて、特別活動の学習指導要領解説書を買ったのを覚えています。でも、それを読んでもよく分からない。書いてあることは理解できるのですが、具体的なことがイメージできない。そこで、教えを乞うために訪れたのが東京都小学校特別活動研究会児童会活動部でした。若林　彰先生をはじめ、今でも交流が続いている先輩がそこにはいました。代表委員会の指導を含めて、特別活動のイロハについて教えていただきました。

ありがたかったのは「こうあるべき」ではなく、「こうしたらどう？」というスタンスです。それは今でも変わっていないと思います。失敗を重ねながら、ゆっくり、ゆっくり進んでいく私をやわらかに受容し、見守ってくださっていたと思います。それから４０年近い時間が流れました。振り返ってみれば人との出会いが私の成長の糧になっていたことは間違いありません。同じ東京都の教員でありながらその多様性はおもしろいし、刺激的です。それを受け止めるフレキシブルな組織もすごい。

Society5.0 にむけて特別活動の価値は高まることはあっても低くなることはありません。「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」。皆さんの取組が日本の未来づくりに重要な意味をもっていることを忘れないでください。ゆっくりでいいし、途中で休んでもいいし、回り道をしたっていい。歩みを止めないでください。「健康第一、笑顔が一番」を合言葉に東京都小学校特別活動研究会の研究実践がこれからも進むことを願っています。

創立６０周年によせて

第 40 代会長　山口　祐一

創立６０周年おめでとうございます。ちょうど、私が小学１年生に入学した年に東京都小学校特別活動研究会が生まれたことになります。本会の歴史は、私自身の学校生活と重なることにご縁を感じます。

思い起こせば、初任校で校長先生と先輩から区だけでなく東京都でも特別活動の勉強をすることの大切さを説かれ、恐る恐る年度初めの会に参加しました。当時は、学級会、学級指導、児童会、クラブの４部会でした。学級会部会に参加し、あたたかく迎えていただきました。まさに望ましい集団活動でした。次の年には、研究授業の機会をいただきました。「なすことによって学ぶ」の指導原理を十分に理解していないような状態でしたが、子供たちにたすけられました。講師の古橋　宏先生はじめ歴代会長先生、先輩方にご指導を賜り、少しずつ私の学びが始まりました。

昭和の終わりには、一度学級会部の宿泊研修会がありました。日中の研究はもちろんですが、夜の部では、歌あり、語りありでさらに盛り上がりました。楽しい思い出です。

平成５年には、学級活動部長を任ぜられ、部員の皆様に助けられながら７年間務めることができました。その後、庶務部長を経て会長を務めさせていただきました。副会長をはじめ各部長、部員の皆様には、感謝申し上げます。時には熱い議論になる研究会、一層の親睦が深まった宿泊研究会。すべてが素敵な思い出です。東京都小学校特別活動研究会で学んで本当によかった、と心から思います。

現在、玉川大学で学生と特別活動の授業を進めていますが、学級会の思い出を生き生きと話せる学生がわずかであることは残念です。主体的、対話的で深い学びである特別活動は子供たちの成長には欠かせません。現役の皆様の一層のご活躍と本会の益々のご発展をお祈りいたします。

「創立６０周年おめでとうございます。」

第 41 代会長　清水　晶子

東京都小学校特別活動研究会創立６０周年おめでとうございます。

現職を退いて初めての秋、創立６０周年を迎えられたとのお便りを頂き、微力ながら４１代会長になったこと、そもそも長い教員生活で東京都小学校特別活動研究会に身を置き、多くの先生方と出会い研究に真摯に向き合った時間があったことをかけがえのない時間だったとしみじみと感じています。

私と特別活動の出会いは、新規採用４年目の３学期、都小特活で活躍していた同じ区の〇先生の学級会の授業でした。議題名は「文集をつくろう」。子供たちが、教師の手を借りずに、出た意見を整理しながら決めていく、衝撃でした。子供が自分たちの力で決定していく学級会を目指したい、あのような雰囲気の学級を創りたい。それから区教研の特別活動部に入り、研究授業を引き受け、次の年には憧れの都小特活部の門を叩きました。それから退職するまでの教員生活が常に特別活動とともにあったこと、管理職になってもそこが揺るがない軸となったことは、自分の強みになりました。そして、なにより現職を退いても語り合う仲間、伝える後輩がいることも幸せです。

特別活動に出会ったことは、幸運でした。

昨今、多様な価値観、学校教育のあり様が大きく変わり、その上、コロナ禍で密になる特別活動の醍醐味が敬遠されがちです。「みんなで決めて、力を合わせて楽しむ、やり遂げる」こと自体が「ウザい」「ダサい」「メンドウ」と一蹴される風潮も気になります。「みんなで額を寄せ合い、膝を突き合わせて決め、力を合わせて、なかよく実践する。」この楽しさを是非、次の世代を担う子供たちに多く経験させたいものです。６０周年をむかえるに当たって都小特活の先生方には特別活動の意義・大切さを多くの先生方に伝え、広げてほしいと切に願います。

創立６０周年　おめでとうございます

第 42 代会長　赤羽根　智

＜私と都小特活との出会い＞新採として赴任した多摩市立東永山小学校。そこで第１１代会長・外村　近先生との運命的な出会い。ここから私の“特活人生”が始まりました。２校目の千代田区立西神田小学校では、第１５代会長佐藤　弘先生のもとで、都や区でたくさん特活の授業をさせていただきました。7 校目の練馬区立光が丘春の風小学校では、第 35 代会長・長田　信彦先生に前年度の副校長として仕え、管理職の立場での特活を学ばせていただきました。都小特活で、歴代会長先生をはじめ本当に多くの先輩方に様々な場面でご指導・ご助言を賜りました。感謝の念でいっぱいです。

＜研究部員、役員として＞研究部では、旧学級会部、旧学級指導部、学校行事部、クラブ活動部と４つの部会で多くの部長先生を始め、部員の方々に学ばせていただき、「研究授業はやった者勝ち！」を実感。「都小特活の研究は“個人の研究”ではない。使命は『広める』こと。誰にもできるように一般化すること。」「『特別活動は子供に自由にやらせること（放任)』という誤解を招かないようにすること。」等、基礎を身に付けることができました。そして長きにわたり仕事をさせていただいた編集部。取材、原稿依頼・回収、会報発送等を通して、各地区の先生方とのつながりも深まりました。本当にお世話になりました。

＜都小特活の益々の発展を祈念して＞特活で育む【人間関係形成力、社会参画力、自己実現力】は、大人、教師にも育みたい力です。『天之所以與我者、豈偶然哉（蘇洵)』―これは私の座右の銘です。今、自分がやっていることはすべて与えられた使命と受け止め、力を尽くすことが大切との意です。会員の皆様、一人一人の使命感が都小特活のさらなる発展につながると信じています。

都小特活研究会創立６０周年をお祝いして

第 43 代会長　小島　みつる

東京都小学校特別活動研究会　創立６０周年おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

１８年間の教諭時代のほとんどを校内での特活部に属し、児童会活動を担当することが多くありました。恥ずかしながらその頃はまだ、研究活動としては、理論は二の次でとにかく実践・実践・実践の日々でした。どうしたら、全校の子供たちに自分たちの学校生活を振返らせ、よりよくするために必要なことに気付かせ、話合いの場で表現させられるか･･･。そんなことを特活部の仲間で夜遅くまで語り合っていました。今から考えれば赤面の至りとしか言いようがないのですが、指導主事として研究員特別活動部の担当となったとき、学習指導要領をはじめ多くの書籍を必死に読み込んだことが懐かしく思い出されます。ただ、理論を読み込んでいく中で、それまで自分が実践してきたことは間違っていなかった、ということにも気付けました。

第３６代会長の若林　彰先生からお声かけいただき、都小特活研究部の一員として若林先生をはじめ多くの先生方にお世話になりました。都小特活部員の皆さんのレベルの高い実践を多数見せていただく機会を得ることができ、研究への熱い思い、優れた実践から本当にたくさんのことを学ばせていただきました。令和元年度、諸先輩の方々、多くの先生方に支えられ、第４３代会長を務めさせていただき、新型コロナが猛威を振るう直前の２月に発表会を終えることができました。発表会の２週間後､緊急事態宣言が出され全国全ての学校等が休校になり､そこから特別活動逆風の時代が始まり、今に至っていると言えます。しかし、コロナ禍でも研究の火を消さず、様々な創意工夫を重ねながら活動を進めてこられた都小特活研究会の皆様に心から敬意を表します。私も、微力ながら校長会や区教委から場を与えていただく際には「今こそ特別活動を！」を伝えてきました。

人の６０歳と言えば「還暦」にあたります。還暦とは干支が一巡して戻ることから、第二の人生に生まれ変わる、新たな始まりという意味もあるそうです。コロナ禍での「今こそ特活を！」の思いが高まる中、都小特活研究会の活動も、今後ますますの充実発展を遂げていかれることを祈念しております。

創立６０周年おめでとうございます

第 44 代会長　木田　明男

創設以来半世紀以上にわたって特別活動への熱き情熱に支えられ、質の高い特別活動の授業の創造と普及に取り組んできた本会が創立６０周年を迎えたことに改めてお祝申し上げます。

私が会長を務めていた令和２年度は新型コロナウイルス感染症の感染が広まり、誰もが経験したことにない困難な状況が始まった時でした。

しかし、そのような中、各学校で先生方がいろいろな工夫をして、子供たちの活動が止まらないよう、今だからこそ出来ること、やらねばならないことを整理しながら実践していきました。例えばサイレントディスカッションとして一切無言で、ホワイトボードや付箋の活用などで意見交換の工夫をし、GIGA スクール構想の急速な普及でオンラインによるディスカッションが始まりました。タブレットを活用して他校との交流を行った事例もありました。

さて、アフターコロナの特別活動はどうなるでしょうか。ＩＣＴを活用して新発想、新しい様式でさらに活動を広げていきたいものです。改めて「なすことによって学ぶ」特別活動の果たす役割が見直されるのではないでしょうか。

研究活動を進める上では「３密を避ける」などの新しい行動様式に倣い、定例会や各研究部会はメ

ールやリモートコンテンツ等を活用し、参集回数を減らしました。新たにホームページも開設し、従前のブログから内容の充実を図り情報の発信を活発にできるようにしました。

これからも「よりよい人間関係づくり、よりよい生活づくり、よりよい自己実現」を図ることを相互に関連させながら、特別活動における資質・能力を育てて参りましょう。

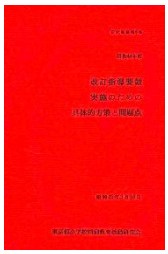
都小特活６０周年　おめでとうございます

第 45 代会長　　岡野　範嗣

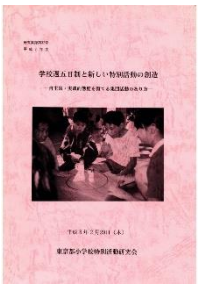
去る１２月９日金曜日に現在勤める大田区立入新井第五小学校にて、国研および大田区教委の研究校として、特別活動の研究発表を行わせていただきました。校長として特別活動を学校経営の柱に据え、児童の育成に当たって来たことの集大成と言える発表会です。また、長年にわたり特別活動を学んできた私にとって、この研究発表は教職生活の最後の目標でもありました。その基礎・基本となっている特別活動の考え方や知識こそが、都小特活で積み上げてきた数々の学びであることに間違いはありません。素晴らしい先輩方の教えや、仲間と共に時間をかけて研鑽を積んだ一つ一つの経験を、現任校の教職員に伝え広めることによって、子どもたちが、そして学校が良くなっていく様を実感させたかったのです。はじめは学級活動の（１）（２）ってなに？といった遣り取りをしていた教員らも、この３年で様々な知識や経験を積み、子どもの持つ可能性を上手に引き出す指導力を身に付けていきました。前視学官の杉田先生が「特別活動をしっかりやっている学校は、子どもも学校もよくなる」とお話しされていたことが現実となる様子を、この目で確かめることができたことが、校長としてのなによりの喜びであります。その研究発表会の最後の謝辞の中でこのような話をさせていただきました。

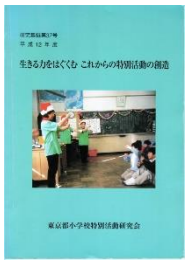
「現在の教育現場は、デジタル化が進み様々な学習の習得においてＩＣＴ機器が効果を上げています。このような状況下ではありますが、ある意味アナログな世界である特別活動もぜひ大切にしていただきたい。特別活動が大事などとおこがましいことは申しません。しかし、特別活動も大事。ということを一つ覚えてお帰りいただきたいです」と。いつの時代も、子どもたちは仲間と話し合って物事を解決し、仲間との関係をより強いものにしていきます。この普遍ともいえる特別活動のもつ力を都小特活で幅広く正しく伝え､今後の研究をさらに実りあるものにしていただければと願っています。都小特活　創立６０周年　誠におめでとうございました。

都小特活６０年のあゆみ

年度		代	会長	副会長	学級会部長 (学級活動)	児童会部長	グラブ部長	学級指導部長 学校行事部長
昭和37年度	東京都小学校特別活動研究会設立	初	高杉 新作					＊
昭和38年度								＊
昭和39年度	【研究主題】 特別教育活動における指導計画作成上の諸問題 ・研究収録第１号が作成、発刊される。 ・会報「都特活１号」発行 （研究集録第１号） 	2	斉藤 敏夫	保科 明敏 鈴木 清男	佐藤　堯	奥田　勉	宮坂 岩男	＊
昭和40年度	【研究主題】 特別教育活動の本質をふまえた指導計画のあり方 			保科 明敏 鈴木 清男	佐藤　堯	石田　岬	宮坂 岩男	＊
昭和41年度	【研究主題】 特別教育活動の本質をふまえた望ましい指導計画と実施計画			保科 明敏 鈴木 清男	渋谷　昇	外村　近	高橋 之子	＊
昭和42年度	【研究主題】 望ましい指導計画による実践事例とその考察（１年次）			保科 明敏 鈴木 清男	渋谷　昇	外村　近	高橋 之子	＊
昭和43年度	【研究主題】 望ましい指導計画による実践事例とその考察（２年次）			保科 明敏 鈴木 清男	岩下 紀夫	外村　近	高橋 之子	＊
昭和44年度	【研究主題】 改訂指導要領実施のための具体的方策と問題点（１年次） 	3	保科 明敏	鈴木 清男 岩瀬 俊助	岩下 紀夫	外村　近	岩園 敏明	＊
昭和45年度	【研究主題】 改訂指導要領実施のための具体的方策と問題点（２年次）			鈴木 清男 岩瀬 俊助	岩下 紀夫		岩園 敏明	(学級指導部長)
昭和46年度	【研究主題】 新教育課程実践上の諸問題 ・新学習指導要領実施（調和と統一） ・特別教育活動から特別活動へ ・学級指導部新設			鈴木 清男 山田　明	岩下 紀夫	松野 彰夫	岩園 敏明	佐藤　弘

昭和47年度	【研究主題】 教育課程実践上の諸問題	4	山田　明	武田 吉男 白井 健二	佐藤 正雄	松野 彰夫	岩園 敏明	佐藤　弘
昭和48年度	【研究主題】 特別活動と他領域との関連	5	白井 健二	飯田 清男 久納 六郎	佐藤 正雄	松野 彰夫	岩園 敏明	石川 和男
昭和49年度	【研究主題】 ひとりひとりを生かす特別活動の特質と指導のあり方（１年次）			久納 六郎 立川　弘	門倉 昭三	松野 彰夫	岩園 敏明	石川 和男
昭和50年度	【研究主題】 ひとりひとりを生かす特別活動の特質と指導のあり方（２年次）			久納 六郎 立川　弘	門倉 昭三	松野 彰夫	岩園 敏明	石川 和男
昭和51年度	【研究主題】 ひとりひとりを生かす特別活動の特質と指導のあり方（３年次） 			久納 六郎 立川　弘	笠井 光夫	松野 彰夫	小川 國壽	安岡 正凱
昭和52年度	【研究主題】 楽しく充実した学校生活をめざす 特別活動（１年次）			久納 六郎 小島　明 小谷　威	薩日内信一	松野 彰夫	小川 國壽	安岡 正凱
昭和53年度	【研究主題】 楽しく充実した学校生活をめざす 特別活動（２年次） 新学習指導要領　移行措置１年目 （ゆとりと充実）			久納 六郎 小島　明 小谷　威	深瀬 四郎	渡辺　寿	小川 國壽	安岡 正凱
昭和54年度	【研究主題】 楽しく充実した学校生活をめざす 特別活動（３年次）	6	小谷　威	小島　明 中田 英義 広瀬 英二	高見沢豊栄	渡辺　寿	大谷 徹夫	安岡 正凱
昭和55年度	【研究主題】 豊かな人間を育てる特別活動（１年次）	7	久納 六郎	小島　明 中田 英義 広瀬 英二 外村　近	高見沢豊栄	渡辺　寿	大谷 徹夫	安岡 正凱
昭和56年度	【研究主題】 豊かな人間を育てる特別活動（２年次）	8	小島　明	中田 英義 広瀬 英二 外村　近 古橋　宏	大谷 武夫	星野 隆治	伴　貞夫	安岡 正凱
昭和57年度	【研究主題】 豊かな人間を育てる特別活動（３年次） 	9	中田 英義	広瀬 英二 外村　近 古橋　宏 斉藤　斌	大谷 武夫	星野 隆治	関口 照治	米本 滋雄
昭和58年度	【研究主題】 特別活動の特質をふまえ豊かな人間性の育成（１年次）	10	広瀬 英二	外村　近 古橋　宏 小河 一久 岩園 敏明	大谷 武夫	星野 隆治	関口 照治	米本 滋雄
昭和59年度	【研究主題】 特別活動の特質をふまえ豊かな人間性の育成（２年次）	11	外村　近	古橋　宏 小河 一久 岩園 敏明 大西　弘	大谷 武夫	今野 正保	関口 照治	米本 滋雄

昭和60年度	【研究主題】 実践力を育てる集団生活のあり方 （１年次）	12	小河 一久	古橋　宏 岩園 敏明 佐藤　弘 石川　和夫 竹石　善一	大谷 武夫	今野 正保	後藤 治司	鈴木 和子
昭和61年度	【研究主題】 実践力を育てる集団生活のあり方 （２年次）	13	古橋　宏	岩園 敏明 佐藤　弘 石川　和夫 竹石　善一	名取 幹夫	中川 秀男	塚越 正昭	鈴木 和子
昭和62年度	【研究主題】 個が生きる集団活動の育成（１年次）	14	岩園 敏明	石川　和夫 佐藤　弘 竹石 善一 岩下 紀夫	松村 二美	中川 秀男	塚越 正昭	嵯峨 悦子
昭和63年度	【研究主題】 個が生きる集団活動の育成（２年次）	15	佐藤　弘	門倉 昭三 竹石 善一 岩下 紀夫 小川 國壽	小野 莞一	中川 秀男	塚越 正昭	嵯峨 悦子
平成元年度	【研究主題】 個が生きる集団活動の育成（３年次）	16	小川 國壽	岩下 紀夫 小野 眞澄 水野　稔 松野 彰夫	矢野 裕一	佐々木善光	塚越 正昭	朝田 幸子
平成2年度	【研究主題】 望ましい人間関係を育てる特別活動の計画と実践（１年次） ・新学習指導要領　移行措置１年目 ・学級活動部新設 	17	小野 眞澄	水野　稔 松野 彰夫 小池　宏 大谷 徹夫	矢野 裕一	佐々木善光	景山　彰	＊
平成3年度	【研究主題】 望ましい人間関係を育てる特別活動の計画と実践（２年次）	18	松野 彰夫	小池　宏 酒井 澄利 沖山 重次 大谷 徹夫	矢野 裕一	佐々木善光	景山　彰	＊
平成4年度	【研究主題】 特別活動における新しい学力観と評価 （１年次）	19	小池　宏	沖山 重次 大谷 徹夫 小宮 省吾 星野 隆治	矢野 裕一	若林　彰	景山　彰	（学校行事部）
平成5年度	【研究主題】 特別活動における新しい学力観と評価 （２年次） ・学校行事部新設	20	沖山 重次	小宮 省吾 星野 隆治 米本 滋雄 小川 進一	山口 祐一	若林　彰	景山　彰	小川 進一
平成6年度	【研究主題】 特別活動における新しい学力観と評価 （３年次）	21	大谷 徹夫	小宮 省吾 星野 隆治 小川 進一 嵯峨 悦子 髙松 和彦	山口 祐一	若林　彰	影山　彰	矢野 裕一
平成7年度	【研究主題】 学校週５日制と新しい特別活動の創造 （１年次） 	22	星野 隆治	米本 滋雄 小川 進一 髙松 和彦 入佐 克子 中川 健二	山口 祐一	味村美恵子	長田 信彦	上野 研二
平成8年度	【研究主題】 学校週５日制と新しい特別活動の創造 （２年次）	23	米本 滋雄	小川 進一 髙松 和彦 中川 健二 吉仲ミチ子	山口 祐一	味村美恵子	長田 信彦	上野 研二

平成9年度	【研究主題】 学校週５日制と新しい特別活動の創造 （３年次）	24	小川 進一	髙松 和彦 中川 健二 吉仲ミチ子 櫻井 悦子	山口 祐一	高宮 良子	長田 信彦	上野 研二
平成10年度	【研究主題】 生きる力をはぐくむこれからの特別活動の創造（１年次）			髙松 和彦 中川 健二 吉仲ミチ子 櫻井 悦子 森山 裕夫	山口 祐一	味村美恵子	加藤 葉子	上野 研二
平成11年度	【研究主題】 生きる力をはぐくむこれからの特別活動の創造（２年次） ・新学習指導要領　移行措置１年目	25	髙松 和彦	中川 健二 吉仲ミチ子 森山 裕夫 松岡 治子	山口 祐一	伊藤 幸一	加藤 葉子	上野 研二
平成12年度	【研究主題】 生きる力をはぐくむこれからの特別活動の創造（３年次）  			中川 健二 森山 裕夫 久富美智子 有賀 芳子	山口 祐一	佐野　匡	加藤 葉子	上野 研二
平成13年度	【研究主題】 豊かな学校生活を創造する特別活動 （１年次）	26	中川 健二	森山 裕夫 久富美智子 吉仲ミチ子 野村みや子	篠　達司	佐野　匡	加藤 葉子	横田　元
平成14年度	【研究主題】 豊かな学校生活を創造する特別活動 （２年次）			森山 裕夫 吉仲ミチ子 野村みや子 高山 厚子	篠　達司	佐野　匡	加藤 葉子	横田　元
平成15年度	【研究主題】 豊かな学校生活を創造する特別活動 （３年次）	27	森山 裕夫	野村みや子 吉仲ミチ子 川嶋 武司 小野 莞一 重松　誠 藤縄　清	大野 和代	佐野　匡	伴　文昭	岡野 範嗣
平成16年度	【研究主題】 子どもたちの社会性をはぐくむ特別活動 （１年次）	28	川嶋 武司	藤縄　清 上原 行儀 小野 莞一 志田原節子	大野 和代	佐野　匡	伴　文昭	岡野 範嗣
平成17年度	【研究主題】 子どもたちの社会性をはぐくむ特別活動 （２年次）	29	小野 莞一	藤縄　清 上原 行儀 志田原節子 内山 壽孝 鹿海　治	大野 和代	佐野　匡	伴　文昭	岡野 範嗣
平成18年度	【研究主題】 子どもたちの社会性をはぐくむ特別活動 （３年次）	30	藤縄　清	鹿海　治 柴山　守 井上 和芳	大野 和代	浅野 正臣	大野 正人	岡野 範嗣
平成19年度	【研究主題】 自立を促す望ましい集団活動の創造 （１年次）	31	鹿海　治	柴山　守 井上 和芳 髙須 英利 棚田 政治 長岡富美子	小山 晴美	浅野 正臣	大野 正人	岡野 範嗣
平成20年度	【研究主題】 自立を促す望ましい集団活動の創造 （２年次） ・新学習指導要領　先行実施 	32	井上 和芳	柴山　守 棚田　政治 長岡富美子 松崎　勝 藤本　仁	小山 晴美	浅野 正臣	加藤 葉子	田村亜紀子

平成21年度	【研究主題】 自立を促す望ましい集団活動の創造 （３年次）	33	棚田 政治	松崎　勝 藤本　仁	小山 晴美	大藏 久美	加藤 葉子	齋藤 厚代
平成22年度	【研究主題】 特別活動で育つ子供たちの力（１年次）	34	藤本　仁	松崎　勝 小林 郁枝 若林　彰 長田 信彦	小山 晴美	大藏 久美	加藤 葉子	齋藤 厚代
平成23年度	【研究主題】 特別活動で育つ子供たちの力（２年次） ・新学習指導要領　全面実施	35	長田 信彦	小林 郁枝 若林　彰 関　幸治 宮下 徹子	小山 晴美	大藏 久美	加藤 葉子	齋藤 厚代
平成24年度	【研究主題】 特別活動で育つ子供たちの力（３年次） 	36	若林　彰	小林 郁枝 関　幸治 上野 研二	小山 晴美	大藏 久美	加藤 葉子	齋藤 厚代
平成25年度	【研究主題】 よりよい人間関係を形成する特別活動の在り方（１年次）	37	関　幸治	上野 研二 山口 祐一 梶 千枝子	大野 和代	大藏 久美	伴　文昭	吉田 有子
平成26年度	【研究主題】 よりよい人間関係を形成する特別活動の在り方（２年次）	38	上野 研二	石井 友行 山口 祐一 梶 千枝子 久保　栄	山内 大輔	大藏 久美	伴　文昭	吉田 有子
平成27年度	【研究主題】 よりよい人間関係を形成する特別活動の在り方（３年次）	39	石井 友行	山口 祐一 梶 千枝子 持田 裕代	山内 大輔	大藏 久美	中本健太郎	吉田 有子
平成28年度	【研究主題】 自己有用感を高める望ましい集団活動 （１年次）	40	山口 祐一	持田 裕代 清水 晶子 小島みつる	山内 大輔	大藏 久美	中本健太郎	原田 恵子
平成29年度	【研究主題】 自己有用感を高める望ましい集団活動 （２年次）	41	清水 晶子	小島みつる 赤羽根　智 木田　明男	藤田 寛樹	大藏 久美	中本健太郎	原田 恵子
平成30年度	【研究主題】 自己有用感を高める望ましい集団活動 （３年次） ・新学習指導要領　先行実施	42	赤羽根 智	木田　明男 小島みつる 新井 正一	藤田 寛樹	大藏 久美	髙橋 信行	原田 恵子
令和元年度	【研究主題】 集団や自己の生活上の課題を解決し、「自己実現」を目指す力を育てる特別活動	43	小島みつる	木田　明男 新井 正一 伊藤 幸一 岡野 範嗣	藤田 寛樹	大藏 久美	髙橋 信行	原田 恵子
令和2年度	【研究主題】 よりよい人間関係や生活をつくり、自己のよさを生かす特別活動（１年次）	44	木田 明男	新井 正一 伊藤 幸一 岡野 範嗣 秋山美栄子	髙橋 美衣	畑　理恵	髙橋 信行	竹田 桃子
令和3年度	【研究主題】 よりよい人間関係や生活をつくり、自己のよさを生かす特別活動（２年次） 	45	岡野 範嗣	今田 喜紀 篠遠 信行 秋山美栄子 石田　孝士	髙橋 美衣	畑　理恵	矢部　聡	竹田 桃子
令和4年度	【研究主題】 よりよい人間関係や生活をつくり、自己のよさを生かす特別活動（３年次）	46	秋山美栄子	石田　孝士 出町桜一郎 橋本　弥記	髙橋 美衣	畑　理恵	矢部　聡	竹田 桃子

令和４年度 研究の基調提案

研究部長　平松　隆行（板橋区立若木小学校長）

１　研究主題

よりよい人間関係や生活をつくり、自己のよさを生かす特別活動

２　主題設定の背景及び理由

本研究会では、下記のように、特別活動において育成を目指す資質・能力における３つの視点である「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」を研究主題に設定していき、研究に取り組んできた。平成２５年度より３年間「人間関係形成」、平成２８年度より３年間「社会参画」、そして、令和元年度より「自己実現」を柱に研究を進める予定であった。

平成２５～２７年度　　「よりよい人間関係を形成する特別活動の在り方」

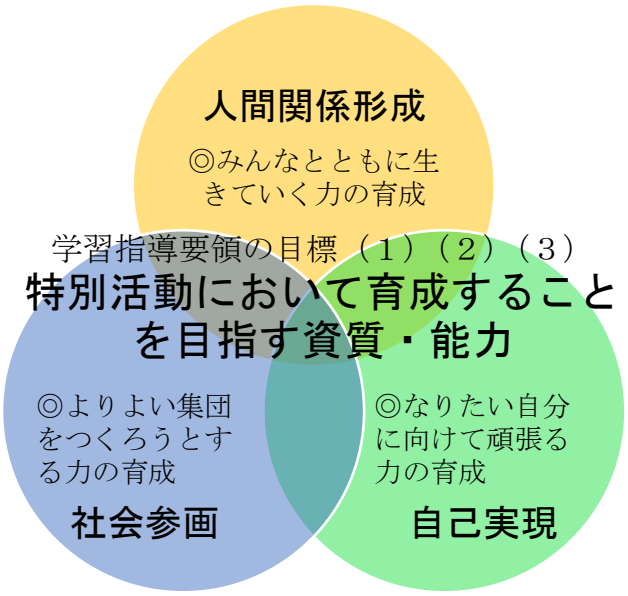
平成２８～３０年度　　「自己有用感を高める望ましい集団活動」

令和元年度　　「集団や自己の生活上の課題を解決し、『自己実現』を目指す力を育てる特別活動」

しかし、令和元年度の研究を通して、「自己実現」の捉え方や特別活動の目標などについての議論が行われ、研究主題の再検討を行った。特別活動において育成することを目指す資質・能力は、３つの視点を手がかりとしながら育んでいくことが求められている。また、その３つの視点は切り離せない相互関係にあることを再確認し、令和２年度より研究主題を「よりよい人間関係や生活をつくり、自己のよさを生かす特別活動」と修正し、３つの視点を関連させながら、学級活動・児童会活動・クラブ活動・学校行事において研究を深めることとした。

新型コロナウィルス感染予防のため、令和２年度は研究授業が行えず、研究授業を再開した令和３年度が理論・仮説検証の実質的な１年目となった。令和３年度は、各部の研究主題をそろえた上で研究仮説をたて、そのための手だてを３つの視点「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」に関連させ、整理した。

令和４年度は、理論・仮説検証の２年目にあたり、一層具体的な手だてについて研究を深めていく。



３　研究計画

①　令和元年度…仮説に基づく授業実践

〇各活動、学校行事における「自己実現」を明確にし、共通理解を図る。

〇各活動、学校行事における学習過程（課題解決）を構築する。

②　令和２年度…理論構築

〇１年目の研究を踏まえ３つの視点を関連付け、育成する資質・能力について共通理解を図る。

③　令和３年度…理論・仮説の検証（１年目）

④　令和４年度…理論・仮説の検証（２年目）

〇理論・仮説の検証のための授業実践ならびに汎用性・再現性の追究

⑤　令和５年度…汎用性・再現性のある提案

令和４年度

東京都小学校特別活動研究会研究の構想

特別活動の目標

集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、資質・能力を育成することを目指す。

（１）多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。

【知識・技能】①何を理解しているか、何ができるか。

（２）集団や自己の生活、人間関係の課題を見いだし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。

【思考・判断・表現力等】②理解していること・できることをどう使うか。

（３）自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。

【学びに向かう力　人間性等】③どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか。

特別活動で育成すべき資質・能力の３つの視点

〇人間関係形成　　〇社会参画　　〇自己実現

研究主題

「よりよい人間関係や生活をつくり、自己のよさを生かす特別活動」

各活動・学校行事の研究主題

学級活動部	児童会活動部	クラブ活動部	学校行事部
よりよい人間関係や生活をつくり、自己のよさを生かす学級活動	よりよい人間関係や生活をつくり、自己のよさを生かす児童会活動	よりよい人間関係や生活をつくり、自己のよさを生かすクラブ活動	よりよい人間関係や生活をつくり、自己のよさを生かす学校行事

＜研究の進め方＞

１　各活動、学校行事における資質・能力の３つの視点について共通理解

２　各活動、学校行事における学習過程（課題解決の過程）の構築

３　各活動、学校行事における具体的な手だての明確化

４　理論・仮説の検証のための授業実践ならびに汎用性・再現性の追究

５　汎用性・再現性のある提案

＜共通の研究の視点＞

視点１　人間関係形成

みんなとともに生きていく力を育てる指導の工夫

視点２　社会参画

よりよい集団をつくろうとする力を育てる指導の工夫

視点３　自己実現

なりたい自分に向けて頑張る力を育てる指導の工夫

令和４年度　東京都小学校特別活動研究会
創立６０周年記念　研究発表大会要項

◇研究主題　よりよい人間関係や生活をつくり、自己のよさを生かす特別活動

◇日　　時　　令和５年２月２４日（金）１３時１５分　受付開始
◇会　　場　　目黒区中小企業センター　区民センターホール
◇時　　程

13:15　13:45　　14:10　　15:35　　16:40

受付	・基調報告 ・あいさつ ・開会のことば	研究発表				講演	閉会のことば
		学級活動	児童会活動	クラブ活動	学校行事		

◇次　　第

進　行　　庶務部長　笹間伸也
（大田区立羽田小学校長）

① 開会のことば　　副会長　石田孝士
（世田谷区立芦花小学校長）

② あいさつ　　会長　秋山美栄子
（目黒区立下目黒小学校長）

③ 来賓あいさつ・紹介　　副会長　出町桜一郎
（国分寺市立第四小学校長）

東京都教育委員会
目黒区教育委員会
全国特別活動研究会
全国道徳特別活動研究会
全国小学校学校行事研究会
関東地区特別活動研究会
東京都小学校学校行事研究会
多摩地区特別活動連絡協議会
本研究会顧問・参与

④ 基調報告　　研究部長　平松隆行
（板橋区立若木小学校長）

⑤ 研究発表

司　会　　研究副部長　　田 村　亜 紀 子
（練馬区立大泉南小学校長）

	学級活動	児童会活動	クラブ活動	学校行事
テーマ	よりよい人間関係や生活をつくり、自己のよさを生かす学級活動	よりよい人間関係や生活をつくり、自己のよさを生かす児童会活動	よりよい人間関係や生活をつくり、自己のよさを生かすクラブ活動	よりよい人間関係や生活をつくり、自己のよさを生かす学校行事
部長	髙橋　美衣 （中央・月島第二小・主幹教諭）	畑　　理恵 （世田谷・芦花小・主任教諭）	矢部　聡 （世田谷・尾山台小・主任教諭）	竹田　桃子 （練馬・上石神井北小・教諭）
発表者	二本木　基 （日野・日野第五小・主幹教諭） 奥山　優子 （中央・月島第三小・主任教諭） 川村　容平 （町田・七国山・主任教諭） 細貝　俊稀 （立川・第五小・主任教諭）	渋井　洋子 （東久留米・神宝小・指導教諭） 鈴木　　敬太 （江戸川・春江小・主任教諭） 星野　　俊明 （江戸川・春江小・教諭） 久良木　　優有 （立川・上砂川小・教諭）	髙畠　誠 （足立・保木間小・教諭） 山口　哲郎 （葛飾・本田小・教諭）	平山　かおり （目黒・鷹番小・主任教諭） 伊勢　祐美子 （世田谷・若林小・主任教諭） 伊藤　優 （世田谷・多聞小・教諭）
記録	金澤　勇輝 （稲城・稲城第三小・主任教諭） 小野田　有希 （練馬・大泉北小・主任教諭） 土屋　菜々子 （中央・月島第二小・教諭）	丹治　　良太 （葛飾・南奥戸小・主任教諭）	島田　泰子 （墨田・曳舟小・教諭）	四本　真美 （大田・志茂田小・主任教諭） 湯沢　芽衣 （練馬・上石神井北小・教諭）
全体記録	関　拓 也 （品川・延山小・校長） 藤井　美貴子 （渋谷・上原小・主任教諭）	伊勢　祐美子 （世田谷・若林小・主任教諭）	関田　裕子 （世田谷・松原小・主任教諭）	

⑥ 記念講演

演題「よりよい人間関係や生活をつくり、
自己のよさを生かす特別活動」
文部科学省初等中等教育局視学官
安　部　　恭　子　　先生

⑦ 閉会のことば

副　会　長　　橋　本　弥　記
（国分寺市立第五小学校長）

東京都小学校特別活動研究会　ホームページ【https://www.tosho-tokkatsu.tokyo】

東京都小学校特別活動研究会（以下、「都小特活」）では、ホームページを通して、研究内容や研究会の活動の様子の周知、会報「都小特活」や研究紀要の閲覧・ダウンロード、研究授業・研究発表会の参加申込などを行っています。

トップページ

1 *トップ＆サイドバーメニュー*

メール・SNS へのアクセスができます。

問い合わせメール

都小特活 twitter

都小特活 youtube

研究発表会 研究授業 申込ページ

2 *メインメニュー*

各ページにアクセスできます。

3 *最新情報*

都小特活の最新情報がブログ形式で表示されます。twitter でも配信します。

4 *研究発表会・研究授業　参加申込*

申込フォームにアクセスします。

Ⅰ　学　級　活　動　部

研究主題

「よりよい人間関係や生活をつくり、自己のよさを生かす学級活動」

１　本年度の研究について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２６
　（１）　研究主題設定の理由
　（２）　研究の視点
　（３）　研究構想図

２　実践事例・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２８
　（１）　実践事例１　日野市立日野第五小学校 岸野　航太　教諭
　　議題「クラス運動会をしよう」

　（２）　実践事例２　西東京市立保谷小学校　小山　晴美　主任教諭
　　議題「みんなでやりたいことをきめよう３」

３　研究資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３２

４　成果と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４２

研究の経過

令和４年	５月２３日（月）	定期総会	目黒区立下目黒小学校
	６月２８日（火）	６月学級活動部定例会	中央区立月島第二小学校
	７月２５日（月）	夏季集中研修	目黒区立下目黒小学校
	９月　８日（木）	９月学級活動部定例会	中央区立月島第二小学校
	９月２７日（火）	第１回検証授業	日野市立日野第五小学校
		講師　帝京大学教職センター教育学部教育学科	
			准教授　佐野匡先生
	１０月１２日（水）	１０月学級活動部定例会	中央区立月島第二小学校
	１０月２８日（金）	第２回検証授業	西東京市立保谷小学校
		講師　有明教育芸術短期大学	
			学長　若林彰先生
	１１月２９日（火）	１１月学級活動部定例会	中央区立月島第二小学校
	１２月２６日（月）	研究紀要の内容検討・作成	中央区立月島第二小学校
令和５年	１月１２日（木）	拡大研究部会	板橋区立若木小学校
	１月～２月	研究発表大会準備	
	２月２４日（金）	研究発表大会	目黒区民センター

１ 本年度の研究について

学級活動部　研究主題

「よりよい人間関係や生活をつくり、自己のよさを生かす学級活動」

（１）研究主題設定の理由

学習指導要領解説には、学級活動は「学級生活の充実と向上を目指し、他者と協力したり、個人として努力したりしながら、自主的・実践的に取り組むことにより、活動することの楽しさや成就感・達成感を得たり、自己有用感を高めたりすることにつながる。」とある。一昨年度から本格実施された学習指導要領では、特別活動がこれまで教育課程上果たしてきた役割を踏まえて、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の３つを視点としつつ、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の３点の柱に沿って、資質・能力が整理されている。

本研究会の主題である「よりよい人間関係や生活をつくり、自己のよさを生かす特別活動」を受け、学級活動部では、「自己のよさを生かす」とは、「自分の興味のあることや自信のあることが分かること」、「自分の興味があることや自信のあることを行い、友達や学級に貢献すること」、また、「自分の思いや願いをかなえられること」、「学級の中に自分の居場所や役割があること」と捉えた。

学級活動（１）においては、学級という集団の中で、様々な問題を自分たちで見付け、解決方法について話し合い、合意形成を図る。そして、合意形成したことをもとに実践し、解決につなげていく中で、自他のよさや可能性を広げたり、活動することへの達成感や充実感を得たり、自己有用感を感じたりすることができる。

そして、その経験の積み重ねが生涯にわたって、集団や社会の一員として、また社会の形成者として、たくましく生き抜く資質や能力へとつながる。

主題を設定して３年目となる今年度は、学級活動における「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」を捉え直し、本時の活動（解決方法の話合い・解決方法の決定）における児童の言動を具体的に価値付ることを重視して、研究を推進していく。

また、評価基準を見直し、指導の充実や指導と評価の一体化を図っていく。

（２）研究の視点

視点１「みんなとともに生きていく力を育てる指導の工夫」（人間関係形成）

- 個々の活動を価値付けたカード作成と可視化の工夫
- 活動のよさを認め、価値付ける終末の助言の工夫
- 「振り返り」の時間や、振り返りカードの工夫
- 実践活動において、自分や仲間のよさを実感し、自分を見つめ直す活動の工夫

視点２「よりよい集団をつくろうとする力を育てる指導の工夫」（社会参画）

- 学級の全員が納得する合意形成の工夫
- 個々の活動を価値付けたカード作成と可視化の工夫
- 「振り返り」の時間や、振り返りカードの工夫
- 計画委員会を活性化させる指導の工夫
- 入門期の指導の工夫
- 問いかける形の助言の工夫

視点３「なりたい自分に向けて頑張る力を育てる指導の工夫」（自己実現）

- 「学級の目標」の可視化と実践への工夫
- 自分や学級全体の成長に気付く振り返りの工夫
- 「捉えておきたい『学級会』の観点」などによる実態把握の工夫
- 前回の学級会を踏まえた、次回の目標設定の指導の工夫

（３）研究構想図

今日的課題	目指す児童像	児童の実態
・互いのよさを認め合い、生かそうとする力の育成 ・様々な視点から、解決の仕方を工夫しようとする力の育成 ・自己や集団の成果や課題を様々な視点から見つめ、次に生かそうとする力の育成	・自分たちが決めた「学級の目標」の実現に向けて、学級の一員として、自分のよさや役割を自覚し行動する子（人間関係形成） ・理由を明確にして考えを伝えたり、自分と異なる意見も受け入れたりしながら合意形成を図り実践する子　（社会参画） ・よりよい学級生活づくりに向けて、すすんで自らのよさを生かそうとし、友達と協力し合いながら、活動を進めようとする子（自己実現）	・学級会を自分たちの力で進めようとしている。 ・友達と仲良く活動することを楽しんでいる。 ・自分のよさを十分に理解したり、発揮したりできていない。

研究主題

「よりよい人間関係や生活をつくり、自己のよさを生かす学級活動」

研究仮説

みんなとともに生きていく力・よりよい集団をつくろうとする力・なりたい自分に向けて頑張る力を育てる指導を工夫すれば、「よりよい人間関係や生活をつくり、自己のよさを生かす学級活動」になるだろう。

研究の視点と指導の手だて

【視点１】 みんなとともに生きていく力を育てる指導の工夫（人間関係形成）	【視点２】 よりよい集団をつくろうとする力を育てる指導の工夫（社会参画）	【視点３】 なりたい自分に向けて頑張る力を育てる指導の工夫（自己実現）
・個々の活動を価値付けたカード作成と可視化の工夫 ・活動のよさを認め、価値付ける終末の助言の工夫 ・「振り返り」の時間や、振り返りカードの工夫 ・実践活動において、自分や仲間のよさを実感し、自分を見つめ直す活動の工夫	・学級の全員が納得する合意形成の工夫 ・個々の活動を価値付けたカード作成と可視化の工夫 ・「振り返り」の時間や、振り返りカードの工夫 ・計画委員会を活性化させる指導の工夫 ・入門期の指導の工夫 ・問いかける形の助言の工夫	・「学級の目標」の可視化と実践への工夫 ・自分や学級全体の成長に気付く振り返りの工夫 ・「捉えておきたい『学級会』の観点」などによる実態把握の工夫 ・前回の学級会を踏まえた、次回の目標設定の指導の工夫

学級活動（１）における一連の学習過程

1　問題の発見・確認（①議題を学級全員で決定する。②計画委員会の中で、司会グループが当日の話合いの役割分担を行い、話合いの計画を立てる。③司会グループより、話合いの計画を知らされ、解決に向けて自分の考えをもつ。）
2　解決方法等の話合い（学級会の実践：よりよい生活づくりのために、取り組む内容や方法、役割分担などについて意見を出し合ったり、比べ合ったりしながら話し合う。）
3　解決方法の決定（学級会の実践：意見の違いや多様性を認め合い、折り合いを付けるなど集団としての考えをまとめたり決めたりして「合意形成」を図る。）
4　決めたことの実践（集会活動などの実践：決定したことについて、自己の役割を果たしたり、互いのよさを生かしたりして実践する。）
5　振り返り（①振り返りカードや、振り返りシートを活用したり、振り返りの時間を設けたりして、一連の実践の成果や課題を振り返る。②①を分析し成長を実感したり、次の課題解決に生かしたりするなど、実践の継続や新たな課題の発見につなげる。）⇒次の課題解決へ

２　実践事例

（１）実践事例１　６年　学級活動（１）

①　日時、場所、対象、授業者

授業日　令和４年９月２７日（火）　　場　所　日野市立日野第五小学校

対　象　６年１組　　授業者　岸野　航太　教諭

②　議題　「クラス運動会をしよう」

【提案理由】クラス運動会を開いて、学級全員で楽しんだり、いろいろな人と関わったりしていきたい。そうすることでクラスの団結力を高めたり友達のよさを知れたりするから。

③　一連の活動の流れ

事前の活動

・議題を集め、学級全体で話し合い、議題を決定する。
・提案理由を深め、キーワード化する。
・議題に対する意見を事前に考え、学習者用端末で共有する。
・事前に出し合って掲示していた意見カードを基に、前回の振り返りを踏まえ、一人一人が自分の考えを、学習者用端末の表計算ソフトに記入する。
・一人一人の考えを短冊に書く。黒板の書き方の確認、司会シートや学級会シートを基に話合いの流れの予想、進め方の確認をする。

本時の展開

【ねらい】　多様な意見のよさを生かして、互いのよさを認め合うためにどのような工夫がよいか話し合っている。

・はじめの言葉　・司会グループの自己紹介　・議題の確認　・提案理由の確認
・話合いのめあての確認　・決まっていることの確認　・意見の確認
・話合い（クラス運動会で全員が楽しめたり友達と関われたりする工夫）
・決まったことの発表　・話合いの振り返り　・先生の話　・終わりの言葉

【話合いの様子】

・提案理由をキーワード化したことにより、提案理由をより意識して話し合うことができた。
・解決策を、学習者用端末を活用して記したことで、話合いの流れが可視化されて、話合いがスムーズに進んだ。
・納得できない、不安があるといった意見が出たときに、すぐに改善策を考えて解決する様子が見られた。

事後の活動

・役割分担と実践への準備に取り組む。
・「クラス運動会」に取り組む。
・振り返りを行う。
◇活動を見守り、終末の助言で生かせるように記録を取る。
◇振り返りを行い、よかった点や改善点を出させる。
◇学習者用端末に振り返りを残すことにより、他の人がコメントをして互いに価値付け合ったり、反省点を次に生かせたりできるようにする。

【実践活動の様子】実施日　１０月３日（月）　５校時

・綱引きでは、メッセージを折り紙に書いて縄の後ろにつなげて、赤白それぞれが考えた掛け声で綱引きを行い、盛り上がった。
・玉入れでは、３色の玉を準備して、ポイントを変えたり、ペアで一緒に投げたりする様子が見られた。
・今回の提案理由でもあるいろいろな人と関わることで、「団結力を高めたり、友達のよさを知ったりすることができた。」などの肯定的な振り返りを聞くことができた。

④視点１～３の手だての検証・成果

視点１「みんなとともに生きていく力を育てる指導の工夫」（人間関係形成）

○個々の活動を価値付けたカード作成と可視化の工夫**【自他の考えを共有できる学級会シート】**

・学習者用端末を活用して友達の意見を事前に確認できるようにしたことで、司会グループが学級会に向けて準備しやすくなった。

・いつでも友達の考えを見ることができるので、自分の考えを深めることに役立った。また、自分の思いも伝えやすくなった。

視点２「よりよい集団をつくろうとする力を育てる指導の工夫」（社会参画）

○学級の全員が納得する合意形成の工夫

・不安な人や心配な人がいないか確認してから意見を決めるようにしたことで、一人一人の意見を大切にすることができた。

・板書や学習者用端末で意見の可視化をしたことは、全員が納得して合意形成を図る上で効果的だった。

○計画委員会を活性化させる指導の工夫**【積み重ねを意識した計画委員会ノート、記録の工夫】**

・計画委員会ノートや学級会記録を学習者用端末に残していったことで、計画委員会の引継ぎがスムーズに行えた。

・司会グループだけでなく、誰もがいつでも今までの学級会の進め方や記録を見られるように学習者用端末に残していくようにしたことで、振り返りを生かした話合いができるようになった。

○「振り返り」の時間や、振り返りカードの工夫　**【積み重ねを意識した学級会シートの工夫】**

・「自分の意見」、「めあて」、「振り返り」などを１枚の学級会シートにまとめるようにしたことで、今までの話合いを振り返りやすくなった。

・今までの自分の考えや振り返りを一覧できるようにしたことで、自分の成長に気付くことができるようになってきている。

視点３「なりたい自分に向けて頑張る力を育てる指導の工夫」（社会参画）

○学級の全員が納得する合意形成の工夫**【提案理由のキーワード化】**

・提案理由をキーワード化したことで、一人一人が提案理由を意識しやすくなった。

・出された意見を板書する際には、賛成マークと提案理由をキーワード化した短冊を貼り、意見を可視化するようにしたことで、どうして決まったか分かりやすくなった。

⑤指導講評　　講師　帝京大学教職センター教育学部教育学科　准教授　佐野　匡　先生

・校内研究として行われてきた特別活動の研究が積み重ねられている。そのため、児童が考えを発表することに慣れている。

・話合いを構造化するために学習者用端末はとても有効であった。学習者用端末の個々の技能は、様々な場面で積み重ねていくことで身に付いていく。

・記録の児童が終末の助言に合わせて操作するなど、学習者用端末をよく活用できていた。

・児童をどう育てていきたいか、どのような力を身に付けさせていきたいかを考え、明確化して指導をしていくことが大切である。

・今回は、時間が余ったので「話し合うこと」を全て話し切ったら、役割分担をしたり準備を始めたりするなどの引き出しをもっておくことが必要である。

・終末の助言を児童の振り返りの「前にするか」「後にするか」は、児童に身に付けさせたい力によって、変えていく必要がある。

・一般化できる手だてを見付け出していくことが大切である。

・話合い活動と実践活動のバランスが大切である。振り返りを確実に次の活動に生かして成長させていくことが大切である。

（２）実践事例２　１年　学級活動（１）

①日時、場所、対象、授業者

授業日　令和４年１０月２８日（金）　場所　西東京市立保谷小学校

対　象　１年３組　　授業者　小山　晴美　主幹教諭

②議題　「みんなでやりたいことをきめよう３」

【提案理由】じかんをまもって、やさしい、もっとげんきなあかるい
にこにこの１－３になるため。

③一連の活動の流れ

事前の活動

・前時の学級会の後、振り返りの時間に、全員で議題を決める。
・提案理由を全員で話し合う。
・司会が議題と提案理由を画用紙に書く。
・短冊に、自分の考えを記入して掲示できるようにする。
・「1－3がっきゅうかいのすすめかた」や学級会ファイルで、進め方を確認する。
・司会のお手伝いがいるか確認する。

本時の展開

【ねらい】　自分の意見を伝えたり、友達の意見を聞いたりしながら、みんなで話し合って決めようとする。

・はじめの言葉　・議題・提案理由の発表　・決まっていることの発表　・話合い（「みんなでやること」「役割分担」）　・先生の話（振り返り・称賛）　・学級会の振り返り　・終わりの言葉

【話合いの様子】

・自分たちでできそうなことを次々と出し、２７もの意見を出した。意見のよい点や不安な点を言って、一人一人が本当にやりたいことのみに整理されていった。
・心配な意見が出た後、１年生なりの解決策を言う場面が見られた。
・「楽しいから。」という理由が多かったが、提案理由を意識した意見が次第に出てくるようになり、時間への意識やどんなよさがあるかにも触れられてきた。
・少ない人数になった意見の児童が、「次のお楽しみ会で提案する。」「３学期に提案する。」と譲り、意見の短冊は残すことになった。
・採用されなかった意見が生かされることになり、全員が納得して合意形成を図ることができた。

事後の活動

・それぞれの役割の準備に取り組む。　・「みんなのかい３」（たかおに・ドッジボール・フルーツバスケット）の実践に取り組む。　・振り返りを行う。

◇１つ１５分と決めてあったので、時間になったら教師が知らせ、安全面の確認をしながら、終末の助言に生かせるように記録を取る。

◇振り返りを行い、よかった点を伝え、後日活動通信で個々のよさを知らせる。

【実践活動の様子】　実施日　１２月１日（木）（２校時）

・行事との兼ね合いで実施が遅くなったが、準備を継続して行い当日に備えていた。

・みんなで声を掛け合い、時間内での行動をし、提案理由のような会となっていた。

・振り返りからも楽しかったこと、時間内でできたこと、役割が果たせたことなどの肯定的な振り返が出された。

④視点１～３の手だての検証・成果

視点２「よりよい集団をつくろうとする力を育てる指導の工夫」（社会参画）

○入門期の指導の工夫**【事前活動の充実】**

学級会を自分の事として意識し、児童の力で作り上げていくための実践を工夫した。同時に、支持的風土を育て、温かな人間関係を形成していく手だてでもある。

・学級会を始める前に、朝の会や国語の時間を活用し、教師が司会の話合い体験をしてきたことで、活発に意見を出し合う児童の姿が見られた。

・児童に話材を提示し、毎日５分程度の話合いを行いながら、児童の話合いに関する実態や傾向を把握し、本学級の話合いの指導の工夫へとつなげたり、話合いの楽しさを味わったりできるようにしてきたことが、活発に話し合う姿につながった。

○問い掛ける形の助言の工夫

・最初の学級会から、児童が司会を担当し、進行が滞ってしまったり、流れからそれていってしまったりしたときは、教師が問い掛ける形での助言を行うことで進めてきた。1 年生なりに自分たちの力で話合いを進めることができていた。

〈学級会の中の助言の例〉

○進行が止まってしまったとき

「司会さんが困っているよ。どうしたらいいかな。」

→他の児童が進行の仕方を教える。

○反対の意見が出されていても、そのままになっているとき

「できないから、やりたくないって言っているけど、どうすればいいと思う？」

→「教えてあげます。」という発言が出る。

○思いが伝えられない児童がいるとき

「○○さん、言いたいことがあるみたい、ゆっくり聞いてみようか。」

→今まで意見が言えなかった児童が発言する。

⑤指導・講評　有明教育芸術短期大学　学長　　若林　彰先生

・低学年に丁寧に学級活動を指導している。特に、人間関係形成に配慮している。

・集団意識が未発達の低学年への指導として、学級の目標を活用している。

・特別活動の特質・意義とは、集団活動、人間関係形成、自主的・実践的活動であり、「なすことによって学ぶこと」である。

・学級活動で何を育てるかを明確にして指導することが大切である。

・話合いのための話合いや、結論を出させることに重点を置いた話合いにならないようにしていく。

・国語の時間を使っての話合い活動の指導の積み重ねが見えた。このように、話合いの指導は国語科などで指導していくとよい。

・学級会は主体的な活動を積み重ねていく活動である。

・１年の始めは、教師主導がよいのではないか。一議題一活動を繰り返す必要がある。

・話合い活動の指導において、「事前・事中・事後」と分けるとすると、事前の活動が一番大切である。事前の指導を充実させていくことで、意欲につなげる。

３　研究資料

（１）「学級の目標」の可視化と実践への工夫（低学年）
【視点３】

５月、学校生活にある程度慣れてきた時期を見て、教師から「こんなクラスにしたい」と６つのことを紹介した。

１週間ほど掲示した後、児童に「どんな１年３組にしたいか。」と問い掛けたところ、３５もの内容が出された。全てを短冊に書き、特に大切にしたいことを選んで、組み合わせ、『学級の目標』を作った。採用されなかった考えは、一つ一つ、どの目標に含まれるのかを確認し、すべての意見を反映させて、決定した。一人１文字ずつ書き、掲示物を作成した。自分たちの目標ができたという意識は高くなった。

1年3組の『学級の目標』		
◇なんでもがんばるくらす	◇みんなにやさしいくらす	◇いわれなくてもすぐうごくくらす
◇みんなのはなしをよくきくくらす	◇まいにちがんばってがっこうにくるくらす	◇にこにこ１ねん３くみ

①実践につなげる取組

「学級の目標」が６つあるために、朝の会で今日の重点項目を決めさせるようにした。その日の予定を聞いて、重視したい項目を出し合って決めている。

そして、決めた目標から「どんなことをすればできたことになるか。」を確認し、行動目標にしている。最初は、教師がアドバイスをして決めていたが、次第に自分たちで決められるようになった。

②児童による振り返り

帰りの会に手を挙げて目標ができたかどうかを確認し、全員が達成すると金シール、ほとんど全員だと銀シールをカレンダーに貼っていくこととした。達成基準が厳しいが、児童にとっては分かりやすく、特に誰かを責める様子はないのでこの評価基準とした。また、「できなかった。」と思った場合は、理由を発言し、周りの児童から「こんなところでできていたよ。」と言われて、できていたことを確認したり、「それならみんなできていないかも。」と全員で認識したりした。課題となったことをカレンダーに書いておき、次につなげるような取り組みも行った。

その結果、「学級の目標」は自然に意識できるようになっており、「できた」という思いから、自己肯定感につながっている場面がよく見られるようになった。

（２）「学級の目標」の可視化と実践への工夫（中学年）【視点３】

①『学級の目標』を意識して学校生活を送れるように、様々な場面で『学級の目標』と関連付けて指導する。

（ア）　毎日、「今日、頑張る『学級の目標』」を決め、振り返りを行う。

・朝の会で日直が、『学級の目標』の中からその日一日頑張る目標を１つ決め、全体に提示する。その際、なぜその目標にしたのかを発表したり、達成基準をみんなで決めたりする。

・帰りの会で達成できたかどうか振り返る。達成できたかどうか発表し、日直からの振り返りも伝える。

（イ）　提案理由の根拠として使う。

・学級会をするときに大切なのは「提案理由」であり、「何のために取り組むのか」「この議題で取り組むと、どのような学級になるのか」を『学級の目標』と関連付けて考えられるようにする。

例「はじめてのクラスがえがあったので、３年２組はじめよう会をして、もっとみんなとなかよくなるためにやります。」

「夏休みが終わり、前期後半が始まりました。ゲーム大会をすることで、前期後半をもり上げ、明るく元気なクラスにするために、取り組みます。」

②学級活動(3)を活用し、『学級の目標』の達成状況を知り、その後の生活に生かす。

（ア）　題材　「クラスみんなのためにがんばっていますか」

学級活動(3)　ア　現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成

（イ）　指導のねらい

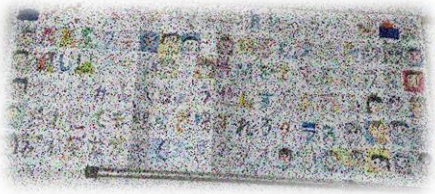
学級みんなのために頑張ったことを振り返り、これからみんなのために取り組むことを決める。

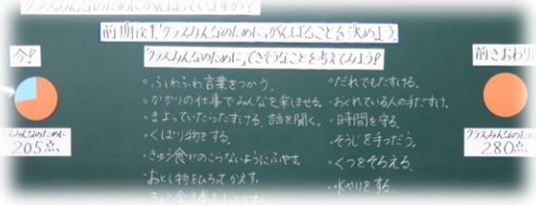
（ウ）　題材について

「よいクラスにするために、自分はクラスみんなのために頑張れただろうか」と見つめ直し、さらに自分に合った目標をもって過ごしていけるように、本題材を設定した。

①　指導の流れ

導入	つかむ ・今まで取り組んできた「クラスみんなのために」自分が頑張ってきたことを発表したり、友達が頑張っていたことを発表したりする。 ・「クラスみんなのために」頑張ってきたかのアンケート(10 点満点)結果を知り、本時の学習を知る。 ◇達成しているかどうか予想させ、達成への関心をもたせる。円グラフに表し可視化する。 T『学級の目標』のようなクラスを目指して、「クラスみんなのために」の自分のめあてを決めます。
展開	さぐる ・「クラスみんなのために」できそうなことを考え、発表し合う。【個人思考】【集団思考】 ◇学校生活のあらゆる場面を想定して考えてよいことを伝える。 見つける ・友達の考えを聞いて、思ったことや参考になったことを発表する。 ◇思ったことや参考になったことを発表させ、みんなの考えのよさや共通点に気付かせる。 決める ・前期後半に「クラスみんなのために」何に取り組むかを決める。【個人思考・意思決定】【発表】 ◇集団思考を生かし、「クラスみんなのために」何をするか、具体的な内容を考えさせる。 みんなの前で「意思宣言」させる。
終末	・先生の話を聞く。 ◇自分が決めたことに向けて、意欲をもって取り組むことができるように励ます。 『学級の目標』と関連付け、一人一人の頑張りは『学級の目標』の達成にもつながることを伝える。 T 今日は前期後半の「クラスみんなのために」何ができるかをみんなで話し合い、自分が取り組むことを決めました。自分が決めたことを一人一人が取り組んでいけば、『学級の目標』も達成できそうですね。互いに励まし合って頑張っていきましょう。





（３）「学級の目標」の可視化と実践への工夫（高学年）【視点３】

研究の視点１の「みんなとともに生きていく力を育てる」、視点２の「よりよい集団をつくろうとする力を育てる」ために、児童が自分たちの学級をどのようにしたいかという願いや思いを基に作られた「学級の目標」を日々の生活の中で、大切にしている。児童が作った「学級の目標」を決めただけで終わらせず、よりよい人間関係作りにつなげていくことができると考え、様々な工夫を意識しながら、特別活動に取り組んでいる。また、様々な場面で、学級の目標を可視化し、毎日の生活の中で意識して取り組んでいくことを、よりよい人間関係や生活を作ることの手だてとして活用した。

①作成手順

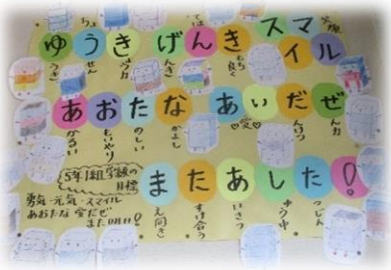
◎学級活動（３）「一人一人のキャリア形成と自己実現」の時間に児童の考えを基に作っていく。

〈事前〉

（ア）学級開きで「どんなクラスにしたいか」の担任の願いや思いを聞く。また、保護者に「どんな学校生活を過ごしてほしいのか」の思いや願いを聞く。

（イ）「どんなクラスにしたいのか」の思いや願いを短冊に書く。その際、理由も書く。

〈本時〉



（ア）一人一人の思いや願いを発表する。発表後、短冊は黒板に貼る。

（イ）似ているものをグルーピングし、キーワード化する。

（ウ）一人一人の思いや願いが、本当によいかどうか確認する。

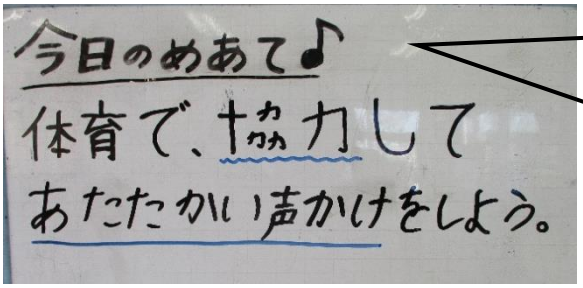
（エ）出た意見の中から選ぶのではなく、全ての意見を合わせ、全員の思いや願いの入った目標にできるようにする。

（オ）出されたキーワードを組み合わせ、文言を決める。

⇒自分たちで掲示物を作成し、掲示する。※クラスキャラクターや手形を入れるとより効果的。

②実践の中での工夫

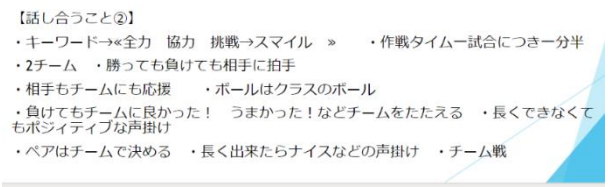
（ア）毎日の生活目標（今日のめあて）を決めるときに活用する。学級の目標の中から、「今日何を頑張るのか」キーワードを選んで、目標を作成し、ホワイトボードなどに書いて掲示する。



○朝の会で、日直が今日のめあてを学級全体に伝える。
○クラス全体で今日のめあてを意識して生活する。
○帰りの会で、今日のめあてについて振り返りを行う。

（イ）学級会を行う際の提案理由を作成するときに活用する。「この議題に取り組むことで、『学級の目標』の何を目指したいのか。」を全員に問い掛け、提案理由を深める。

みんなで作った「学級の目標」の中からキーワードを選び、児童全員が何のために話し合うのかを確実に共通理解することで、自主的に学級会に参加できる。



（４）「振り返り」の時間や、振り返りカードの工夫【視点１・２】

研究の視点１・２「よりよい集団をつくろうとする力を育てる指導の工夫」の手だてとして、「振り返り」の時間や、振り返りカードを工夫して学級会や決めたことの実践に取り組んだ。

一人１台の学習者用端末を活用して、振り返りを蓄積し、毎回積み重ねていくことができるようにした。学級会や決めたことの実践後の時間に、「自分のよかったところ」、「友達のよかったところ」、「次に向けて」の３つの観点で振り返りをした。

学級会の前に決めた「自分のめあて」に対してどうだったかを振り返り、前回の振り返りから自分のめあてを設定する児童もいた。（図１）振り返りを１枚のシートにまとめることで、毎回の活動の積み重ねが可視化され、自分のよさを実感することができ、児童のよりよい集団をつくろうとする力を高めていくことに効果的だった。

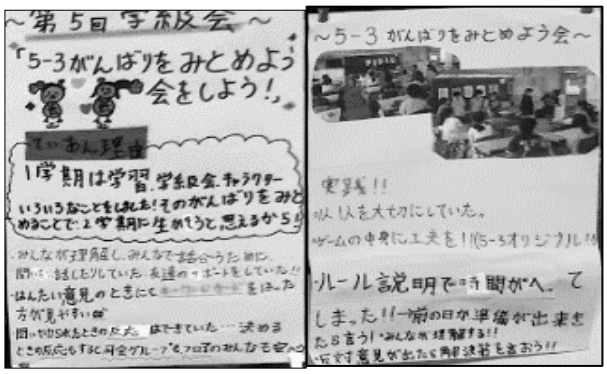
	実践の振り返り	
	自分のよかったところ	友達のよかったところ
第８回学級会	班のみんなで話合ってみんなが楽しめたのがいいと思いました。前の班のリーダとしてみんなが納得するように意見をまとめたのがいいと思いました。	始めの言葉、終わりの言葉の人が一人だけでなくみんなでやって協力していて生かしたいと思いました。
第９回学級会	めあてのうなずいて聞くを意識できたのが、よかったです。自分の意見をすすんで言えたのがよかったです。	司会の人たちが時間も決めていて、スムーズに進められたと思いました。どの班もキーワードを意識して活動をしていたのがいいと思いました。〇〇さんと〇〇さんが１ぱんの人に進行へのアドバイスをしていていいと思いました。〇〇さんが言ってみればといってくれて発言してみようと思ったし生かしていきたいです。

「図１　学級会の振り返り」

実践の振り返りでも、自分のめあてを基に、自分のよかった点を振り返ることができた。さらに、自分のよさを実感するだけでなく、友達のよさを見付け、自分に生かそうとする記述が多く見られた。（図２）一人１台の学習者用端末を活用した児童の振り返りを、共有する時間の設定や効果的な共有の方法を今後検討していきたい。

	学級会の振り返り			
	自分のめあて	自分のよかったところ	友達のよかったところ	次の学級会に向けて
第９回学級会	話合いのとき、自分の意見を進んで言う。 発言している人の方に体を向けて大切に聞く。	めあての話合いのとき、自分の意見をすすんで言えたのがよかったです。 意見を言っている人の方に体を向けてうなずきながら聞くことができました。	〇〇さんがみんなのことを大切にしていた意見を言っていて提案理由を意識していて学級目標の思いを伝えるをしていた！（学年のことも）　〇〇さんが司会、黒板記録、ノート記録の人にサポートしていてみんなのことを大切にしていていいと思いました。（支え合いにつながる！！）　司会が一人にきくのではなくみんなに聞いて、みんなで進んでいたのがいいと思いました。（改善点を意識している！）	発言が１回しかできなかったから次は２回以上して全体での意見を増やして司会を助けていく。
第１０回学級会	前回の振り返りで、1回しか発言ができなかったから今回は2回発言をする。	めあての２回発言するを意識してはじめて２回発言できたのがよかったところです。キーワードを意識して発言できました。	〇〇さんがまだ黒板記録がおいついていないのに気づいて黒板記録の人を手伝っていて学級目標の「支え合い」につながると思いました。〇〇さんや〇〇さんが司会を助ける言葉を言っていていいと思いました。〇〇さんが事前に決まったことを言えるようにして前回の改善点を生かしていていいと思いました。〇〇さんが〇〇さんのノート記録をアドバイスしていていいと思いました。	次の学級会は司会グループなので今回の司会、黒板記録、ノート記録のよさを生かしていきます。

↓「図３　振り返り新聞」　　↑「図２　実践の振り返り



学級会と実践の「よかった点」と「改善点」を学級全体や計画委員会の振り返りの中から取り上げ、新聞として１枚の画用紙にまとめた。（図３）

学級会で「話合いのめあて」を考える際に、「前回の改善点はなんだった？」と問い掛けて、児童がめあてを考える観点を明確にもてるようにした。

振り返りから見いだした改善点を、児童にどう意識させるか、振り返り新聞のよりよい活用方法をさらに考えていく。

（５）計画委員会の指導の工夫【視点２】

①計画委員会の活動の流れ

（ア）役割を分担する

司会、黒板記録、ノート記録など学級会で必要な役割を分担する。

（イ）「議題の選定」をする。

学級の中で集めた「議題案」から司会グループが整理し、学級全体で決定する。

（ウ）「提案理由」を明確にする

提案者の思いを大切にしながら、事前に全員で確認した「なぜこの議題を行いたいのか」や「何のために話し合うのか」「行うことでどんな学級になるのか」などを基に提案理由を作成する。慣れていない学級は、教師が問い掛けながら提案理由を深めていくことも有効である。

（エ）「話し合うこと」を決める

何を話し合うのか、１単位時間をかけて話し合う価値がある内容や、１単位時間で話し合える内容を「話し合うこと」にする。（例）「何をするか」「どのようにするか」「役割分担」

（オ）「話合いの進め方」や「共通理解」を確認する

「話し合うこと」の考えを基に、話合いの流れを予想しながら進め方を考えさせる。また、共通理解をすることを決める。日時や場所、事前に決まっていることを確認しておく。

（カ）学級会コーナーの充実

計画委員会で話し合い、全体で承認した「議題」や「提案理由」「話合いのめあて」「話し合うこと」を掲示するなどして学級全体に知らせる。

②計画委員会の指導の工夫

（ア）学級全員で行う計画委員会

計画委員会の話合いがなかなか進まないときには、学級全体に問い掛けて全員で計画委員会を行う。司会グループの話合いでは浮かばなかった意見が出る。

（イ）前回の司会グループからのアドバイス

前回の学級会の司会グループは、自分たちで進める上で、よい点や改善点を出し合い、次回の司会グループに共有し、共に計画委員会を行うことで次回に生かせる学級会にすることができる。

（ウ）教師が問い掛けながらの計画委員会

学級会の経験が少ない学級などは、教師が問い掛けながら、計画委員会を進めていくことで、提案理由が深まったり、進行に見通しをもたせたりすることができる。

③学習者用端末を活用した計画委員会

（イ）の前回の司会グループのアドバイスの際に、学習者用端末の電子ホワイトボードを活用する。前回の司会グループは、よい点や改善点を電子ホワイトボード（引継ぎシート）に記入し記録を残す。記録を見ながら次回の司会グループが今回の課題を明確にして計画委員会を行う。電子ホワイトボードはいつでも誰でも確認することができるため、記録を蓄積することができる。

司会グループの引継ぎシート

学級会がより深い話合いにするためにできることや
次に生かすことを引継ぎシートに書いていこう！

第２回学級会「６年２組これからよろしくねの会」

Aグループ

よかったところ | 改善するところ | 次に生かせるところ

なにをするのか最終的に決められた所

司会グループだけではなく、みんなに助けてもらった。

これができたら時間内に話終えられたと思う

改善したらできる

話がずれないようにする。

もう少し細かいことを決めておく。

改善したらできる

もう少しみんなに話し合ってもらったほうがスムーズに進んだと思う。

一人一人の意見をちゃんと反映できるようにする。

改善したらできる

よく分からない話でもちゃんとその人の意見がスルーされないように理解するまで聞く

・意見が焦点化されるように、３つの観点で振り返りをさせる。
・記録の仕方は各司会グループに任せる。
・次回の司会グループに伝わるように明確に書くようにする。

司会グループの引継ぎシート

学級会がより深い話合いにするためにできることや
次に生かすことを引継ぎシートに書いていこう！

第１０回学級会「６年２組オリジナル音楽会」

Ｆグループ

よかったところ | 改善するところ | 次に生かせるところ

折り合いをつけることができた

それぞれの意見を尊重しながら(計画しているとき)話し合うことができた

黒板比較的見やすい

学級会コーナーで掲示した内容がみんな分かっていた。

議題から話がそれないようにしたい。

議題が反れたら提案理由に戻って全員で確認する。

議題を明確にする。

意見が対立しているところをうまくまとめたい。

1人1人の意見を聞き尊重する

話合いに入れない人がいた。

小グループでの話合いを取り入れる。

Gグループへ
今回は、焦ってしまったことが多く、クラスのみんなに助けてもらうことが多かったです。
次回は、時間配分を確認しながら進めると、焦らないと思います。
・議題が反れることが多いので朝の会などで確認できるといいです。

・記録を蓄積していくことで、自分たちで引継ぎシートを工夫していく。
・誰でもいつでも見られたり、付けたりできるようにする。

（６）活動のよさを認め、価値付ける終末の助言の工夫【視点１】

学級会は、児童の「学級生活をよりよくしていきたい」という願いを叶えることができる時間である。児童が、自分たちで合意形成を行い、実践までの一連の活動を繰り返し、深めていくことが学級活動を充実させるために重要である。そのための教師の指導助言、特に「終末の助言」を工夫することは、「よりよい人間関係や集団」をつくる上で欠かせないものである。

① 終末の助言とは

「終末の助言」とは、学級会や実践の最後に教師が児童の活動を評価する時間のことである。ただ、よい発言（よい行動）を褒めたり、課題を伝えたりすればよい訳ではない。教師の意図的計画的な指導計画の下、「今、児童に何を大切にさせたいか」、「今、児童に何を考えさせたいか」を、実態を見極めながら適切な選択をしなければ、児童の必要感に迫ることができず、児童の成長する機会を損失してしまう。何を価値付けたか、何を次への課題として問い掛けたかが重要である。

児童が満足感や達成感を味わえるような学級活動にするためにも、「終末の助言」は教師にとって極めて大事なポイントになる。そこで、次のような取り上げる内容と方法を大切にして指導を行ってきた。

②終末の助言で取り上げる内容

（ア）前回から成長が見られた言動
（イ）議題、提案理由や話合いのめあてに立ち返って考えた発言
（ウ）友達、学級全体のことを考えた言動
（エ）話合いをまとめるような建設的な発言
（オ）自分のめあてや前回の振り返りを生かした発言
（カ）実践活動や学級生活への意欲付けや次時への期待
（キ）話合いの準備や事前活動を含めた司会グループの努力や工夫
（ク）次への成長のために気付かせたいこと

③終末の助言の具体的な方法

上述の通り、終末の助言は、児童のこれからの実践意欲を高め、自主性を育むために極めて重要な役割を担っている。教師にとって最も重要な時間と言っても過言ではない。ここで強い思いをもつあまり「課題」ばかりを話してしまうと、児童の意欲が低下してしまう。「次回も頑張ろう」と前向きに思えるような時間にするためにも、「称賛」を２つか３つ、「課題」を１つ程度に絞って話をする。

この時の留意点は「全てを教師が話さない」ことである。具体的な場面や児童の名前を挙げて様子を想起させ、「どうしてよかったのか」、「どうすればよかったのか」を学級全体で考えさせる。そうすることで、教師から「言われた」ことではなく、「自分たちで気付いた」経験となり、児童の主体性をより育むことにつながるのである。

（ア）称賛

これからの活動に対する意欲を高め、話合いや児童の人間関係をよりよくする言動を定着させるために、具体的な事例と名前を挙げて「どうしてよかったのか」を考えさせ、言動のよさを認め、価値付けて学級全体で共有し、次の活動につなげていくことがポイントである。

例①

Ｔ：今日の話合いでよかったところはありましたか？

Ｃ：時間内に決めることができました。

Ｔ：どうして時間内に決めることができたのでしょうか？

Ｃ：譲ってくれた人がいたからです。

Ｔ：そうでしたね。よく友達の話を聞いていましたね。自分の意見を主張するばかりではなく、A さんのようにみんなのことを考えて伝えてくれる人がいると、決める時スムーズに決まりますね。

例②

Ｔ：今日Ｂさんがうまく説明できず困っていた場面がありました。そのときに発言した人がいたのを覚えている人はいますか？

Ｃ：Ｃさんです。Ｂさんの代わりに言いたかったことを言っていました。

Ｔ：そうでしたね。ＣさんがＢさんの言いたかったことを説明していました。このように困っている友達がいたときに助けてあげると、Ｂさんは嬉しいし、話合いもより進みますよね。

（イ）課題

教師から課題を伝えたくなるところではあるが、ここを児童に考えさせることがポイントである。課題そのものを指摘するのではなく、話合いの場面を振り返らせ、「〇〇のときどう思った？」「どうしたらよかったと思う？」のように児童に問い掛け、児童が答えを見いだすことができるように助言する。そうすることで、答えを見いだした児童を称賛することもできる。

例

Ｔ：話合いの途中からいろいろな意見を発言する人が増えて話合いが行き詰まってしまったのですが、どうしてだと思いますか？

Ｃ：何について話し合うのか分からなくなったからです。

Ｔ：どうすればよかったと思いますか？

Ｃ：司会が話し合うことを整理したり、テレビモニターに話し合っていることを表示したりすればよかったと思います。

Ｔ：いいアイディアですね。話合いが混乱したときは、司会が一度止めて整理することで話し合うことの整理ができますね。

（ウ）終末の助言の留意点

・教師が期待する気付きが出なくても深追いはしない。
　あくまでも児童の「気付き」を尊重し、「自分たちの力でできた」という達成感がもてるようにする。

・司会グループへの称賛を必ず伝える。
　意欲的な学級会にするためには、司会グループの頑張りが欠かせない。「司会グループをやってよかった」と思えるようにすることが大切である。

（７）発達段階による「とらえておきたい『学級会』の観点」を活用した実態把握の工夫

○本表は、学級内の実態を捉えたり、議題を設定したりするときに活用する。（評価規準とは異なる。）
○すべての項目が１つの学級に必要な言動ではなく、学級の実態に応じて「身に付ける力」を設定する。

指導のめやす	この時期にとらえておきたい「学級会」の観点 事前	本時　学級全体
低学年 ○教師が司会の役割を受け持つことから始め、少しずつ児童がその役割を担うことができるようにしていく。 ○話合いの約束に沿って友達の意見をよく聞いたり、自分の意見を言えるようにしたりして、合意形成できるようにする。	1　学級全体で取り組みたいこと、つくってみたいこと、解決することなどを見付ける。 2　次の学級会の議題が分かる。 3　座席を話合いの形に並べる。 4　司会グループの構成メンバーを決める。 5　自分の意見を考えておく。 6　役割を分担する。	44 自分の意見をすすんで言う。 45 話合いに反応する。 46 友達の意見を最後まで聞く。 47 自分の意見を大切にする。 48 自らの判断で決める。 49 「学級の話合いの約束」を守って参加する。 50 話合いにすすんで参加する。
各学年段階での配慮事項 【第１学年及び第２学年】 話合いの進め方に沿って、自分の意見を発表したり、他者の意見をよく聞いたりして、合意形成して実践することのよさを理解すること。	7　話合いの適した座席の形を決める。	57 話合いの過程に沿って意見を言う。 58　賛成反対の意思表示をはっきりさせる。 59　自分たちで決めた役割をすすんで引き受ける。
中学年 ○教師の適切な指導の下に児童が活動計画を作成し、進行等の役割を輪番で受け持ち、より多くの児童が司会等の役割を果たすことができるようにする。 ○理由を明確にして意見を言えるようにしたり、異なる意見も受け入れたりして、楽しい学級生活をつくるために合意形成できるようにする。	8　議題を集める、出す。 9　提案理由を考えて議題を出す。 10 自分たちの力で、話し合う議題を決める。 11 みんなが納得して議題を決める。 12 輪番で司会をする。 13 次の学級会の提案理由が分かる。 14 意見の理由を考えておく。 15 議題を確認する。 16 提案理由を確認する。（決める。） 17 話合いの柱を立てる。 18 前もって議題を知らせる。 19 活動計画を作成する。 20 自分たちで工夫して活動コーナーを作る。 21 学級会カードなどを作成、配布する。 22 みんなで話し合うためのめあてを立てる。 23　学級の問題点を考えながら提案理由を決める。 24 自主的に計画委員会を開き、運営する。	60 提案理由に沿った意見を言う。 61 理由を明らかにして意見を言う。 62 友達や流れに左右されず、自分の意見を言う。 63 出た意見について不明な点は質問する。 64 出された質問に対して答える。 65 友達の考えのよさに気付き、自分の考えを修正して譲る。 66 もっとよい方法があれば、自分の考えに固執せず譲る。 67 納得してから譲る。 68 協力して話し合いを進める。 69 友達の考えを認める。 70 友達の考えを肯定的に受け止める。 71　友達の意見と自分の考えを比べながら聞く。 72 時間を意識して決める。 73 互いの意見を生かしながら話し合う。
各学年段階での配慮事項 【第３学年及び第４学年】 理由を明確にして考えを伝えたり、自分と異なる意見も受け入れたりしながら、集団としての目標や活動内容について合意形成を図り、実践すること。	25 自分の意見を書いておく。 26 話合いに必要なものを準備する。 27 前の司会グループとの引き継ぎ会をする。 28 自主的に計画委員会を開き、運営する。 29 計画員会で話し合ったことを記録する。	85 司会を助ける意見を言う。 86 黒板記録を助ける意見を言う。 87　友達の意見を生かして付け足しの意見を言う。 88 友達の意見を受け止めて、自分の意見を言う。 89 メモを取りながら聞く。 90　友達の意見と自分の考えを比べながら聞く。 91　友達の言いたかったことを言ってあげる。 92 小集団での話し合いに参加する。 93 出された意見を整理する。
高学年 ○教師の助言を受けながら、児童自身が活動計画を作成し、話合いの方法などを工夫して効率的、計画的に運営することができるようにする。 ○学級のみならず学校生活にまで目を向け、自分の言葉で建設的な意見を述べ合えるようにし、多様な意見のよさを生かして楽しい学級や学校の生活をつくるためのよりよい合意形成を図るようにする。	30 学級のめあてを意識して、議題を出す。 31 議題の優先性を考えて選ぶ。 32　みんなで話し合う内容かどうかを考えて、話合いの柱を立てる。 33 話合いの進め方を話し合う。 34　自分たちの活動を考えながら、活動計画を作成する。 35　話合いの柱に提案理由と関係する項目を立てる。	94 議題がそれたら元に戻す意見を言う。 95 意見がまとまらないときには「考える時間をください」と言う。 96 学級全体の意見が出ないときには「考える時間をください」と言う。 97　話し合っている内容が分かりにくくなったときには「周りと話し合う時間をください」と言う。 98 小集団で話し合ったことを生かす。 99 過去の経験を生かして、意見を言う。
各学年段階での配慮事項 【第５学年及び第６学年】 相手の思いを受け止めて聞いたり、相手の立場や考え方を理解したりして、多様な意見のよさを積極的に生かして合意形成を図り、実践すること。	36 自分たちで工夫して学級会カードなどを作成、配布する。 37 振り返りカードを作成する。 38 自分のめあてを考えておく。 39 自分のめあてを書いておく。 40 自分たちで司会の台本を作る。 41　事前のアンケートなどでみんなの意見を知っておく。 42 係や司会グループが原案を用意する。 43　話合いの進め方についてみんなに知らせる。	107　話合いの流れについて不明な点は質問する。 108 意見の原案を出す。 109 必要性を考えて話合いの柱を追加する。

各学年　　上段：この時期終了時までに必ず身に付けておきたい言動
　　下段：学級によって異なるがこの時期に期待する言動

	本時　司会グループ	本時　振り返り
51 みんなの話合いだと意識して指名されてから意見を言う。 52 決まったことを共に喜び合う。 53 友達の意見が分かる。 54 「学級会はみんなの時間だから自分たちで解決しよう」とする態度が見られる。 55 反対意見や少数意見を大切にする。 56 「出し合う、比べ合う、まとめる（決める）」の流れを理解する。	110 自分の役割が分かる。 111 終了時刻を言う。 112 いろいろな意見を出し合って決めようとする。 113 納得できない人がいないか確認をする。 114 名前磁石を活用する。 115 自分の仕事内容が分かる。 116 取り上げられていない意見でも黒板から消さない。 117 自分の役割は責任をもって果たす。 118 手を挙げてもらい意見の傾向を調べる。	153 話合いで決まったことが分かる。
		154 話合いでよかったことを発表する。 155 自分のがんばり、友達のよさが分かる。
74 友達の立場や思いを受け止めて（思いやって）意見を言う。 75 友達のもち味を受け止めて生かす。 76 安易な多数決をせず納得するまで話し合い、決定する。 77 提案理由に沿って話し合い、決定する。 78 一つの意見に決めずに、生かす方法を考えて決定する。 79 自分の意見が伝わるまで分かりやすく言い直す。 80 反対意見に対して、解決策を出す。 81 意見の問題点に気付いて解決策を出す。 82 出てきた問題点に対して解決策を出す。 83 自治的な活動の範囲を理解して決定する。 84 安易に話合いを長引かせず、合意形成する。	119 教師に頼らないで自分たちで学級会を進める。 120 司会グループで助け合って進める。 121 周りと相談する時間をとる。 122 安易な多数決をせず、みんなの意見を聞きながら決定していく。 123 決まったことを確認しながら進める。 124 記録を見ながら決まったことを発表する。 125 全体に確認しながら話合いを進める。 126 黒板に議題・提案理由・話合いの柱が書いてある。 127 決まっていることが提示してある。 128 進行が難しくなったとき「進め方を教えてください」とみんなに聞く。 129 考えが生かされないとき、提案者や発言者に確認してから決定する。 130 話合いの計画に沿って司会を進行する。 131 黒板記録の様子を見ながら進行する。	156 自分のよさを見付け、カードなどに記入する、発表する。 157 友達のよさを見付け、カードなどに記入する、発表する。 158 本時で決まった計画に沿って準備などの活動をする。
	132 紹介の際に自分のめあてを言う。 133 多くの人が意見を出せるように指名する。 134 前回の振り返りを生かしている。 135 終了時刻を書いておく。 136 話し合ったことを順序よく記録する。 137 みんなが見やすくなるように黒板を工夫する。 138 黒板の使い方を工夫する。 139 次に生かせるようにノート等に記録する。 140 マークなどを生かしながら記録する。 141 ノートの使い方を工夫しながら書く。	159 友達の振り返りをもとに自分の考えをもつ。 160 司会グループの反省会を行う。
100 実践への見通しをもった意見を言う。 101 少数の意見でも発表する。 102 みんなの意見が生きるようによりよい工夫をする意見を言う。 103 考えのよさを強調して説得する。 104 本音で話し合う。 105 意見を吟味し、よりよいものに決定する。 106 みんなの話合いになっていないことに気付き、修正する。	142 黒板に必要なことを書いておく。 143 時間を考えながら話合いを進める。 144 話題からそれたとき、元に戻そうとする。 145 多くの意見の中からまとめようとする。 146 話合いの流れに応じて計画を修正しながら進める。 147 板書を利用して話し合いを進める。 148 意見を整理したり、まとめたりしながら進める。 149 話合いの流れが分かるように、黒板を可視化する。	161 めあてを振り返る。 162 話合いの問題点を見付け、カードなどに記入する、発表する。 163 振り返りを生かして次のめあてをもつ。
	150 友達の意見によって計画を修正しながら進める。 151 計画の修正を全体に確認しながら進める。 152 活動の経過が分かるように記録する。	164 話合いの問題点の解決策を見付け、カードなどに記入する、発表する。 165 話合いを通して、学級がよくなったことを見付け、カードなどに記入する、発表する。 166 みんなで話し合うためのめあてを振り返る。 167 振り返りカードを作成し、配布する。 168 司会の進行を振り返り、次の活動に生かそうとする。

〈活用における留意点〉

○学級の発達段階によって、低学年でも中・高学年の内容をとらえられることや、中学年で低学年の内容を課題にすること、高学年の内容がとらえられること、また、高学年で低・中学年の内容を課題とすることも考えられる。

○**太字下線部分**は、特別活動のねらいを達成するために不可欠である「自己決定に関して」「望ましい集団活動に関して」「集団決定に関しての内容であり、重点的に指導する。

４　成果と課題

（１）　成果

視点１「みんなとともに生きていく力を育てる指導の工夫」（人間関係形成）

・学習者用端末を活用した学級会シートを使うなどの可視化の工夫をしたことで、子供同士の考えが共有しやすくなり、お互いの理解が深まった。また、この工夫は、視点２の「よりよい集団をつくろうとする力」を育てることにも有効であった。

視点２「よりよい集団をつくろうとする力を育てる指導の工夫」（社会参画）

・合意形成を図る場面では、不安な人や心配な人がいないか確認することで、一人一人の意見を大切にする学級集団をつくることができた。

・「振り返り」を生かした話合いを行うために、これまでの計画委員会ノートや学級会記録を学習者用端末に記録した。積み重ねが可視化され、自分のよさや学級の成長を実感することができ、よりよい集団をつくろうとする力を育てることに効果的だった。

視点３「なりたい自分に向けて頑張る力を育てる指導の工夫」（自己実現）

・「学級の目標」を可視化し、様々な場面で「学級の目標」と関連付けて指導できた。各自に目標を意識させ、達成できたかを振り返らせることで、なりたい自分に向けて頑張ろうとする姿が多く見られた。

（２）　課題

視点１「みんなとともに生きていく力を育てる指導の工夫」（人間関係形成）

・学習者用端末の活用が常態化していく現在、学級会での有効な使用方法、それに伴う課題を、児童そして活用していく教員にも示していく必要がある。

視点２「よりよい集団をつくろうとする力を育てる指導の工夫」（社会参画）

・これまで研究で積み重ねたことを受けて「自主的実践的な話合い」の大切さを今後も提唱していく。そのために、特に年齢の若い教員、経験の浅い教員が「まずはやってみよう。」「これならできるかも。」と思えるような、簡易な手だてを工夫し、その有効性を検証していく必要がある。

視点３「なりたい自分に向けて頑張る力を育てる指導の工夫」（自己実現）

・時代に併せ、また検証されたことをより汎化していくために、学級活動部作成「捉えておきたい『学級会』の観点」の内容を精査し続けていくことが必要である。

研究に携わった方　（◯研究紀要作成に携わった方）

部　長	◯髙橋　美衣	中　央　月島第二小	副部長	◯大野　和代	足　立　千寿第八小
副部長	◯二本木　基	日　野　日野第五小	副部長	◯金澤　勇輝	稲　城　稲城第三小
会　計	◯奥山　優子	中　央　月島第三小	会　計	◯小野田有希	練　馬　大泉北小
庶　務	◯土屋菜々子	中　央　月島第二小	庶　務	◯越川祐太郎	足　立　千寿第八小
	◯小山　晴美	西東京　保谷小		◯吉田　司	三　鷹　南浦小
	矢部　織生	世田谷　八幡小		◯佐藤　麻美	豊　島　高松小
	◯細貝　俊稀	立　川　第五小		◯川村　容平	町　田　七国山小
	◯棚橋　正太	東久留米第六小		若月　雅人	西東京　けやき小
	神山　卓也	練　馬　北町小		◯大久保秀晃	三　鷹　大沢台小
	◯岸野　航太	日　野　日野第五小		◯増田　琴	足　立　西新井小
	秋嶺　創大	青　梅　河辺小		清水　翔	町　田　町田第一小
	木村　絢乙	品　川　延山小		玉城　晋平	渋　谷　西原小
	岩崎里奈子	江　東　平久小		矢田部　菫	練　馬　上石神井北小
	五十嵐彩花	荒　川　第三峡田小		岡田　悠希	福　生　福生第二小
	田城有加里	中　央　久松小		久保　洋平	中　央　月島第三小
	矢瀧　亮	西東京　けやき小		武内　純子	武蔵野　関前南小
	吉田　有璃	目　黒　田道小		古谷まどか	西東京　向台小
	菊池　友也	新　宿　四谷小		市川　秀弥	日　野　日野第六小
	秋元紗桜里	東村山　東萩山小		新居　逸郎	昭　島　つつじが丘小
	田村　優樹	稲　城　長峰小		野尻　侑花	昭　島　玉川小
	前田　健利	練　馬　光和小		佐藤　良	江戸川　新田小
	上原　行善	豊　島　駒込小		神山　裕子	濱淵　雅子

日野市立日野第五小学校　教員多数（検証授業参観・協議会参加）
西東京市立保谷小学校　　教員多数（検証授業参観・協議会参加）

Ⅱ　児　童　会　活　動　部

研究主題

「よりよい人間関係や生活をつくり、自己のよさを生かす児童会活動」

１　本年度の研究について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４３
（１）主題設定の理由
（２）研究の視点
（３）研究構想図

２　実践事例・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４７
（１）実践事例１　江戸川区立春江小学校
集会委員会「たけのこにょっきっき集会をしよう」

（２）実践事例２　立川市立上砂川小学校
代表委員会「ボーリング大会をしよう」

３　研究資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５６

４　成果と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５８

研究の経過

令和４年	５月２３日（月）	定期総会	目黒区立下目黒小学校
	６月３０日（木）	定例会（今年度の研究）	世田谷区立芦花小学校
	７月２５日（月）	夏季集中研修	目黒区立下目黒小学校
	８月２３日（火）	定例会（事前研究）	江戸川区立春江小学校
	９月２２日（木）	定例会（事前研究）	江戸川区立春江小学校
	１０月　７日（金）	定例会（事前研究）	立川市立上砂川小学校
	１０月２１日（金）	第１回検証授業 講師　玉川大学ＴＡＰセンター准教授 川本　和孝　先生	江戸川区立春江小学校
	１１月　２日（水）	第２回検証授業 講師　有明教育芸術短期大学教授 石井　友行　先生	立川市立上砂川小学校
	１２月２３日（金）	定例会（研究のまとめ）	世田谷区立芦花小学校
令和５年	１月　５日（木）	定例会（研究紀要作成）	世田谷区立芦花小学校
	１月１２日（木）	拡大研究部会	板橋区立若木小学校
	２月１１日（土）	定例会（研究発表準備）	世田谷区立芦花小学校
	２月２４日（金）	研究発表大会	目黒区民センター

１ 本年度の研究について

児童会活動部　研究主題

よりよい人間関係や生活をつくり、自己のよさを生かす児童会活動

（１）主題設定の理由

これまで児童会活動部では、「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」の３つの視点を以下のように捉え、研究を進めてきた。

人間関係形成	社会参画（自己有用感）	自己実現
よりよい人間関係を築くために、児童会活動では「上級生は下級生に対して思いやりの気持ちをもって接し、下級生は上級生にあこがれの気持ちを抱いて協力できる」ような、異年齢集団活動を通して、他の学年との人間関係を豊かに形成する力を付けることが必要であると考えた。このことは、児童が、自身の発意・発想を生かした活動に参画していくことで身に付けられると考えた。	児童の発意・発想を生かした異年齢集団活動に参画することを通して、よりよい学校生活づくりに寄与していくことが自己有用感の醸成につながる。本部会では、自己有用感を「『自分は必要とされている』『自分は役に立っている』と思える感情」と定義し、それは他者に認められてはじめて得られるものであると考えた。このことは、人間関係を豊かにすることと関連が深いと考えた。	「異年齢集団活動の中で、『自分のなりたい姿』を目指して、全校のみんなのために、その活動の目的や意義を達成していくこと」と捉えた。このことは、「社会参画」をしていく活動を通して、実現していくものと考えた。

昨年度に引き続き、今年度の研究についてもコロナ禍の影響を少なからず受け、各校の児童会活動は全校児童の発意・発想を十分に生かしきれない状況となっている。また、これまでも当番的な活動に終始してしまうことが多く、全校児童の発意・発想を生かした自治的活動の積み重ねが不十分になってしまうことも少なくない。

そこで、研究の視点に沿って、以下のような手だてを講じることで、全校児童がよりよい学校生活づくりに参画し、異年齢の人間関係を深め、活動の目的や意義を達成することで自己実現を図っていけるようにした。

（２）研究の視点

視点１「みんなとともに生きていく力を育てる指導の工夫（人間関係形成）」

児童会活動において「みんなとともに」の「みんな」は、「全校児童」である。児童の発意・発想を生かした自治的活動を行いながら、上級生への「あこがれ」と下級生への「思いやり」をもたせていくことが、よりよい人間関係形成につながると考えた。

児童会活動におけるよりよい人間関係とは・・・

目的意識をもった活動を通して
よりよい学校生活づくりのために、
他の学年のことを考えられる

他の学年と一緒に活動して、
楽しいと思える
（学年によって「楽しい」の価値が違う）

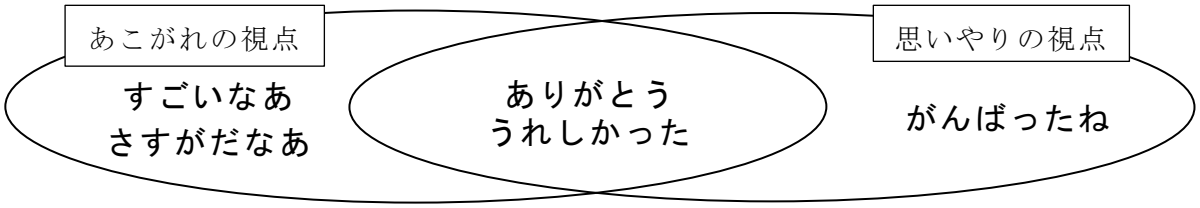
「他の学年との人間関係を豊かにする」ために大切なこと

●全校のことを考えて活動をする　●全校のみんなで活動（話合い・準備・実践）する

○全校児童から意見を収集する

代表委員会活動では、活動の目的や意義をもとに、全校児童から意見を収集する。このことを通して、全校児童の思いを知り、学校全体のことを考えて活動していけるように指導する。また、全校児童が実践活動に対する意見や思いを交流できるように児童会活動メッセージボードを設置する。各委員会活動では、活動後の全校児童の声をカードに書いて、掲示してもらい、全校児童が閲覧できるようにすることで、「あこがれ」と「思いやり」の気持ちを表出させるように指導する。

児童会メッセージボード記入時の観点



○収集した全ての意見を大切にする

代表委員会活動では、全校児童から収集した一つ一つの意見を大切にしていくために、それらをどのように生かしていくかを以下のように考え、全校児童に伝えるように指導する。

・他の委員会でやろう（児童会として各委員会の活動につなげていく）
・クラスでやろう（学級活動で提案して活動につなげる）
・休み時間にやろう（係活動で取り組んだり、友達同士で楽しんだりする）
・一人一人でやろう（全校児童では取り組めないようなときは、各個人で取り組んでみる）
・家でやろう（学校では取り組めないものは、家庭で取り組んでみることを勧める）
・コロナ禍だから少し待ってね（感染症予防の取組が緩和されたら実現可能なことを知らせる）
・みんなだけでは決められないよ(自治的活動の範囲を超えている場合は、指導する)

また、各委員会活動では、実践活動後に児童会活動メッセージボードに寄せられた全校児童の意見や思いを、その後の活動に反映させられるように指導する。

視点２「よりよい集団をつくろうとする力を育てる指導の工夫（社会参画)」

児童会における「よりよい集団」とは、児童間（特に異年齢）の「あこがれ」や「思いやり」の気持ちが醸成される集団である。また、自分の発言や行動が、他者（下級生・上級生・同級生・教師）から認められることによって、自分自身の価値に気付き、自己有用感を高めていくことのできる集団であると考えた。児童会活動の特質である異年齢交流を通して、「あこがれ」や「思いやり」の気持ちを醸成させたり、自己有用感を高めたりすることが大切であると考えた。

○児童の発意・発想を生かした自治的活動を保障する

よりよい集団をつくるためには、当番的な活動や学校行事に関わる活動に終始せず、児童の発意・発想を生かした活動に取り組むことが必要である。児童自身が活動を創り上げていけるように指導する。

○全校児童のことを考えて話し合う

前述のように、全校児童から収集した意見を大切にすると同時に、全校児童のことを念頭において話し合ったり、よりよい学校生活づくりに向けて工夫したりすることができるように指導する。また、「あこがれ」や「思いやり」の気持ちを醸成させるために、下級生も分かりやすく楽しみやすい活動を考えながら、話合い活動を進めていけるよう指導する。さらに、委員会の児童が自分の所属する学級の児童に、上級生としてのやりがいを伝えるようにも指導する。

○児童会メッセージボードを設置し、リーダー側とフロア側が思いを共有する。

実践活動後に、委員会の児童に対する全校児童や教師の声（「集会のよかったところ」「委員会へのお願い」）を児童会メッセージボードに掲示してもらい、委員会の児童が見ることで、自己有用感を高められるようにする。

視点３「なりたい自分に向けて頑張る力を育てる指導の工夫（自己実現)」

異年齢集団活動の中で、「なりたい自分」を目指して全校のみんなのために、その活動の目的や意義を達成していくことが児童会活動における「自己実現」であると考えた。児童の発意・発想を生かした活動を行い、「なりたい自分」を目指そうとすることが、児童の一人一人の自己実現につながっていくと考えた。

○提案理由（＝活動の目的や意義）を深めさせ、それを全校児童に周知する。

「自己実現」を図るためには、活動の目的や意義を明確にしておくことが大切である。

提案理由は、その活動の目的や意義を言い替えたものと言っても過言ではない。全校児童から意見を収集したり、活動内容を話し合ったりしていく時に提案理由を理解し周知していくことができるように指導する。また、全校児童が活動の目的や意義を理解していないと、それを達成することは難しい。そこで、事前に「○○委員会だより」を配布したり、各教室に出向いて活動の内容を説明したりする。実践活動では、「始めの言葉」などで活動のめあてを伝え、「終わりの言葉」などにめあてに対する振り返りを入れるようにする。また、活動の内容やルールを事前にビデオ配信したり、各学級担任に協力を仰ぎ、活動の目的や意義をフロア側の児童に伝えたりすることも考えられる。

（３）研究構想図

今日的課題	目指す児童像	児童の実態
・よりよい人間関係を築く力の育成が必要である。 ・失敗にくじけない強い心の醸成が大切である。 ・社会に参画しようとする意欲の醸成が重要である。	・上級生が下級生を思いやる気持ちを、下級生が上級生にあこがれる気持ちをもちながら、異年齢交流活動を楽しむことができる児童　（人間関係形成） ・「思いやり」や「あこがれ」の気持ちを基に互いの考えを尊重し、自らの発意・発想を生かした自治的活動を通して、よりよい異年齢集団をつくろうとする児童　（社会参画） ・異年齢交流活動の目的や意義を理解し、全校のみんなのためにそれを達成するとともに、異年齢集団の中で自分らしい生き方を実現する児童　（自己実現）	・優しい児童が多い。 ・自己主張できる児童が多い。 ・異年齢で関わった経験が少ない。 ・自ら挑戦できず、失敗するとなかなか立ち直れない。 ・言われたことはするが、すすんで活動しようとしない。

研究主題

よりよい人間関係や生活をつくり自己のよさを生かす児童会活動

研究仮説

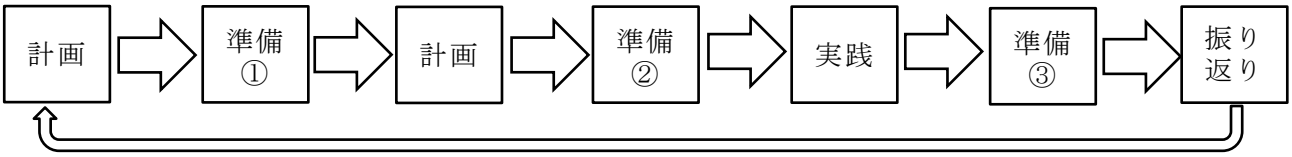
発意・発想を生かした活動の場を保障し、上級生が思いやりの心をもったり、下級生があこがれの思いをもったりするような振り返りを大事に指導すれば、異年齢交流活動を通して『よりよい人間関係や生活をつくり自己のよさを生かす』ことができるだろう。

研究の視点と指導の手だて

【視点１　人間関係形成】 みんなとともに生きていく力を育てる指導の工夫	【視点２　社会参画】 よりよい集団をつくろうとする力を育てる指導の工夫	【視点３　自己実現】 なりたい自分に向けて頑張る力を育てる指導の工夫
○全校児童から意見を収集する。 ○収集した全ての意見を大切にする	○児童の発意・発想を生かした自治的活動を保障する。 ○全校児童のことを考えて話し合う。	○提案理由（＝活動の目的や意義）を深める。 ※「異年齢集団活動の中で、『自分のなりたい姿』を目指して、全校のみんなのために、その活動の目的や意義を達成していくこと」を、児童会活動における「自己実現」と捉えた。
○メッセージボードを設置し、リーダー側とフロア側が思いを共有する。		

【よりよい児童会活動にするための手だて】
- 年度当初にオリエンテーションを実施する。
- 事前に、代表委員会活動や各委員会活動に向けて、話合い活動の活動計画作成や準備（児童会計画委員会）を行う。
- 自分の意見やその根拠を明確にするために活動計画カードを活用する。
- 異年齢交流を図れる座席配置やグループ構成にする。
- 各学級における学級活動(1)の充実を図る。
- 教職員と活動内容の共通理解を図る。

児童会活動の活動過程（７つの場面）



※研究の視点と直接関わりはないが、学校として児童会活動とは別に、日常生活の中で継続的に異年齢交流を行う活動（いわゆる縦割り班活動）を設定している場合には、そこで組織された異年齢集団を活用することも可能であることも指導した。

２　実践事例

（１）実践事例１　江戸川区立春江小学校　集会委員会

① 日時、場所、対象、授業者

日時　令和４年１０月２１日（金）　　場所　江戸川区立春江小学校

対象　全校児童　　授業者　鈴木　敬太　　星野　俊明

② 活動名　集会委員会「たけのこにょっきっき集会をしよう」

③ 一連の活動の流れ

事前

活動日	活動内容	指導の留意点
10 月 17 日 中休み	集会委員全員で集会の提案理由(活動の目的や意義)を深める。	これまでの集会活動の振り返りをもとに、よりよい集会活動を企画できるようにする。
10 月 18 日 中・昼休み	計画委員会で活動計画を作成する。	活動の目的や意義を共通理解した上で、話合い活動を進めることができるようにする。
10 月 19 日 昼休み	集会委員会全員に活動計画を配布し、本時の活動内容を確認する。	事前に自分の考えをもって話合いに参加できるようにする。

本時

・議題　　「たけのこにょっきっき集会の計画を立てよう」

・提案理由　「他の学年の人と楽しみながら協力し、仲良くなりたいから。」

・笑顔で活動する。
・一緒に考えたり、話したりする。
・みんなで喜び合う。

・本議題について

１学期に年間活動計画を立てる話合いを行った。複数の活動内容が出たので順番でやっていくということになった。２学期に「もうじゅうがり集会」、「ジェスチャーゲーム集会」「おにごっこ集会」を行った。上記の集会が終わり、当初に決めた順番通り「たけのこにょっきっき集会の計画を立てよう」が本議題に決定した。

・本時のねらい

提案理由を達成できるように活動内容を工夫する。

全校児童のことを考えて、実践活動への見通しをもった話合い活動をする。

・本時の展開

児童の活動	教師の指導（○）と評価（★）
1. 始めの言葉 2. 議題の確認 3. 提案理由の確認	○提案理由に沿って話し合わせることで活動の見通しをもたせる。

4.話合い ○話し合うこと１ 他の学年の人と協力し仲良くなるために、どんな工夫が必要か。 ○話し合うこと２ どんな役割が必要か。	○児童の話合いをできる限り見守る。 ○児童の自治的活動の範囲を超えた場合、活動が混乱した場合は、その場で指導する。 ★学校全体のことを考えて意見を伝えている。 （よりよい生活を築くための知識・技能） ★提案理由を生かして発想を広げようとしている。 （集団や社会の形成者としての思考･判断･表現） ★学校全体のことを考えて実践の見通しをもって話し合っている。 （主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度）
5.決まったことの確認 6.終わりの言葉 7.先生の話 ・振り返り ・友達のよかったところ ・終末の助言	○評価の観点に沿って実名を挙げ、具体的に称賛する。 ○実践に向けての意欲付けをする。

・話合い活動の様子

集会委員会のめあてである、「春江小のみんなが、他学年と交流し、笑顔で学校に行きたいと思ってもらう」を達成するために、縦割り班ごとで「たけのこにょっきっき」をすることにした。それを行うことで、他の学年の人と楽しみながら協力して、仲良くなれるだろうと考え、その工夫について話し合うことになった。

「自己紹介」をすることで、お互いのことをよく知るきっかけになるのではないかという意見が出た。「縦割り班ごとに勝敗をつける」ことで、同じ縦割り班内での結束力が高まるだろうという意見も出た。

事後

「たけのこにょっきっき集会」のめあてとやり方をテレビ放送や作成した動画で全校児童に伝えた。また、各教室に集会委員会だよりを持って説明しに行ったり、昇降口にポスターを貼ったりもした。どの班も盛り上がってたけのこにょっきっきを行っていた。やり方が分からない低学年の児童に対して優しく教えてあげる高学年の児童がいたり、他の学年の児童と楽しそうにハイタッチをしている様子が見られたりした。また、集会委員会の児童も自分の役割をすすんで果たし、活動を盛り上げていた。

【めあてをテレビ放送で】

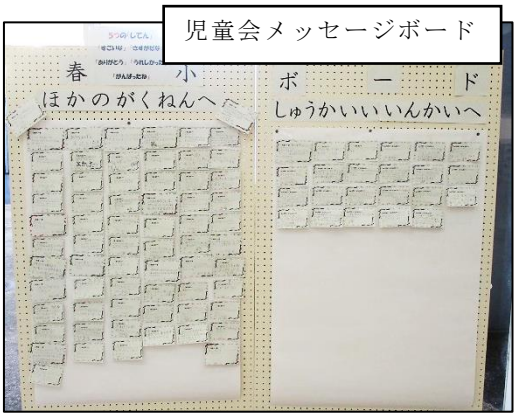
【やり方を動画で】

【昇降口にポスターを】

④ 視点１～３の手だての検証・成果

視点１　みんなとともに生きていく力を育てる指導の工夫（人間関係形成）」

全校児童が集会活動に対する思いを交流できるように『春小ボード』（全校交流用）を設置した。他の学年に対する思いをカードに書きやすくするために、「すごいなあ」「さすがだなあ」「ありがとう」「うれしかった」「がんばったね」の５つの視点をもたせた。そのカードを『春小ボード』に掲示することで、「あこがれ」や「思いやり」の気持ちを表出できるようにした。児童は他の学年に対する思いを意欲的に書いていた。どんなことを書けば良いのかが分からない児童もいたが、上記の視点を知ることで、他の学年に対する思いをもつことができた。掲示板にどんなことが書かれているのかを楽しみにする児童が多数いて、笑顔で掲示板を見る姿が見られたり、次も書きたいという声が挙がったりした。



児童会メッセージボード

視点２　よりよい集団をつくろうとする力を育てる指導の工夫（社会参画）」

全校児童が集会委員会に「集会のよかったところ」や「集会委員会へのお願い」を伝えられるように、『春小ボード』（集会委員用）を設置した。『春小ボード』に掲示された「集会のよかったところ」を集会委員が読むことで、自己有用感を高められるようにした。また、「集会委員会へのお願い」を読むことで、全校児童をより意識した話合い活動が行えるようにした。

集会委員会へのお願いには、「ルールが難しかったから簡単にしてほしい。」や「集会の時間が短いからもっと長くやりたい。」などがあった。それに対して、１年生にも分かりやすいルールや活動を考えた。また、様々な方法で事前にルールを伝えることで、集会当日のルール説明は不要となり、活動時間が長くなった。『春小ボード』の活用により、全校児童のお願いに応えようとする姿が見られた。さらに集会のよかったところを読んで、委員会活動に対する意欲が高まっていった。

視点３　なりたい自分に向けて頑張る力を育てる指導の工夫（自己実現）」

集会の目的や意義を達成するために、提案理由を意識した児童の活動を想像させ、提案理由を深めさせるようにした。全校児童が提案理由を意識して活動できるように、テレビ放送や「集会委員会だより」を活用し、集会活動のめあてを伝えさせた。また、活動の始めには、再度めあてを確認したり、活動終了後はめあてに対する振り返りを入れたりするようにさせた。集会活動では、年度当初に比べて、めあてを意識して実践している児童が増えてきている。しかし、まだめあてを意識できていない児童がいたり、めあては意識しているが、活動に反映できていなかったりする児童もいる。今後は各学級担任に協力してもらい、めあてをより意識しやすくすることと、実践を積み重ね他の学年との仲が深まるように指導していきたい。

たけのこにょっきっき

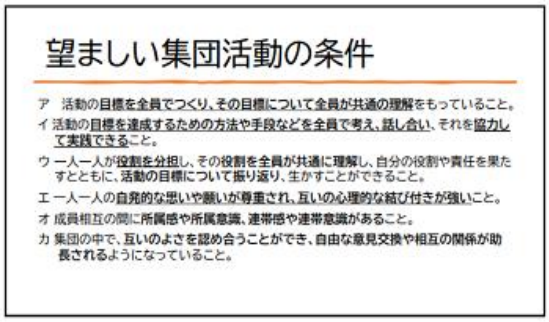
⑤ 講師紹介、指導講評

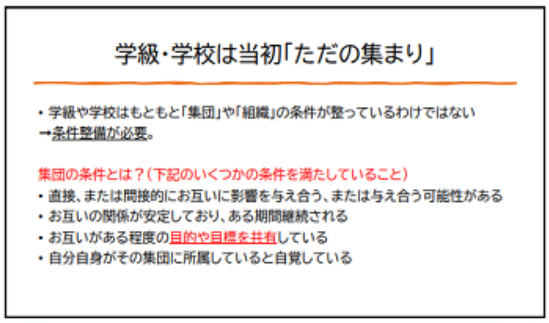
玉川大学　ＴＡＰセンター　准教授　川本　和孝先生

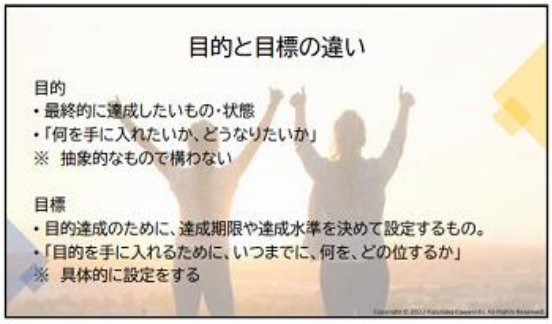
○集団や社会の形成者としての見方、考え方を働かせるために…

・指導観や集団観の共有化が大切である。

・集団の条件整備をする必要がある。



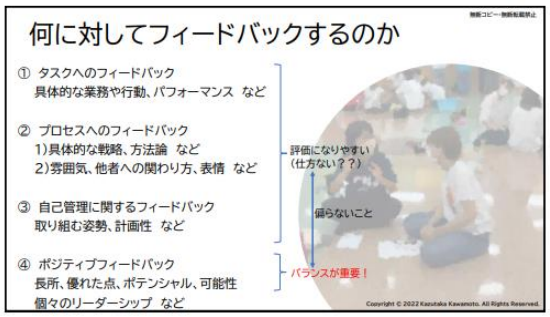


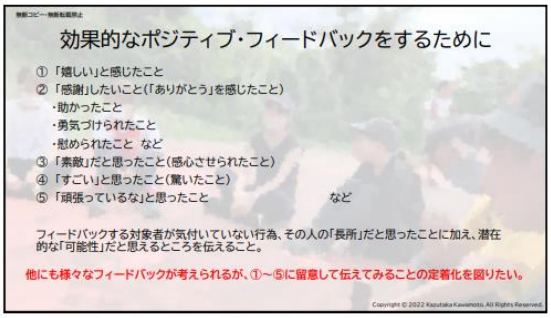


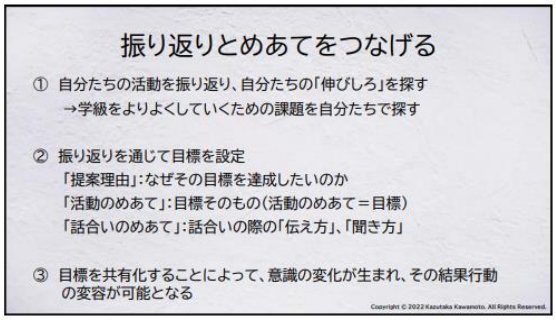
○自己肯定感や自己有用感を育むために…

・フィードバックとリフレクションを大切にする。

・「７つの場面」を活用し、自分たちの具体的な姿から課題を見付けることが大切である。







（スライドは講師資料より抜粋）

（２）実践事例２　立川市立上砂川小学校　代表委員会

① 日時、場所、対象、授業者

日時　令和４年１１月２日（水）　　場所　立川市立上砂川小学校

対象　全校児童　　授業者　久良木　優有　　尾形　希

② 活動名　代表委員会「ボーリング大会をしよう」

③ 一連の活動の流れ

事前

活動日	活動内容	指導の留意点
10 月 24 日 中休み	代表委員全員で提案理由（活動の目的や意義）を深める。	これまでの活動の振り返りをもとに、よりよい活動を企画できるようにする。
10 月 28 日の 中休みまで	計画委員会で活動計画書を作成する。	活動の目的や意義を共通理解した上で、話合い活動を進めることができるようにする。
10 月 31 日 中休み	代表委員全員に活動計画書を配布し、本時の活動内容を確認する。	事前に自分の考えをもって話合いに参加できるようにする。

本時

・議題　　「ボーリング大会の工夫をしよう」

・提案理由　現　状：全校のみんなから「ボーリングをしたい」と意見があった
　　手だて：だから他の学年と一緒に遊んで仲良くなり
　　ゴール：もっと楽しい上砂川小学校にしたい

・本議題について

代表委員会のめあて「上砂川小学校のみんなが学校を楽しいと思えるようにする代表委員会」を達成するためにどのような活動ができるか、全校児童から意見を収集した。それを代表委員で７つに分類し、「ボーリング大会」・「おはなばたけプロジェクト」・「声かけおにごっこ」の３つを代表委員会で企画・運営することに決まった。

どのような順番で活動するかについて代表委員と話したところ、以下のような順番で活動することに決まった。

(1)「ボーリング大会」　　：遊びが分かりやすく計画の見通しをもてる
(2)「おはなばたけプロジェクト」：見通しをもちにくいが自由度の高い
(3)「声かけおにごっこ」　　：以前に実施した「あいことばウィーク」と内容が似ている

本校の児童は話合い活動の経験が少ない。そのため、今回行う「ボーリング大会」では、教師が大枠（ピンやレーンを作る・中休みに自由参加で行う）を設定することにした。その上で、「他の学年と仲良くなる工夫」に焦点を当てて話し合うことができるようにする。

・本時のねらい

提案理由に沿って話し合い、決めることができる。

・本時の展開

児童の活動	教師の指導（○）と評価（★）
1. 始めの言葉 2. 議題の確認 3. 提案理由の確認	○児童が活動計画に沿って話し合うことで活動の見通しをもてるようにする。
4. 話合い ○話し合うこと１ 他の学年と仲良くなる工夫 ○話し合うこと２ 必要な役割	○児童の話合いをできる限り見守る。 ○児童の自治的活動の範囲を超えた場合、話合いが混乱した場合は、その場で指導する。 ★全校児童のことを考えて意見を伝えている。 （よりよい生活を築くための知識・技能） ★提案理由の達成に向けて発想を広げている。 （集団や社会の形成者としての思考・判断・表現） ★全校児童のことを考え実践活動への見通しをもって話し合おうとしている。（主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度）
5. 決まったことの確認 6. 終わりの言葉 7. 先生の話 ・振り返り ・終末の助言	自分のよかったところ・友達のよかったところ 全体のよかったところ・次の委員会に向けて） ○振り返りの視点に沿って伝える。 ○評価の観点に沿って実名を挙げ、具体的に称賛する。 ○実践に向けての意欲付けをする。

・話合い活動の様子

代表委員会のめあてである、「全校のみんなが学校を楽しいと思えるようにする」ことを達成するためには、他の学年と一緒に遊んで仲良くなるとよいと考え、「ボーリング大会」の工夫について話し合うことにした。

他の学年と関わるためには、「ペアを作って自己紹介をする」とよい。相手を知るために、「名刺を作って渡す」とよい。仲良くなるためには、「声を掛け合う」「エアハイタッチをする」とよい。などと、提案理由を意識した意見が挙がった。また決める際には、どれも実施できるのではないかという意見から、全ての意見が採用された。

「点数を付けるとよい。」という意見に対して、「低学年は点数を計算するのが難しいかもしれない。」という低学年のことを心配し、思いやる意見が出た。それに対して、「それなら点数は付けず、色のついたピンを置いて高得点ということにすればいいのではないか。」と意見が出て解決した。どの児童も、低学年のことを考えて話し合うことができていた。

事後

【活動の様子】

事前に代表委員会便りを各学級に配布し、「めあて」「日時」「場所」「ルール」を周知した。また、教員間でめあてを共通理解し、学級で改めて伝えるようにした。

ボーリング大会は、３日間の中休みと昼休みを使って開催した。縦割り班活動の班（１班２８人）を活用し、１回に３班ごと活動できるように計画した。

１日目は参加者があまり集まらず、他の学年とペアを組むことが難しかった。そこで、放送で開催を通知するようにした。一方、代表委員の児童は、自分の担当関係なくほぼ全員が集まり、積極的に参加していた。

２日目からは多くの児童が参加したが、ほとんどは低学年の児童であり、他学年でペアを組むのはまだ難しい状況であった。代表委員が自分の学級で声を掛け、仲の良い友達を誘ってくるようにした。

３日目の最終日はたくさんの児童が集まり、大変盛り上がった。中学年はもちろん、高学年も前日より集まり、一緒に活動したり、運営に参加したりしていた。

回数を重ねていくと、参加する児童同士で関わる場面が見られるようになった。特に、高学年の児童が低学年の児童に優しく声を掛けて関わろうとする姿が見られた。場の準備や片付けを手伝う児童が増えていった。

【ボーリング大会の様子】

【活動を終えて】

《代表委員会の児童の振り返り》

・たくさんの人が参加して楽しんでくれて嬉しかった。

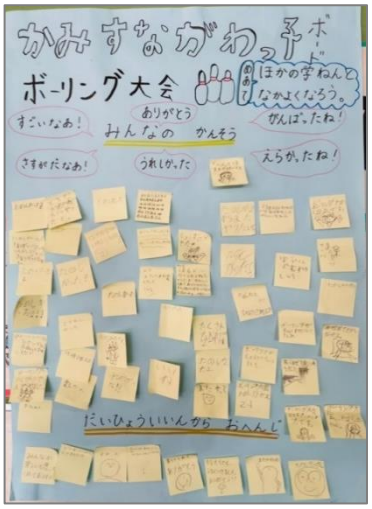
・次の活動では最初からもっとクラスの人に声を掛けようと思った。

《参加した児童の振り返り》

・たくさん遊べて楽しかった。（低学年）

・他の学年の人と遊んで楽しかった。めあての「他の学年と仲良くなる」ができたと思う。（中学年）

・低学年と遊ぶのは恥ずかしかったけれど、手伝えてよかった。（高学年）



《参加できなかった児童の振り返り》

・次はおにごっこをしてほしい。（低学年）

・いつ行ったらいいか分からなかった。（中学年）

・音楽集会の練習が忙しくて行けなかったけれど、次は行きたい。（高学年）

以上のような振り返りから、中学年以上の児童には、「他の学年となかよくする」という活動の趣旨が伝わっていたことが分かった。また、めあてを達成しようとする児童がいたことが分かった。

一方、これまで異学年交流が盛んに行われていなかったことから、他の学年との関わり方に戸惑っていた児童がいたことが分かった。

また、周知は様々な方法で行っていたものの、実際には十分でなく、本当は参加したかったができなかった児童がいたことも分かった。

今回の活動を通して、代表委員会として上砂川小学校がもっと楽しくなるような活動をしていきたいという意欲が高まり、自己有用感につながった。また、話合いや実践の中で代表委員会のめあてに立ち返って、全校児童のことや、目的意識をもって協力することができ、実践力も身に付いた。

今後も児童が主体となって活動を考え、実践を積み重ねていけるよう、見守っていきたい。

④ 視点１～３の手だての検証・成果

視点１　みんなとともに生きていく力を育てる指導の工夫（人間関係形成）

全校児童から上砂小で取り組みたい意見の収集を行った。収集した意見を一つ一つ大切にして分類し、議題の選定をした上でどのように扱うか明らかにした。その後、代表委員会だよりを作成し、リーダー側とフロア側が思いを共有できるようにした。

その結果、これまでの児童会活動に参加していなかった児童も参画しようとする意識が芽生え、全校児童の参画意識の向上につながった。

視点２　よりよい集団をつくろうとする力を育てる指導の工夫（社会参画）

実践後にメッセージボードを設置し、全校児童の声を通して交流できる場を設定した。このメッセージボードを全校児童が記入・閲覧できるようにすることで、「あこがれ」と「思いやり」の気持ちを表出できるようにした。

本実践である３日間行ったボーリング大会では、初日はそこまで人数が集まらなかったものの、２日目、３日目と活動を積み重ねると参加者が増え、３日目には代表委員会の児童ではない６年生も運営の手伝いをしてくれた。行きたかったけれど委員会や学校行事の準備などと重なってしまい行けなった児童も多数いた。今後は学校として各委員会と日程調整したり、各担任と協力体制を組んだりすることで、より多くの児童が参加しやすい環境を整えることも大切と考える。

視点３　なりたい自分に向けて頑張る力を育てる指導の工夫（自己実現）

提案理由（＝活動の目的や意義）を深め、話合いの軸にした。具体的には、全校の現状（今）を踏まえて、どのように（手だて）、どうなっていきたいか（ゴール）を明確にし、児童とともに提案理由を練り上げた。

その結果、児童が提案理由を意識して話し合うだけでなく、実践でも意識して行動する姿が見られ、メッセージボードにも「ありがとう」「交流が深まった」などの感想があり、異年齢交流を通して「あこがれ」や「思いやり」の気持ちが醸成された。

⑤ 講師紹介、指導講評

有明教育芸術短期大学　教授　石井　友行先生

○社会参画について（「あこがれ」や「思いやり」の気持ちの醸成→話合い活動の充実に向けて）

・子供たちの思考ツールとなるように板書を活用するとよい。（思考の過程の可視化）

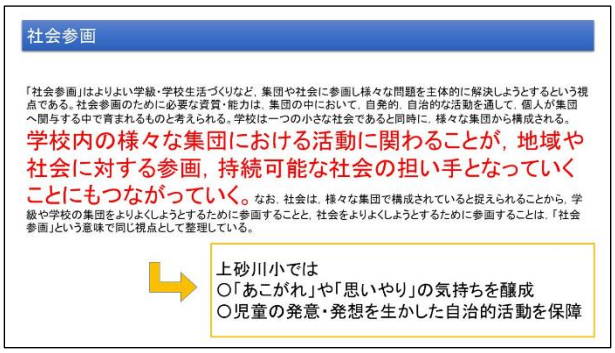
・ペットボトルの色について話し合った際の「意見→反対→改善案→解決」という話合いの過程を、子供たちにしっかり価値付けることが必要である。

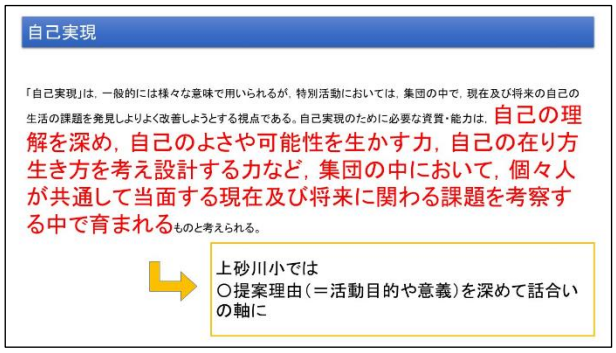
・実社会は異年齢集団である。立場や状況に応じた見方・考え方を指導していきたい。

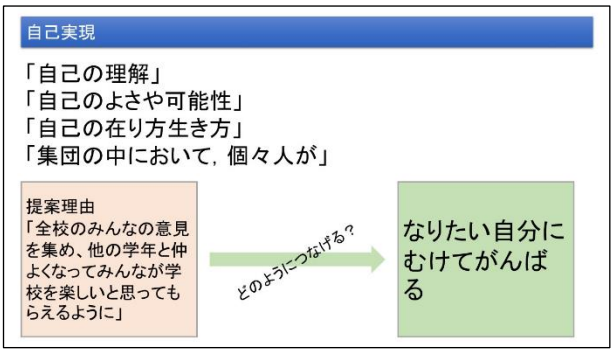
○自己実現について

・提案理由は話合いの指針となるため、子供任せにならないように、よく吟味するとよい。

・なりたい自分になるという「自己実現」には、提案理由を深めることだけではなく、『代表委員会のめあてを活用』『「思いやり」と「あこがれ」の気持ちの醸成』　『活動の振り返り（自己評価・相互評価）』の３点からのアプローチが必要ではないか。







（スライドは講師資料より抜粋）

第 7 回　集会委員会

今日の議題	たけのこにっきっき集会の計画を立てよう。			
提案理由	他学年の人と楽しみながら協力し、仲良くなる。(笑顔で活動する。) みんなでよろこぶ。 いっしょに考えたり、話したりする。			
役割分担	司会			
	黒板記録		ノート記録	
活動の順序	1.はじめの言葉 2.今日の議題 3.提案理由の確認と今日話し合うことへの質問 4.話合い↓ ①他学年の人と協力し、仲良くなるためにどんな工夫が必要か。 ②どんな役割が必要か。 5.決まったことの確認（ノート記録） 6.終わりの言葉 7.先生の話 ・振り返り記入 ・友達のよかったところを発表			

年　組　氏名（　　）

原案 ①みんなで笑う。ハイタッチ。 かぶったら自己紹介。かぶったら かぶったら声かける。 ②司会、ルール説明、準備	みんなへのお知らせとお願い ・意見を言ってほしい。 ・意見を考えてくる。
自分の意見	
自分のがんばったところ　次にがんばりたいこと	
友達のよかったところ（誰のどんなところ？）	

第7回（代表委員会）活動計画 11月 2日 （水）6時間目			
議題	他の学年と仲良くなれる工夫をしよう		
司会グループ（C）グループ	司会、	、	黒板、
提案理由	（今）全校のみんなの意見を集めボーリングをするために	（だから～して）他の学年と仲良くなって…	（～なりたい）みんなが学校を楽しいと思ってもらえるようにしたいから
決まっていること	ピロン、ボール、校庭、中休み、自由		

話合いの流れ	話合いの進め方
1はじめの言葉 2司会グループ紹介 3議題の確認 4提案理由の確認 5決まっていることの確認 6話合い 話し合うこと	他の学年と仲良くなれる工夫は何ですか？ 意見を聞く 質問ある？ 賛成意見ある？ 反対 〃 何もない意見 反対意見はどうしたら解決する？
7決まったことの発表 8先生の話 ふり返り 9おわりの言葉	

４　成果と課題

（１）成果

視点１　みんなとともに生きていく力を育てる指導の工夫（人間関係形成）

メッセージボードを活用し、上級生への「あこがれ」と下級生への「思いやり」をもたせていくことが、よりよい人間関係形成につながることが確認された。

視点２　よりよい集団をつくろうとする力を育てる指導の工夫（社会参画）

年度当初の委員会活動でオリエンテーションを行うことや、計画から振り返りまでの一連の活動を継続すること、児童の発意・発想を生かした自治的活動の場を保障することで、「全校のみんなのために」という目的や意義を達成する活動につながることが再確認できた。

視点３　なりたい自分に向けて頑張る力を育てる指導の工夫（自己実現）

提案理由を具体的にし、児童間で共通理解を図ることで、活動の目的や意義が明確になり、「(本部会で定義した）自己実現」を図ることにつながった。

（２）課題

視点１　みんなとともに生きていく力を育てる指導の工夫（人間関係形成）

全校児童から収集し整理・分類した意見を全校児童に伝えることで、児童会活動の目的や意義を共通理解していけるように、継続して指導を進めていくことが大切である。児童会のめあてを達成するための活動を積み重ねていくことが必要である。

視点２　よりよい集団をつくろうとする力を育てる指導の工夫（社会参画）

基本的な代表委員会や委員会活動の在り方（「児童の発意・発想を生かした自治的活動」の場を保障すること、「計画」から「振り返り」までの活動を一連の活動として捉えること)、活動に関する教員間の共通理解をさらに見直し、より多くの学校に広めていく。

視点３　なりたい自分に向けて頑張る力を育てる指導の工夫（自己実現）

提案理由を深めることだけではなく、今後は、児童会のめあての活用、「思いやり」と「あこがれ」の気持ちの醸成、活動の振り返り(自己評価・相互評価)からもアプローチしていくことが必要である。

研究に携わった方

部　長	畑　　理恵	世田谷・芦花小
副部長	星野　良明	足立・東渕江小
〃	渋井　洋子	東久留米・神宝小
〃	大藏　久美	小平・小平第六小
〃	尾形　俊亮	調布・調和小
〃	丹治　良太	葛飾・南奥戸小
会　計	山野奈央子	世田谷・玉川小
〃	高宮　良子	
授業者	星野　俊明	江戸川・春江小
〃	鈴木　敬太	江戸川・春江小
〃	久良木優有	立川・上砂川小
〃	尾形　　希	立川・上砂川小
	関田　裕子	世田谷・松原小
	川崎　真琴	青梅・第五小
	赤松　栄介	江東・枝川小
	秋本　麻美	葛飾・金町小
	星野　哲朗	小金井・南中
	井上　貴惠	葛飾・道上小
	菊地　佑太	小金井・東小
	松川　浩美	立川・第二小
	矢野　雅子	杉並・高井戸東小
	吉井　貴彦	世田谷・松沢小
	満山　寿子	北・としま若葉小
	島田　和崇	調布・柏野小
	久保田晃司	武蔵村山・第一小
	江口　佳寛	武蔵村山・第一小
	船倉　大輔	板橋・蓮根小
	上間　一蔵	荒川区立峡田小学校
	菊池　友也	新宿・四谷小
	吉沢　美和	町田・南第二小
	宮内　有加	中央・明石小
	鶴岡　明子	府中・南白糸台小
	千田　高志	あきる野・西秋留小
	根本　成明	府中・府中第三小
	佐藤　絢香	
	味村美恵子	元部長

Ⅲ　ク　ラ　ブ　活　動　部

研究主題

「よりよい人間関係や生活をつくり、自己のよさを生かすクラブ活動」

１　本年度の研究ついて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６０
（１）　研究主題設定の理由
（２）　研究の視点
（３）　研究構想図

２　実践事例・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６２
（１）　実践事例１　足立区立保木間小学校　ドッジボールクラブ
（２）　実践事例２　世田谷区立尾山台小学校　バドミントンクラブ

３　研究資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７５

４　成果と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７６

研究の経過

令和４年	５月２３日（月）	定期総会	目黒区立下目黒小
	７月２５日（月）	夏季集中研修　研究内容の検討	目黒区立下目黒小
	１０月２８日（金）	研究内容の検討	足立区立保木間小
	１１月　７日（月）	研究内容の検討	足立区立保木間小
	１１月１５日（火）	研究内容の検討	世田谷区立尾山台小
	１１月２１日（月）	第１回検証授業	足立区立保木間小
	１１月２８日（月）	第２回検証授業	世田谷区立尾山台小
令和５年	１月１２日（木）	拡大研究部会　研究紀要の検討	板橋区立若木小
	１月～２月	研究発表大会準備	
	２月２４日（金）	研究発表大会	目黒区民センター

１　本年度の研究について

クラブ活動部主題
「よりよい人間関係や生活をつくり、自己のよさを生かすクラブ活動」

クラブ活動部における「自己のよさを生かす」

目標やめあての達成のために自分の得意なことや個性を発揮しながら、すすんで努力したり同好の仲間と協働したりすることと捉えている。

（１）研究主題設定の理由

クラブ活動は、異年齢集団活動の楽しさを味わい、自分たちの手で活動を作り出すための方法の理解、人間関係をよりよく構築していくための相手を意識した思考力、多様な仲間の個性を受け入れ助け合ったり協力し合ったりして、よりよい人間関係を築こうとする態度といった、資質・能力を育てることを目標としている。また、自他のよさや頑張りに気付く中で、異年齢の人間関係を育み、自分たちのクラブ活動をよりよくするための課題に気付き、その課題を解決しながら、自分のよさや可能性を将来にわたって追求しようとする態度を育む。これらの一連の活動の中では、自己肯定感や自己有用感の高まりが期待できる。

令和３年度は、令和２年度に明らかになったことを基に検証授業を２回行った。人間関係形成においては、教師が見取った活動のよさ、児童が見付けた互いのよさや可能性、終末の助言で取り上げた成果や課題などをクラブ通信にまとめ児童に配布した。児童は、次回の活動への意欲を高めることができた。さらに、ＩＣＴを活用し、児童間のよいところ見付けや振り返りを共有することで、互いの考えが分かるようになった。社会参画においては、同好の仲間と自分たちの力で活動をつくり上げていくために、一人一人の思いを生かしてクラブ全体の目標を決定したり、４月に「クラブ活動でしたいこと」をアンケートに取ったりしたことで、毎時間のめあてが具体的になった。自己実現においては、短作文やクラブカードの内容の変容に着目するよう助言し、児童が自分のよさや可能性に気付けるように指導したことで、自分自身のことや異年齢の児童とのかかわりについて成長したと実感することができた。

また、昨年度は新たな手だてとして、「パワーアップカード」を活用し、計画、活動、振り返り、成果の発表のそれぞれの児童の様子について、記録したものを随時可視化していくことで、回を重ねるごとに自分たちの頑張ってきたことや成長を実感することにつなげることができた。さらに、児童間のよいところ見付けにも生かされた。司会グループがより意欲的に活動を進めたり、異年齢小グループでの活動中の交流が深まったりした。

本主題を設定して３年目となる今年度は、児童の自主的、実践的な取り組みを大切にしながら、これまでの研究で積み重ねてきた、毎時間及び年間の活動がよりよく展開されるよう指導の充実を図り、クラブ活動の目標を決める際に上記３つの視点との整合性をとって指導していく。また、「パワーアップカード」の活用について３つの研究の視点での成長を実感できるようにしていく。ＩＣＴの活用については、これまでの手だてをより効果的なものにできるように、情報共有や教師からの価値付け、計画委員会での指導にも生かし研究を深めていく。

（２）研究の視点

視点１「みんなとともに生きていく力を育てる指導の工夫（人間関係形成）」

・めあての決定と可視化　・クラブ通信の発行　・よさの認め合いの工夫

視点２「よりよい集団をつくろうとする力を育てる指導の工夫（社会参画）」

・目標の決定　・活動計画カードの活用　・終末の助言の工夫　・情報提供

視点３「なりたい自分に向けて頑張る力を育てる指導の工夫（自己実現）」

・めあての決定　・クラブカードの活用　・自分の成長を振り返る時間の設定

・児童理解を深めるための記録物の活用

（３）研究構想図

今日的課題	目指す児童像	児童の実態
・よりよい人間関係を築く力の育成 ・失敗にくじけない、強い心の育成 ・社会に参画しようとする意欲の育成	①異年齢集団の中で、同好の仲間とよりよい人間関係を築く児童（人間関係形成） ②共通の興味・関心を追求する活動を協力し合ったり、工夫したりしながら豊かなものにする児童（社会参画） ③自己の持ち味や得意なことを生かし、個性の伸長を図りながら、目標やめあてを達成しようと努力する児童(自己実現)	・興味・関心のあることに、すすんで取り組む。 ・クラブ活動を楽しみにしている。 ・仲のよい仲間と活動したがる傾向がある。 ・考えて行動することが苦手である。

研究主題　「よりよい人間関係や生活をつくり、自己のよさを生かすクラブ活動」

研究仮説　共通の興味・関心を追求する活動の中で、ＩＣＴを活用しながらこれまでの手だてを有効に活用していくことで、個性の伸長を図りながら、活動を楽しく豊かにし、よりよい人間関係を築く児童が育つだろう。

研究の視点と指導の手だて

視点１ みんなとともに生きていく力を育てる指導の工夫（人間関係形成）	視点２ よりよい集団をつくろうとする力を育てる指導の工夫（社会参画）	視点３ なりたい自分に向けて頑張る力を育てる指導の工夫（自己実現）
【めあての決定と可視化】 ・個人のめあてをＩＣＴを活用しめあてを伝え、互いに意識できるようにする。 **【クラブ通信の発行】** ・教師が見取った活動のよさ、児童が見付けた互いのよさや可能性、終末の助言で取り上げた成果や課題などをクラブ通信にまとめ、児童に配布する。 **【よさの認め合いの工夫】** ・友達のよさや頑張りをカードに記入し、振振り返りの場面で伝え合う。	**【クラブ全体の目標の決定】** ・視点１，２、３とクラブ全体の目標を関連付けて決められるようにする。 ・同好の仲間と活動を作り上げていくために、一人一人の思いを生かした目標を決める。 ・毎回その目標を意識して活動できるようにするために、掲示し、目標が達成できているかどうかを適宜問い掛ける。 **【活動計画カードの活用】** ・自分たちの力で計画し、活動をつくり上げるために、司会グループで役割を分担したり活動のポイントになるところを相談したりする。 **【終末の助言の工夫】** ・目標やめあてを意識して活動できたこと、全体の成長に気付いたことを取り上げ称賛する。また、クラブ全体の課題について伝え、よりよい活動にしていけるようにする。 **【情報提供】** ・教師の見通しのもと、活動が広がるように情報提供したり助言したりする。	**【めあての決定】** ・クラブ全体の目標を達成するために、毎時間、一人一人が何を頑張るのかを考え、めあてを決められるようにする。 **【クラブカードの活用】** ・クラブカードの振り返りの記述から、自他の成長に気付いていることを取り上げ、個々に認め称賛したり、全体に紹介したりすることを積み重ねる。 **【自分の成長を振り返る時間の設定】** ・学期末に、それまでの活動や自分の成長について、短作文を書く時間を設定する。 ・短作文やクラブカードの内容の変容に着目するよう助言し、児童が自分のよさや可能性に気付けるようにする。 **【児童理解を深めるための記録物の活用】** ・児童の思いや活動への期待などを把握できるように、記録物や短作文などをまとめる。 ・記録などから児童の実態を把握し、児童の思いが生かされるよう適切に指導・助言を行う。

【パワーアップカードの活用】

計画、活動、振り返り、成果の発表のそれぞれの児童の様子について、記録したものを随時可視化していくことで、
・児童間のよいところ見付けの視点を広げることができるようにする。　（視点１）
・より楽しく豊かな活動をしていくことができるようにする。　（視点２）
・次回のめあてを決め、達成を目指した活動ができるようにする　（視点３）

【情報共有ソフト・電子ホワイトボードの活用】

・活動中に見られた自他のよさや振り返りの場面で伝えられなかったものも、共有できるようにする。　（視点１）
・計画を立てる際の児童との連絡ツールとして活用したり、完成した活動計画カードを事前に共有したりする。　（視点２）
・自他のよさや頑張りを次回の活動のめあてに生かせるようにする。　（視点３）

よりよいクラブ活動を展開していくための一連の指導の手だて（時系列）

クラブ活動の設置・所属	(1)児童の発意発想を生かしたクラブの設立と所属決定を行う。
計画や運営についての説明	(2)オリエンテーションを行う。
計画や運営方針の話合い・決定	(3)自分たちのクラブの目標を作るよう指導する。 (4)計画委員会を開く。(5)異年齢小グループで活動するよう指導する。
クラブを楽しむ活動	(6)クラブカードを活用する。(7)終末の助言を工夫する。
クラブの成果の発表	(8)成果の発表の場を設ける。
学期・年度末の振り返り	(9) 一年間の成長や全体の成果を振り返る。

２　実践事例

（１）実践事例１　　足立区立保木間小学校「ドッジボールクラブ」

①日時、場所、対象、指導者

授業日：令和４年１１月２１日(月)
場　所：足立区立保木間小学校 校庭
対　象：４年１０名 ５年７名　６年１５名　計３２名
指導者：髙畠　誠　門坂恵太　庄司千晶

②内容

＜第１回クラブ活動＞

本校のクラブ活動の特質などを伝えるオリエンテーションを行った。次に、役割分担について、本クラブの設立を推進した児童が立候補し、クラブ長（６年１名）・副クラブ長（５年２名）が決定した。その後ドッジボールクラブの目標を決めた。ドッジボールクラブの目標を決めるにあたり、どんなクラブにしたいか聞き、全員の思いが入るように以下のように決定した。

ドッジボールクラブの目標
みんなが仲のよいクラブ（人間関係形成）
信頼しあえるクラブ、協力しあえるクラブ（社会参画）
一人一人が楽しいと思えるクラブ（自己実現）

その後、４・５・６年生の児童を均等に分けた４チームを相談の上決め、今後の活動内容について話し合った。

＜前期の活動＞

熱中症アラート発令の関係で校庭での活動ができない回が続き、教室で活動内容について工夫ができないか話し合った。そこで、「もっとたくさんの人と関われるように、コートを「田」の字にして、全チーム一緒に試合をする」、「苦手な人も楽しめるように、柔らかいボールを使う」、「たくさんボールに触れるように、ボールの数を２つにする」「チームワークを深められるように、王様ドッジボールをする」といった意見が出た。なぜそのように考えたのかを問い掛けると、いずれも「クラブの目標を達成できるようにしたいから」という理由だったため、目標を意識して発言していたことを称賛した。その後、校庭で活動した際には、これまでよりチームワークを深め、楽しんで活動している様子が見受けられた。

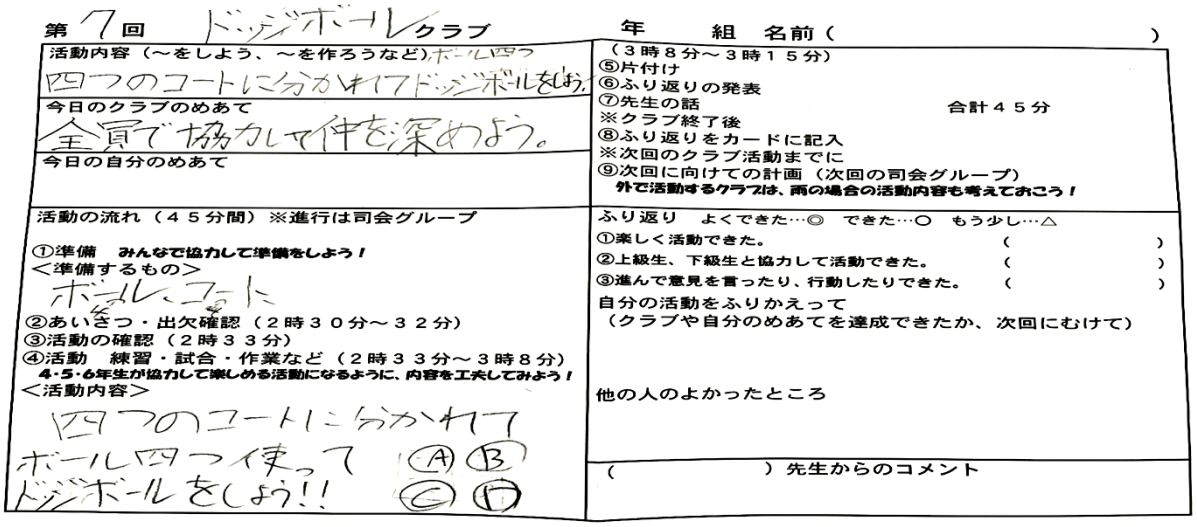
＜後期の活動＞

後期最初の活動では、残りの活動でどのようなことをしたいのかを、児童が短冊に書いた上で話合いを進めた。「円を４つ描き、ボールを４つ使って試合をする」、「障害物を設置したドッジボール」、「学年ごとに分かれてのドッジボール」、「４チームによるトーナメント戦」を行うことになった。積極的な発言とともに工夫した考えが多く出た。ここでもクラブの目標を理由に挙げながら発言している児童が多かった。また、前期の活動で課題として挙がった、細かいルール設定の共通理解をすることができた。終末の助言ではこれらのことを称賛し、価値付けた。

③一連の活動の流れ（手だて）

＜事前＞【めあての決定】

クラブ全体の目標を達成するために、一人一人が毎時のめあてを決められるようにする。めあては、児童が作成した活動計画カードの中に書き込むようにする。


第7回　ドッジボールクラブ　　年　組　名前（　　）

活動内容（～をしよう、～を作ろうなど）ボール四つ
四つのコートに分かれてドッジボールをしよう
今日のクラブのめあて
全員で協力して仲を深めよう。
今日の自分のめあて

活動の流れ（４５分間）※進行は司会グループ
①準備　みんなで協力して準備をしよう！
＜準備するもの＞
ボール、コート
②あいさつ・出欠確認（２時３０分～３２分）
③活動の確認（２時３３分）
④活動　練習・試合・作業など（２時３３分～３時８分）
4・5・6年生が協力して楽しめる活動になるように、内容を工夫してみよう！
＜活動内容＞
四つのコートに分かれて
ボール四つ使って
ドッジボールをしよう!!
Ⓐ Ⓑ Ⓒ Ⓓ

（３時８分～３時１５分）
⑤片付け
⑥ふり返りの発表
⑦先生の話　　合計４５分
※クラブ終了後
⑧ふり返りをカードに記入
※次回のクラブ活動までに
⑨次回に向けての計画（次回の司会グループ）
外で活動するクラブは、雨の場合の活動内容も考えておこう！

ふり返り　よくできた…◎　できた…○　もう少し…△
①楽しく活動できた。　（　　）
②上級生、下級生と協力して活動できた。　（　　）
③進んで意見を言ったり、行動したりできた。　（　　）
自分の活動をふりかえって
（クラブや自分のめあてを達成できたか、次回にむけて）

他の人のよかったところ

（　　）先生からのコメント

＜本時＞【パワーアップカードの活用】

クラブ全体の成長に気付くことができるように、児童の発言や行動、クラブカードから教師が価値付けたいものをまとめ、可視化する。回を重ねるごとに内容が増えていくようにする。

令和４年度　ドッジボールクラブパワーアップカード（一部抜粋）

クラブ活動の特徴	４・５・６年生が一緒に仲よく活動します。	ドッジボールが好きな仲間が集まって、自分たちの力で協力し合い、工夫して活動を進めます。	自分の得意なことや個性を生かして、目標やめあての達成のために頑張ります。
ドッジボールクラブの目標	**みんなが仲のよいクラブ**	**信頼し合えるクラブ 協力し合えるクラブ**	**一人一人が楽しいと思えるクラブ**
みんなができたこと 6/27	①クラブの目標を意識しながら意見を出すことができた。 ②ドッジボールが苦手な人や下級生のことを考えた活動内容を考えることができた。	①活動内容を工夫することができた。 ②上級生と話し合いながら活動内容を考えることができた。 ③下級生の考えを聞きながら話し合うことができた。	①自分の意見を伝えることができた。 ②司会として話合いを進めることができた。
みんなができたこと 7/11	③前回の話合いから、さらに工夫することはできないか、みんなで話し合うことができた。	④司会グループの６年生が中心になって話合いを進めてくれた。進め方が上手だと思った。	③司会としてみんなの意見を聞きながら話合いを進めることができた。
みんなができたこと 9/26	④みんなで話し合ったことをもとに、仲よく活動することができた。 ⑤みんな笑顔で活動することができた。	⑤６年生が取ったボールを譲ってくれて嬉しかった。 ⑥同じチームの上級生の話を聞いて、すすんで活動することができた。	④クラブの目標を意識して、前期の活動をすることができた。 ⑤下級生にボールを譲ることできた。
みんなができたこと 10/31	⑥後期の活動内容を話し合って決めることができた。 ⑦一人一人がしっかり考えて、たくさんの意見を出し合うことができた。	⑦上級生が分かりやすく考えを説明してくれた。 ⑧上級生が楽しそうなアイディアを出してくれた。	⑥前回上手くいかなかったことを話合いで修正することができた。 ⑦クラブ全体のめあてを意識して話し合うことができた。 ⑧自分の考えを皆に分かりやすく説明することができた。

＜事後＞【クラブ通信の活用】

自他のよさやクラブ全体の成長などを児童自身が実感できるようにするために、教師が見取った活動のよさ、児童が見付けた互いのよさや可能性、終末の助言で取り上げた成果や課題などをクラブ通信にまとめ、児童に紙と電子ホワイトボードで配付する。児童が随時クラブ通信を見返すことができるよう、クラブカードに貼りためるようにする。

ドッジボールクラブ通信　No.　1

令和４年８月１日

発表した人に聞いてみると、「みんながボールをさわれるようにするため」、「ボールに当たってもいたくないようにするため」といった理由からでした。ドッジボールクラブの目標の、

①みんなが仲のよいクラブ　②信らいし合える（思いあえる）クラブ　③一人一人が楽しいと思えるクラブ　④協力しあえるクラブ

を意識していることがよく分かる発言でした。皆さんの振り返りからです。

4－1	・Oさんがたくさん発表していてよかった。(C1) ・Oさんの考えがよかった。(C2) ・いろいろな人が意見を出していた。(C3) ・６年生が意見を発表していたところがよかった。(C4) ・B グループの人たちが進めてくれた。特にOさんが進めてくれた！(C5)	4－2	・よく意見を言えた。(C6) ・意見をたくさん言っていた。(C7) ・いろいろしゃべっていたところがよかった。(C8) ・ドッジボールのルールをしっかり工夫していた。(C9)
5－1	・Oさんがいろいろと進めてくれた。(C10) ・６年生がすすんで取り組んでいてすごかった。(C11)	5－2	・いっぱい４年生と６年生が発表していた。(C12) ・Oさんが話を進めていてそんけいした。(C13) ・司会をがんばって仲間と協力できて楽しかった。(C14)
6－1	・みんなよかった。(C15) ・Oさんが司会になって進めていてよかった。(C16) ・Oさんがすすんで発表していた。(C17) ・Oさんが意見に対して質問していた。(C18) ・みんなに聞こえやすいようにOさんがしゃべっていた。(C19) ・Oさんがせっきょく的に発表していてよかった。(C20)	6－2	・Oさんがたくさん発表できていたからいいと思った。(C21) ・ほとんど６年生が発表していたので、４，５年生にも発表してほしいな。(C22) ・みんな意見を発表していた。(C23) ・いろいろ工夫できるところがあるとわかった。(C24) ・Oさんが内容を進めていた。(C25) ・司会ががんばっていた。(C26)

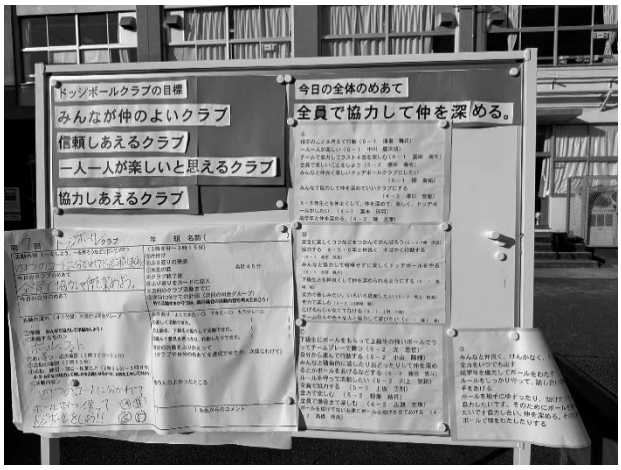
みんなで出し合ったアイディアを実際にやってみて、上手くいったところ、上手くいかなかったところをふりかえられるといいですね！

計画や役割についての話合い

合意形成を図り、活動内容や活動計画役割を決める。

・クラブカードやクラブ通信、パワーアップカードを参考にしながら活動を振り返り、クラブ全体でできるようになったことや、これから伸ばしていきたいことについて話し合った。
・自分たちで活動をスムーズに進められるようになったこと、チームの仲間に声を掛けられるようになったことなどの成果を確認した。
・準備に時間がかかるので、皆で協力して準備を進めていくことを確認した。

次の一連の活動へ



振り返り

活動を振り返り、次の活動に生かす。

・めあての「後期の活動内容を協力して決める」ことについて各自で振り返ることができた。「前期の反省を生かして、細かいルールまで決めることができた」「いろいろな工夫を考えて発言することができた」「クラブの目標を意識して発言できた」といった振り返りが見られた。
・前期の活動でうまくいかなかった部分を踏まえて活動できるようになり、クラブの目標を念頭に置きながら活動できるようになった。
・もっと自分のチームだけでなく、他のチームとの関わりを増やす工夫を含んだ意見や、下学年の児童やドッジボールが苦手な人への配慮を含んだ意見について称賛した。

計画や役割についての話合い

活動内容や活動計画について話し合ったり、
役割分担したりする。

・司会グループと担当教員との計画委員会では、具体的にどのように準備を進めていくかを確認した。
・４つの円の大きさや線を引く場所、時間配分や各チームの陣地など、詳細にわたって共通理解を図った。
・活動内容を踏まえた上でめあてを「全員で協力して仲を深める」に決めた。
・雨天時の際の活動についても話し合った。室内で玉入れの玉を使い、障害物を設置したドッジボールをすることに決まった。

活動（本時）

分担された役割を果たしたり、
活動を楽しんだりする。

・司会グループのＡチームは、毎時の全体のめあての達成を意識して、自分の役割を率先して果たしていた。
・事前に準備を協力して進めたり、進行について確認したりする姿が見られた。
・円を４つ作り、４チームで同時に試合を行った。
・上級生が下級生に声を掛けたり、ボールを譲ったりする様子が見られた。チーム内での信頼関係の高まりを感じ取れた。
・ルールを共通理解できていたため、最後までスムーズに自分たちの力で活動が進んでいた。
・試合が始まる前や試合中に、チームで作戦について相談する姿も見られ、前期からの成長を感じることができた。

④視点１～３の手だての検証・成果

視点１　みんなとともに生きていく力を育てる指導の工夫（人間関係形成）

【クラブ通信の発行】

・自他のよさやクラブ全体の成長などを児童自身が実感できるようにするために効果的であった。活動時間内で伝えきれなかった成果や課題についても伝えることができた。

・電子ホワイトボードにもアップしたことで、児童が進んでクラブ通信を見返すことにつながった。

【よさの認め合い】

・活動の振り返りの中で、他の児童のよかったところを見付け発表した。異年齢の児童のよいところをお互いに見付け合う姿勢が身に付いたこととともに、次時への意欲付けにもつながった。

視点２　よりよい集団をつくろうとする力を育てる指導の工夫（社会参画）

【クラブ全体の目標の決定】

・一人一人の思いを生かしてクラブ全体の目標を決定し、毎回それを掲示したことで、毎回の活動の中でクラブ全体の目標を意識した行動、発言が多く見られるようになった。

【クラブ全体の成長につながる終末の助言の工夫】

・目標やめあてを意識して活動できたこと、クラブ全体の成長に気付いたことを取り上げ称賛したことが、児童やクラブ全体の活動への意欲を高めることにつながった。

・クラブ全体の課題についても伝えたことで、課題を次時に生かし、よりよい活動にしていくことができた。

【パワーアップカードの活用】

・ドッジボールクラブのこれまでの成長や努力を振り返り、さらによりよいものにしていこうとする意欲を高めることにつながった。

視点３　なりたい自分に向けて頑張る力を育てる指導の工夫（自己実現）

【個人の目標やめあての達成のための助言の工夫】

・児童自身が成長できていると実感をもてるようにするために、クラブカードの振り返りの記述から、自分の成長に気付いていることを取り上げ、称賛したり、全体に紹介したりすることを積み重ねた。児童が自信をもって活動したり、他の児童のよさを見付けたりするきっかけになった。

【パワーアップカードの活用】

・どのようなことを意識して活動したらよいのかを、一人一人が理解して取り組む様子が見られた。

⑤講師紹介、指導講評、講師資料

有明教育芸術短期大学副学長　長田信彦先生

＜指導講評＞

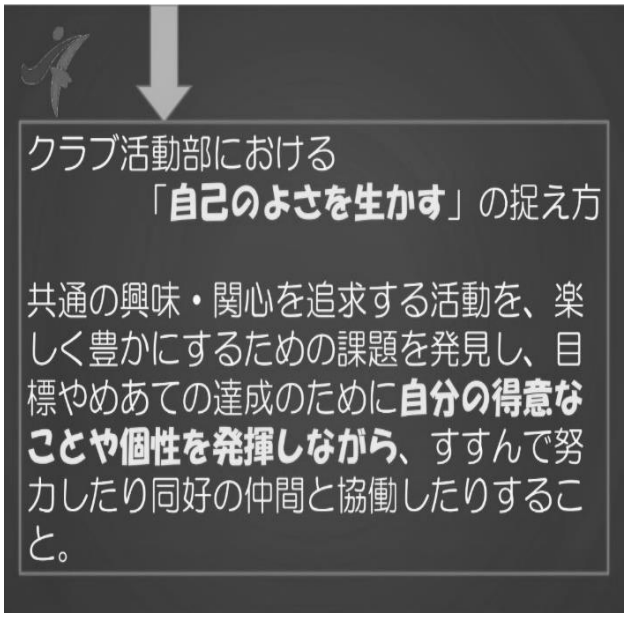
・時間通りに進めることができていた。活動量を十分に確保できていた。

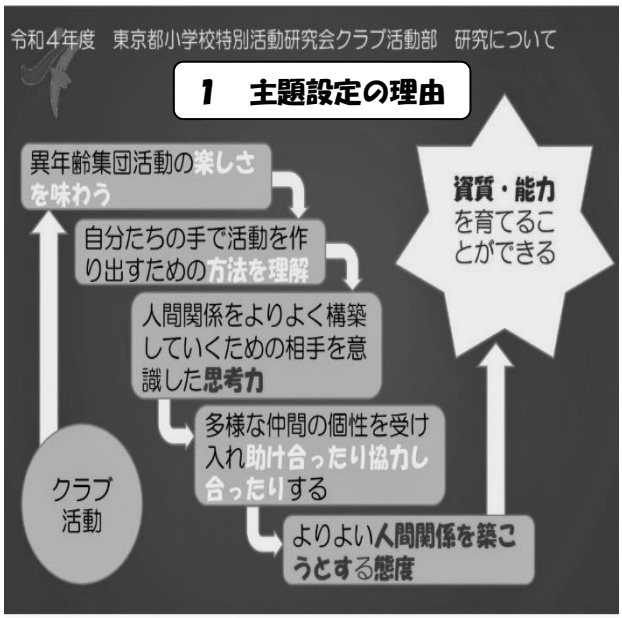
・ボールが当たっても不平不満を漏らすことなく、各チームで声を掛け合い、協力して活動することができていた。

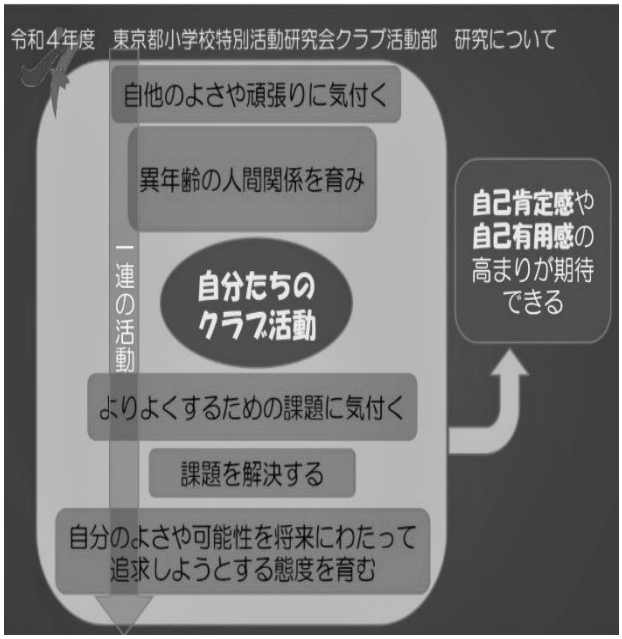
・児童の表情がとてもよく、「クラブ活動が好き」という気持ちが伝わってきた。

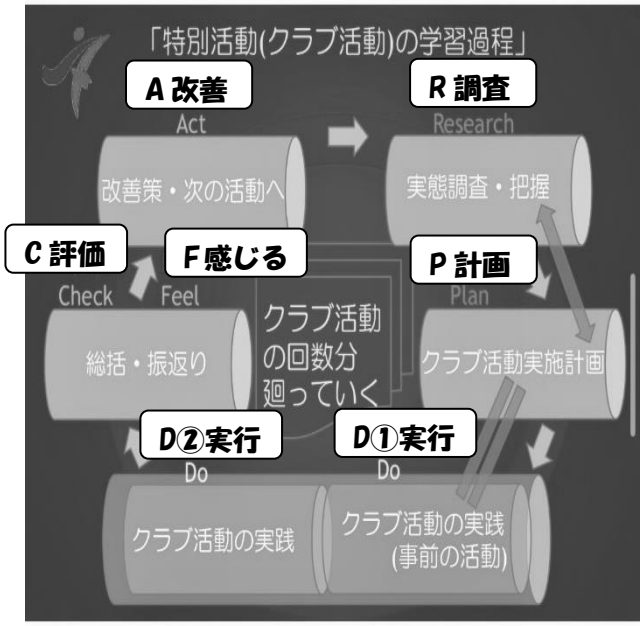
・クラブで育てたい力を養うためには、活動の回数の確保が必要である。

＜講師資料＞









（２）実践事例２　世田谷区立尾山台小学校「バドミントンクラブ」

①日時、場所、対象、指導者

授業日：令和４年１１月２８日(月)
場　所：体育館
対　象：４年９名　５年１３名　６年６名　計２８名
指導者：矢部　聡　齋藤　陽子

②内容

＜第１回クラブ活動＞

クラブ活動の特質やねらいについてのオリエンテーションを行った。自分たちの力で、自主的、実践的に取り組むことを強調して指導をした。児童のこれからの活動への期待の高まりも感じられた。

クラブ長（６年）副クラブ長（６年・５年）記録（６年・５年・４年）が立候補で決定し、バドミントンクラブの目標の話合いを行った。クラブ活動のねらいについても再度確認をし、３役が中心となって、ＩＣＴ機器を活用しながら話し合った。みんなで合意形成を図りながら目標を決めることができた。決まった目標は以下の３つである。

バドミントンクラブの目標

名前を呼び合う・声をかけ合う・相手をほめ合うクラブ（人間関係形成）
準備・片付け・活動を協力して積極的に行うクラブ（社会参画）
目標に近付けるように努力をするクラブ（自己実現）

振り返りの教師からの助言では、異年齢小グループのチームで計画・運営を輪番で行っていくことで、バドミントンクラブの目標が達成できることを伝え、全員の共通理解を図った。

１年間で一人一人がどのように成長したいのかを考え、情報共有ソフトを活用し、みんなで見合う時間をとった。５・６年生の中には、自分の成長のみならず、クラブ全体のことを考えて活動したいという思いをもっていることが分かった。

一年後にどんな自分になりたいですか？

４年生
・バドミントンが強くなりたい　・どのような人でも関係なく仲良くできるようにしたい
・相手のことを考えられるようになりたい・人任せにしないで自分にできることは自分で行う

５年生
・他学年と協力して仲を深めたい・全員の名前を覚える　・判断ができるようにする
・準備・片付けが素早くできる　・今よりもうまくなりたい　・目標を達成したい
・協力する力を身に付けたい　・コミュニケーションを上手くとれるようにしたい

６年生
・他学年との仲を深め、自分の目標に近付きたい・他学年に声を掛け、気軽に話せるようにしたい
・全員が全員の名前を覚え、呼び合い、学年関係なく仲を深めたい
・活動時間が長くなるように自分にできることをすすんで協力したい

＜１学期の活動＞

どんな活動をみんなでしたいですか？

試合　ダブルス　トーナメント　チーム戦　個人戦　強いスマッシュを打ちたい　ラリー練習
仲良くない人とも名前で呼び合いた　たくさん練習をして上手くなりたい　他学年との勝負

上記の「取り組んでみたいこと」を基に、司会グループで話し合って活動計画を立てて活動した。仲がまだ深まっていないということから、仲が深まるための活動も入れてみようということになり、なんでもバスケット、風船バドミントンなどを行った後に、ラリー練習を行った。毎回の「振り返り」や「よいところ見付け」から見取った児童のよさや頑張りを、活動に入る前の先生からの話や終末の助言で触れるようにし、具体的によさを価値付け、そのよさを全体に広げられるように助言をした。それぞれのめあての達成に向けてみんなで楽しみながら自主的、実践的に取り組んだ。

＜２学期の活動＞

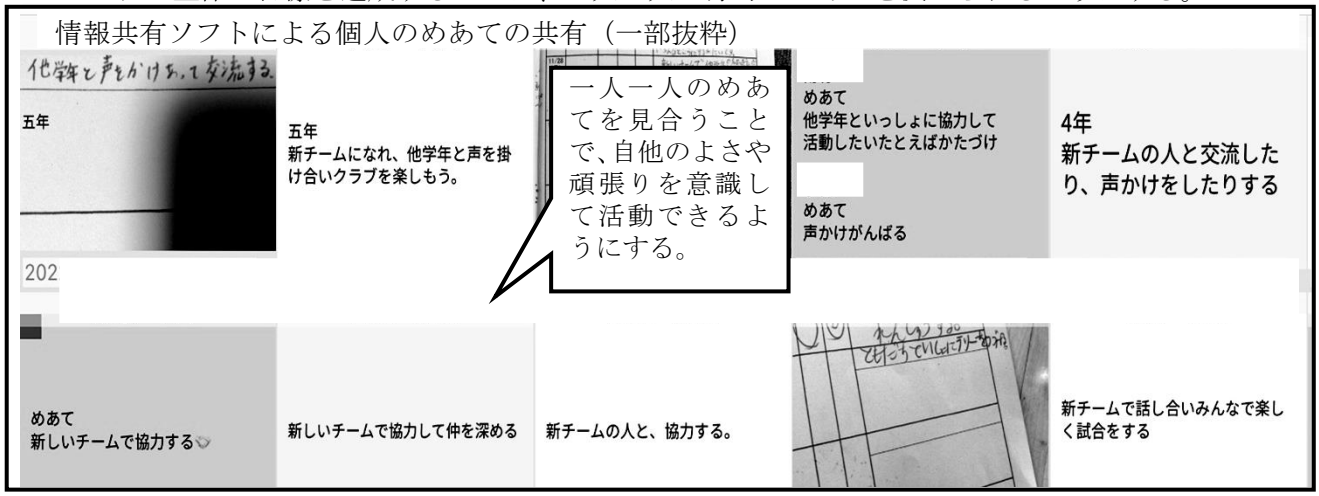
ダブルスの試合やトーナメント戦を計画し取り組んでおり、４月当初より、コースを狙って打ったり、スマッシュに挑戦したりと技能面で成長を感じられた。一方で、計画を立てる際にクラブ長と副クラブ長任せになってしまった回があり、みんなのためにすすんで行動できたクラブ長と副クラブ長を価値付けるとともに、みんなで役割を分担して取り組むよさについて伝えた。

③一連の活動の流れ（手だて）

＜事前＞【めあての決定】

クラブ全体の目標を達成するために、一人一人が毎時のめあてを決められるようにする。

情報共有ソフトによる個人のめあての共有（一部抜粋）



【活動計画カードの活用】

自分たちの力で計画し、活動をつくり上げるために、司会グループで毎時の全体のめあてを決めて、役割を分担する。また、毎時の全体のめあてを達成するための活動を計画し、活動の工夫やポイントを話し合う。活動計画カードは事前に情報共有ソフトを活用し、バドミントンクラブの全員が確認できるようにする。

11／28　第　7　回　バドミントンクラブ　活動計画カード

司会グループ（名前・学年）　＜1＞

めあて
新しいチームで、仲を深め声をかけあい試合を楽しもう

新しいチームでどのような声を掛け、どのように楽しむのか考えさせ、個人のめあてを決められるようにする。

順番	時間	活動	担当	ポイント
1	1分	あいさつ		前回の活動の成果や課題を基に、司会グループと担当の教員で話し合って全体のめあてを決める。
2	1分	出席確認		
3	1分	今日の計画とめあての発表		
4	2分	第6回活動の、友達のよかったところ発表		友達のめあてをかくにんしましょう。 よさにたくさん気付きましょう。
4	1分	先生の話		活動１と活動２の時間やポイントを中心に司会グループで話し合って決める。
5	3分	準備体操		）
6	8分	活動１ バドミントンリレー		クーラー側から一往復する。 名前を呼んで応援しよう！！
7	30分	活動２ チーム対抗戦		3分で1試合　点を取ったり取られたりしたら交代
8	3分	片付け		ラリーの練習はグループの違う学年と仲良く取り組もう）
9	3分	振り返りカードの記入		自分のめあてにそって振り返りましょう。
10	3分	よかった友達の発表		友達のよさをたくさん知りましょう。
11	3分	先生の話	先生	本時で期待したいことや司会グループへの価値付けなどを簡単に伝えるようにする。
12	1分	終わりのあいさつ		
計	60分			

先生から　学習発表会お疲れ様でした。終わった後のクラブの計画1班と3役のみなさんが頑張りました。今日から新チーム違う学年と積極的に交流できるとさらに楽しめるよね！！期待しています！！

＜本時＞【パワーアップカードの活用】

クラブ全体の成長に気付くことができるように、児童の発言やクラブカード、情報共有ソフトの記録から教師が価値付けたいものを可視化する。回を重ねるごとに、パワーアップカードの内容が増えていくようにする。また、定期的に児童がカードを見返したり、教師が繰り返し価値付けたりすることで、より一層の全体の成長を実感できるようにする。

R4　バドミントンクラブパワーアップカード（一部抜粋）

クラブ活動の特徴	バドミントンが好きな仲間が集まって、４・５・６年生で一緒に仲よく活動します。	自分たちの力で協力し合い、工夫して活動を進めます。	自分の得意なことや個性を生かして、目標やめあての達成のために頑張ります。
目標	名前を呼び合う・声を掛け合う・相手を褒め合うクラブ	準備・片付け・活動を協力して積極的に行うクラブ	目標を達成するために、一人一人の個性を生かすクラブ
みんなができたこと 4/25	①他学年と交流できた。 ②初めての人とも一緒にラリーを楽しめた。 ③同じクラブの人の顔と名前が大体分かった。 ④○○さんが「いいね」や「ごめん」などを言っていてよかった。 ⑤相手の名前をたくさん呼べた。	①初めてクラブ長になったので、他学年と協力しながら自分の実力を伸ばしていきたいと考えることができた。 ②クラブの目標決めでたくさん発言した。 ③得意そうな人とあまりやったことのない人がいたので、みんなで楽しめるように考えたい。 ④初めてバドミントンをして楽しかった。もっとコツをつかめるようにしたい。	①強く打つことができた。 ②教えてもらうことで、上手く打つことができた ③自分の目標を決めることができた。 ④シャトルをしっかり見て打つことができた。 ⑤ラリーを６回続けることができた。 ⑥相手が取りやすい胸あたりに打つと長くラリーが続くことが分かった。
みんなができたこと 5/16	⑥ペアを組めていない人に声を掛けて一緒に活動できた。 ⑦○○さん、○○さん、○○さん、○○さんの名前を覚えることができた。 ⑧アドバイスを伝え合うことができた。 ⑨「ドンマイ」や「もう一回」「ナイス」の声を掛けることができた。 ⑩ばくだんゲームやハンカチ落としで仲を深めることができた。	⑤準備や片付けを協力してできた。 ⑥協力して取り組むことで楽しく活動できた。 ⑦○○さんがみんなが行動しやすいよう声を掛けていた。 **本時の中での活用の仕方** 活動に入る前の先生からの話や終末の助言で前回のよかったところを伝えたり、これまでの成長を振り返ったりする際に活用する。目標やめあてを達成しようとする意欲を高められるようにする。	⑦ラリーを続けるために高く上げることを意識して取り組めた。 ⑧相手を見て打つことを意識すると、相手のところにいくことが分かった。
みんなができたこと 6/13	⑪いろいろな人と楽しくバドミントンができた。 ⑫仲をとても深められた。 ⑬４年生と仲よくなれた。 ⑭チームで楽しんで活動することができた。	⑧積極的に片付けることができた。 ⑨すすんで人に声を掛けて楽しくラリーをすることができた。 ⑩静かに話を聞くことができた。 ⑪自分の班が司会のときに頑張ることができた。	⑨前より上達できた。 ⑩天井より１５０ｃｍほど下を打つと相手が取りやすいことが分かった。 ⑪高いところも低いところも取れるようにする必要があることに気付くことができた。
みんなができたこと 9/12	⑮違う班でも、一人の子に一緒に練習しようと言うことができた。 ⑯多くの場面で多くの声掛けをすることができた。 ⑰みんなで楽しく安全に取り組むことができた。	⑫負けてしまっても協力して試合をすることができた。 ⑬時間を見て進行することができた。	⑫打ち返すときに低く打つと相手が取りにくいことが分かった。 ⑬一学期と比較すると、上手くなったことを実感できた。
みんなができたこと 9/26	⑱毎回「ドンマイ」の掛け声を言うことができた。 ⑲プラスの言葉掛けをすることができた。 ⑳場を盛り上げて雰囲気を明るくすることができた。	⑭コートの準備を素早く行うことができた。 ⑮みんなに時間が分かるように大きな声で声掛けをすることができた。 ⑯準備に遅れたが、片付けを率先して行うことができた。 ⑰計画通りにならないときに、すぐに判断して進めることができた。	⑭楽しく、仲良く、全力を出して取り組むめあてが達成できた。 ⑮シャトルを上手くコントロールすることができた。
みんなができたこと 10/17	㉑他学年や同じ学年の人のよいところをたくさん見付けることができた。 ㉒たくさん掛け声を掛けることができた。 ㉓○○さんと声を掛け合い試合をすることができた。 ㉔一緒に試合をした人たちの名前を覚えることができたから、違う人の名前を覚えたい。 ㉕失敗をしても責められずに仲間の優しさを感じた。 ㉖他学年と交流するときに、言葉が切り出しづらかったが、思い切ってはずかしがらずに言うことができた。 ㉗試合には負けてしまったが、相手のよいところを見付けることができた。	⑱相手が打ちやすいように打つことができた。 	⑯同じぐらいの強さの人と練習たら上手く打つことができた。 ⑰勝つためにネットギリギリのところで打ったりスマッシュをしたりすることができた。 ⑱戦う時のポイントを見付けることができた。 ⑲大きなサーブを使って勝つことができた。 ⑳ジャンプしながら高いところで打つことができた。 ㉑ねらったところに打つことにチャレンジできた。

この人すごい！！	00なところが
さん さん・さん	まだシャトルを打っていない人にサーブをさせてあげていました。 試合の勝ち負け関係なく楽しそうに試合をやっていました。

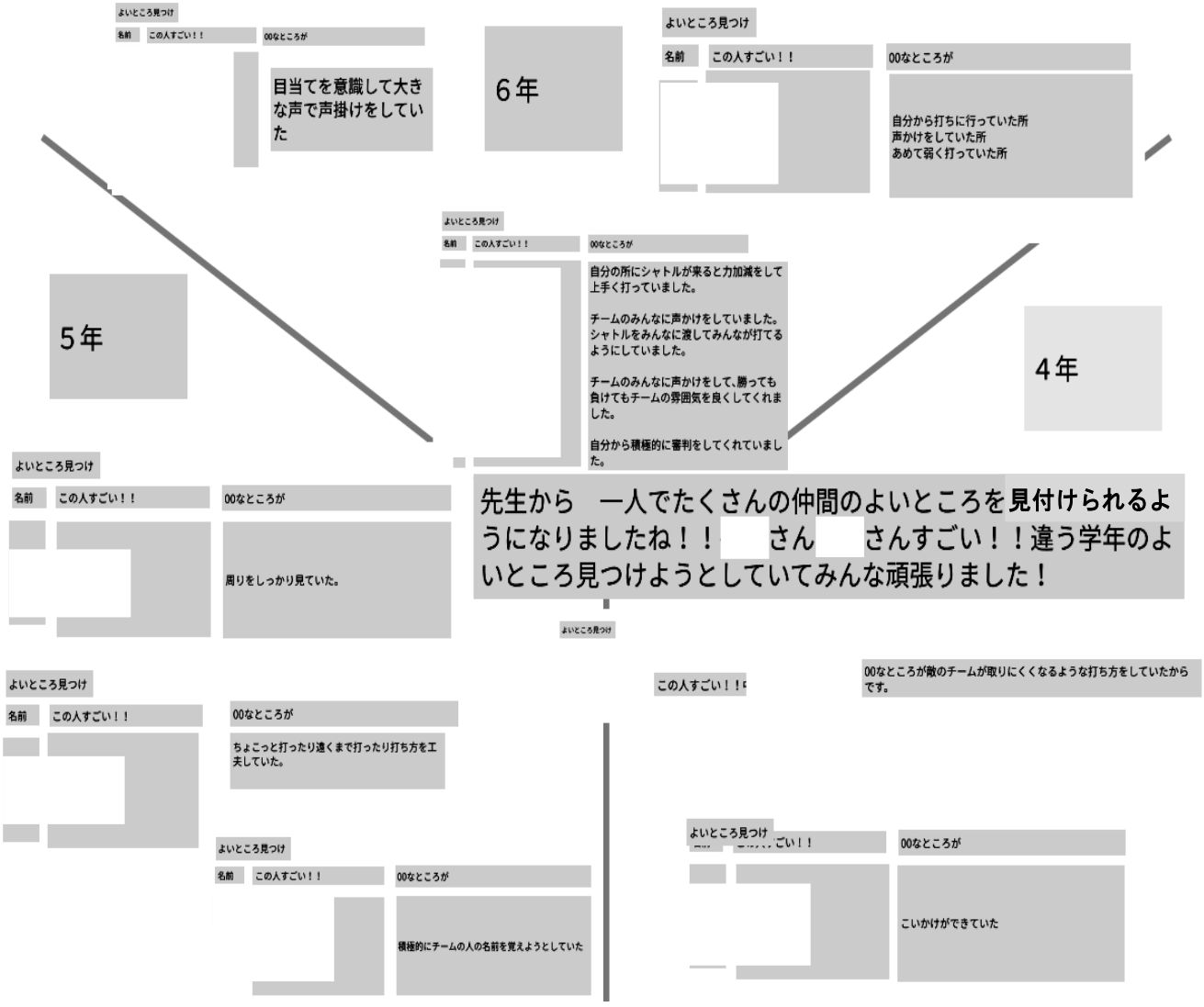
この人すごい！！	00なところが
さん	チームの人がうまかったり、ミスしてしまった時にも大きな声で声をかけていた。

【よいところ見付け】

異年齢の人間関係を深め、自他のよさや頑張りを認め合えるようにするために、情報共有ソフトでよいところ見付けをできるようにする。

＜事後＞【クラブ通信の活用】

異年齢での人間関係を深め、自他のよさや頑張りに意識を向けることができるように、教師が見取った活動のよさ、児童が見付けた互いのよさや可能性、終末の助言で取り上げた成果や課題などをクラブ通信にまとめ児童に紙と情報共有ソフトで配付する。情報共有ソフトで児童が提出したものを基に作成し、パワーアップカードとの併用の負担が多くならないようにする。



計画や役割についての話合い

合意形成を図り、活動内容や活動計画、
役割を決める。

・パワーアップカードを基に、２学期のこれまでの活動を振り返り、クラブ全体の成長している点やさらにみんなで頑張っていきたいことを話し合った。
・準備や片付けをすすんで取り組めるようになったことやバドミントンの技能が向上したこと、率先してチームの中で声を掛けられるようになったことなどの成果を確認した。
・よいところ見付けは同じチームの仲間に偏ってしまうので、さらにいろいろな人のよいところに目を向けるようにしていきたいということになった。

次の一連の活動へ

振り返り

活動を振り返り、次の活動に生かす。

・めあての新チームでの仲を深めることについて一人一人がしっかりと振り返ることができた。「声掛けはできたけれど、名前を呼ぶことができなかった」「３人名前を覚えたけれど呼ぶことができなかった」など課題を感じる振り返りもあったが、「コミュニケーションをとったりアドバイスをしたりすることができた」「新しいチームの人と仲良くできるか不安だったが、試合中にすすんで声を掛けることができた」など、成果を実感する振り返りも見られた。
・成果も課題もめあてを意識して取り組むことができた結果であり、バドミントンクラブの成長を感じ取ることができた。
・チームを変えるアイディアや異年齢のよいところに目を向ける児童が多く見られたことを終末の助言で価値付けた。新チームとしての２回目の活動になる次回の更なる人間関係の深まりを期待する声掛けを行った。

計画や役割についての話合い

活動内容や活動計画について話し合ったり、
役割分担したりする。

・司会グループでの計画委員会の際に、いろいろな人との仲を深めるために、グループを変えて新チームをつくることになった。
・新しいチームで声を掛け合い、仲を深めることが毎時の全体のめあてに決まり、活動を１，２に分けて、チームの仲が深まるように、それぞれリレーと対抗戦をすることになった。
・仲が深まるためのポイントを活動１，２ごとに話し合い、役割を分担した。

活動（本時）

分担された役割を果たしたり、
活動を楽しんだりする。

・司会グループの１班は、毎時の全体のめあての達成を意識して、自分の役割を率先して果たしていた。
・新しくなったチームでの活動１では、初めて接する仲間がいたためか最初は緊張感があったが、活動２になると試合に出ている同じ班の仲間を応援したり、６年生が４年生にサーブを譲ったりする姿が見られた。
・ラリーの様子を見ていると、コースを狙って打ったり、ネット際に落としたり、スマッシュに挑戦したりするなど技能面での成長も見られた。
・しかし、新チームということもあり、互いに遠慮しながら打ち合っている様子も見られた。

④視点１～３の手だての検証・成果

視点１　みんなとともに生きていく力を育てる指導の工夫（人間関係形成）

【クラブ通信の発行】

・自他のよさを認め合ったり、毎時の個人のめあてを決めたりする際に効果的であった。

・特に、よいところ見付けを共有した後に、クラブ通信でも価値付けることができるため、よいところをすすんで見付け、異年齢の仲を深めることにつながった。

視点２　よりよい集団をつくろうとする力を育てる指導の工夫（社会参画）

【活動計画カードの活用】

・自分たちの力で活動をつくり上げることにつながった。

・前時の成果と課題を生かし、次回の活動をどのようにしたらよりよいものになるのかを全体や司会グループで考えることができた。

・めあてを達成するための活動計画を立てることにもつながった。

【パワーアップカードの活用】

・バドミントンクラブのこれまでの成長や努力を振り返り、さらによりよいものにしていこうとする意欲を高めることにつながった。

視点３　なりたい自分に向けて頑張る力を育てる指導の工夫（自己実現）

【めあての決定】

・毎時の個人のめあてを全体のめあての達成のために決めることで、一人一人が全体のめあてを意識し、個性を発揮しながら活動することができた。

【パワーアップカードの活用】

・どのようなことを意識して活動したらよいのかを一人一人が理解して取り組む様子が見られた。

⑤講師紹介、指導講評、講師資料

玉川大学准教授　山口祐一先生

＜指導講評＞

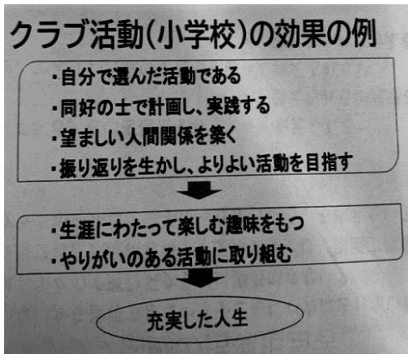
・大学で小中高時代の特活について尋ねても知らない現状がある。どの学校においても確実に取り組んでいく必要がある。

・今日の授業はクラブに対して児童が楽しんでいた。

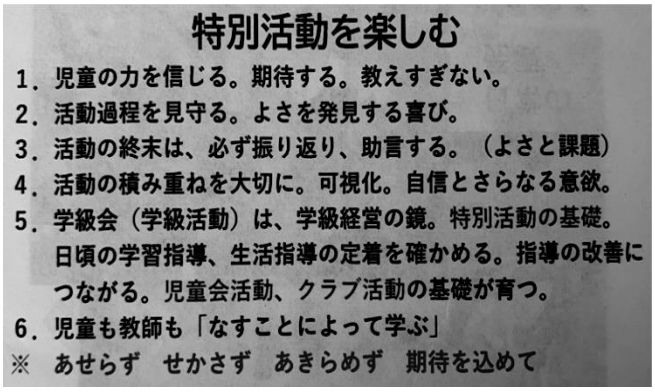
・クラブ全体の目標から個人の目標を決めていく必要がある。

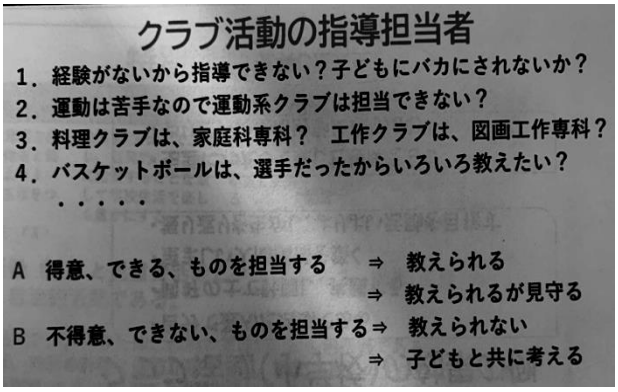
・教員間の役割分担をしておくとよい。（見取るチームや学年）

・「みんなでやりたいこと」を掲示しておくとよい。



＜講師資料＞





３　研究資料

本研究部作成「クラブ活動で育つ力」

指導の場面	育つ力		
	A　人間関係形成	B　社会参画	C　自己実現
1 所属決定	(1)同好の異年齢の仲間を集めるために声を掛けたり誘ったりする。 (2)友達と声を掛け合って、自分たちで新しいクラブをつくろうとする。 (3)設立の条件に合うように、友達を誘ったり他のクラブを選んだりする。	(1)ポスターを作ったり、宣伝方法を考えたりするなど、自分のできることを考えて発足するために活動する。 (2)前年度の経験を生かして、所属するクラブを選ぶ。	(1)自分の興味・関心を追求できるクラブを選ぶ。
2 組織作り	(4)６年生が中心になり異年齢小グループを作る。 (5)４・５・６年生が一緒に活動できるようなグループを作る。 (6)異年齢の新たな仲間づくりをするためにすすんで声を掛ける。	(3)必要な役割を考え、提案する。 (4)前年度の経験を生かして組織作りを行う。	(2)自分の活躍できる役割を選ぶ。
3 目標の決定	(7)全員で話し合い、クラブ全体の目標を決める。 (8)「他の学年の友達と仲よく活動する」などの異年齢集団を意識した個人の目標を決める。	(5)全員の願いを生かしたクラブ全体の目標を決める。 (6)全体の目標を達成するために、毎時の全体のめあてを決める。	(3)クラブ全体の目標達成に向けて、個人の目標を決める。 (4)個人の目標や毎時の全体のめあてを達成するために、毎時の個人のめあてを具体的に決める。
4 活動計画作り	(9)みんなで話し合ってすべての希望が入るような計画を立てる。 (10)一人で活動するのではなく、グループの友達と一緒に活動できる内容を決める。 (11)より楽しくより豊かになる方法を考える。	(7)計画委員会をすすんで行い、次の活動の見通しをもつ。 (8)アイディアを出し合って、活動計画を作る。 (9)みんなで役割を分担する。 (10)計画したことをみんなに知らせる。 (11)次の活動内容を知り、協力して準備をする。	(5)みんなが活躍できるような活動計画を考える。 (6)自分の思いを大切にして、考えを伝える。 (7) 自分のよさや力を発揮し、より楽しくより豊かになる方法を考える。
5 毎時間の活動と振り返り	【毎時間の活動】 (12)異年齢の仲間と仲よく楽しく活動する。 (13)互いに助け合って活動する。 (14)異年齢の仲間と一緒に興味・関心を、実態に即した多様な方法で追求する。 (15)高学年の児童が下学年の児童の思いや願いを生かして活動する。 (16)下学年の児童が高学年の児童に憧れをもち、高学年のよさを自分の活動に生かす。	【毎時間の活動】 (12)一時間の流れを理解し、すすんで活動する。 (13)自分の役割を果たす。	【毎時間の活動】 (8)個人の目標やめあてに向かってすすんで活動する。 (9)自分のよさや得意なことを生かして活動する。 (10)学級では見られない個性を発揮する。
	【振り返り】 (17)自他のよさに気付き、伝え合う。 (18)みんなと協力するよさに気付く。	【振り返り】 (14)よかったことと課題に気付く。 (15)課題の解決方法について考えたり話し合ったりして解決する。	【振り返り】 (11)活動を振り返り、自分のよさや可能性に気付く。 (12)次の活動への期待をもち、自分のできることや次回のめあてを考える。
6 学期末の振り返り	(19)異年齢の仲間との活動における、よかったことや課題に気付く。 (20)クラブ活動で身に付けた人間関係を築く力を学級や学校の生活に生かす。	(16)自分たちでクラブをよりよく運営する方法が分かる。 (17)クラブ全体の成長と課題に気付き、すすんで伝え合う。 (18) クラブ活動で身に付けた社会参画する力を学級や学校の生活に生かす。	(13)自分の成長や課題に気付く。 (14)活動を振り返り個人の目標を見直す。 (15)次の学期、次年度への期待をもつ。 (16)クラブ活動で身に付けた自己実現する力を学級や学校の生活に生かす。
7 発表	(21)発表を見合うことで、互いのよさに気付く。	(19)アイディアを出し合って発表方法や発表内容を考えたり伝え合ったりする。 (20)自分たちの発表を多くの人に見てもらうためにすすんで活動する。 (21)他のクラブの発表を、自分たちのクラブの活動に生かそうとする。	(17)自分たちの成果を発表することで、クラブ全体の成長に気付く。 (18)他のクラブの発表を見て、次の活動への期待をもつ。 (19)発表の準備や発表を通して、自分の成長に気付く。

４　成果と課題

（１）成果

視点１　みんなとともに生きていく力を育てる指導の工夫（人間関係形成）

・児童のよかったところを見付け、クラブカードに記入したり、活動の振り返りの中で発表したりすることで、異年齢の児童のよいところをお互いに見付け合う姿勢が身に付き、よりよい人間関係を形成しようとする意欲が高まった。また、ＩＣＴを活用し、電子ホワイトボードにも児童が見付けたよいところをアップしたことで、これまで以上に互いのよさを実感し活動することができた。

・教師が見取った活動のよさ、児童が見付けた互いのよさや可能性をクラブ通信で発行し児童に伝えることで、自他のよさやクラブ全体の成長などを児童自身が実感することができ、効果的であった。また、よいところ見付けをクラブ通信でも価値付けし共有したことで、よいところをすすんで見付けようとする意欲が高まり、異年齢児童の仲を深めることにもつながった。

視点２　よりよい集団をつくろうとする力を育てる指導の工夫（社会参画）

・一人一人の思いを生かしてクラブ全体の目標を決定し、毎回それを掲示したことで、毎回の活動の中で目標を意識した行動や発言が多く見られるようになった。また、終末の助言では、目標やめあてを意識して活動できたことや〇〇クラブの成長を意識的に取り上げ称賛したことで、クラブ全体の目標を達成しようとする意欲を高めることにつながった。

・活動計画カードを活用し活動計画を立てることで、自分たちの力で活動をつくり上げることにつながった。また、前時の成果と課題を生かし、次回の活動をよりよいものにするために全体や司会グループで次時の全体のめあてを考え、活動することができた。

視点３　なりたい自分に向けて頑張る力を育てる指導の工夫（自己実現）

・毎時の個人のめあてをクラブ全体の目標や全体のめあての達成のために決めることで、一人一人が全体の目標やめあてを意識し、個性を発揮しながら活動することができた。

・終末の助言では、児童自身が成長している実感をもてるようにするために、教師の見取りやクラブカードの振り返りから、個人のめあてを達成したことを取り上げ、称賛を積み重ねることで、児童が自信をもって活動したり、他の児童のよさを見付けたりするきっかけになった。

３つの視点全てにかかわる指導の工夫

・パワーアップカードを活用したことで、これまでの成長や努力を振り返り、さらによりよいものにしていこうとする意欲を高めることにつながった。また、パワーアップカードを基に振り返りを行うことで、これまでの成果と課題が明確になり、次時へのめあてや活動意欲高めることができた。

（２）　課題

・クラブ活動における人間関係形成・社会参画・自己実現を実現するために、共通実践として「クラブ通信」「活動計画カード」「パワーアップカード」の手だてを行い、取り組んだ。次年度さらに研究主題に迫るために、３つの手だての追究やＩＣＴの活用などの研究を深め指導していく。

研究に携わった人

部　長	矢部　聡	世田谷	尾山台小
副部長	髙橋　信行	足　立	千寿第八小
〃	中本　健太郎	江戸川	第四葛西小
〃	島田　泰子	墨　田	曳舟小
〃	加藤　葉子	元部長	
会　計	山口　哲郎	葛　飾	本田小
	髙畠　誠	足　立	保木間小
	梶井　綾	目　黒	八雲小
	大月　香織	足　立	古千谷小
	星野　良明	足　立	東渕江小
	柴田　佳奈	墨　田	緑小
	門坂　恵太	足　立	保木間小
	庄司　千晶	足　立	保木間小
	齋藤　陽子	世田谷	尾山台小
	山下　映実	江　東	浅間堅川小
	原島　竜	三宅島	三宅小
	安藤　夏子	世田谷	赤堤小
	三間　俊弘	世田谷	九品仏小
	細川　真理絵	江　東	東川小
	猪野　亜子	目　黒	田道小
	日下部　和哉	大　島	さくら小

Ⅳ　学　校　行　事　部

研究主題

「よりよい人間関係や生活をつくり、自己のよさを生かす学校行事」

１　本年度の研究について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７７
（１）　研究主題設定の理由
（２）　研究の視点
（３）　研究構想図

２　実践事例・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８０
（１）実践事例１　世田谷区立多聞小学校　運動会
「運動会、広がる、つながる、かがやく、みんなで“わ”」

（２）実践事例２　世田谷区立若林小学校　音楽会
「虹のたねを集めよう　自分もみんなも全てを大切にする子
～音楽会を振り返って、未来へつなげよう～」

３　成果と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９４

研究の経過

令和４年	５月２３日（月）	定期総会	目黒区立下目黒小学校
	７月２５日（月）	夏季集中研修　第１回学校行事部会	目黒区立下目黒小学校
	８月　９日（火）	第２回学校行事部会	練馬区立上石神井北小学校
	８月３０日（火）	第３回学校行事部会	世田谷区多聞小学校
	９月１２日（月）	第４回学校行事部会	世田谷区多聞小学校
	９月２１日（水）	第５回学校行事部会	練馬区立上石神井北小学校
	９月２８日（水）	第６回学校行事部会	練馬区立上石神井北小学校
	１０月１８日（火）	第１回検証授業	世田谷区多聞小学校
	１１月　８日（火）	第７回学校行事部会	世田谷区若林小学校
	１１月２２日（火）	第８回学校行事部会	練馬区立上石神井北小学校
	１２月　２日（金）	第２回検証授業	世田谷区立若林小学校
令和５年	１月１２日（木）	拡大研究部会	板橋区立若木小学校
	２月	研究のまとめ　研究発表大会準備	
	２月２４日（金）	研究発表大会	目黒区民センター

１　本年度の研究について

学校行事部　研究主題

「よりよい人間関係や生活をつくり、自己のよさを生かす学校行事」

（１）　研究主題設定の理由

学校行事には、みんなで力を合わせて、集団の力やよさをより高め、自分や集団の成長を実感できる場が多くある。それらを実現する児童の育成を目指すために、まずは児童が今の自分を理解することが大切である。学級や学年、学校という集団の中で今の自分にできることを考え、めあてをもって行事に取り組んでいく中で、自分の役割を果たしたり、よさを見付け合ったりして、新たな自分に気付き、新たな可能性を見いだすことができる。一つの行事を通して得られる達成感や充実感は、さらなる高みを目指したいという自信や希望につなげることができる。

今年度は本研究主題での３年目の研究となり、研究授業による理論・仮説の検証は２年目である。昨年度、情報共有の場として掲示板を活用したことに加え、今年度はタブレット端末も活用することにより、児童にとって互いのよさを伝える機会が増えるとともに、成長の過程や活動への見通しを共有しながら行事に取り組むことができると考えた。また、昨年度までの実践で、事前・事後指導により行事のつながりや身に付けた力を明確にすることで、児童は自他のよさや可能性を実感でき、自信をもって日常生活を送ることができた。

そこで、今年度は、さらに、行事で身に付けた力を日常生活でより生かしていく工夫をすることで、よりよい人間関係の構築や学校生活を楽しく豊かにしようとする力を児童が自ら育みながら、次の行事への意欲を高められると考えた。

これまでの研究で積み重ねてきた、行事をつなぎ、身に付けた力を次の活動へとつなげていく過程を大切にしながら、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」を相互に関連付けて実践し、学校行事で育成する資質・能力を明らかにしていく。

（２）　研究の視点

研究主題に迫るために、以下の３つの視点を設定し、研究を進めていくこととした。

視点１　「みんなとともに生きていく力を育てる指導の工夫（人間関係形成）」
- 児童の意欲を高める事前指導
- 友達のよさを伝える時間の設定
- 自分の役割を意識し、友達との関わりを深める係活動
- 教室掲示・学年掲示板の活用

視点２　「よりよい集団をつくろうとする力を育てる指導の工夫（社会参画）」
- 友達のよさを伝える時間の設定
- 自分の役割を意識し、友達との関わりを深める係活動
- スライドショーなどの資料提示の工夫
- 振り返りの場の工夫
- 教室掲示・学年掲示板の活用

視点３　「なりたい自分に向けてがんばる力を育てる指導の工夫（自己実現）」
- 自己のよさを生かそうとする事後指導
- めあての実践を促す言葉掛け
- 振り返りの場の工夫
- 教室掲示・学年掲示板の活用

（３）　研究構想図

今日的課題	目指す児童像	児童の実態
・予測困難な時代となる未来の社会を切り拓くための資質・能力の育成 ・将来に向けて希望や目標をもち、自分らしい生き方を実現していく力の育成 ・集団や社会の形成者としての見方・考え方の育成	・自分や友達のよさを認め合える児童（人間関係形成） ・自分の役割の意義に気付き、仲間と共に活動する児童　（社会参画） ・自分のよさに気付き、自分の可能性を広げ生かそうとする児童（自己実現）	・ コロナ禍、少子化、SNSの普及などで、直接的なコミュニケーションが不足しがちである。 ・当番活動では役に立つ喜びを感じている。一方で自発的・自主的な活動には教師の働きかけが必要な場合が多い。 ・ 学校行事を楽しみにしている児童が多い。

研究主題　「よりよい人間関係や生活をつくり、自己のよさを生かす学校行事」

研究仮説　学校における様々な集団の中で、自分ができることを考え、めあてをもち、仲間とともに行事に取り組んでいくことで、自他のよさや、役割の意義に気付くだけでなく、自分の可能性を広げ生かそうとするようになるだろう。

研究の視点と指導の手だて

視点１ みんなとともに生きていく力を育てる指導の工夫 （人間関係形成）	視点２ よりよい集団をつくろうとする力を育てる指導の工夫 （社会参画）	視点３ なりたい自分に向けて頑張る力を育てる指導の工夫 （自己実現）

【友達のよさを伝える時間の設定】
・行事の活動（練習や準備）の初めや終わりに、互いのよさを認め、伝え合う時間を設定する。

【自分の役割を意識し、友達との関わりを深める係活動】
・通常の係活動と行事を関連付けて係活動を実施することで、集団の中における自分の役割を意識できるようにする。

【児童の意欲を高める事前指導】
・学年オリエンテーションを実施し日程や目的を確認し見通しをもつようにする。
・キャリア・パスポートを活用し、これまでの行事を振り返る。
・実行委員会を発足する。
・学年のめあて(テーマ)を作る。
・係活動ができるようにする。
・個人目標を立てる。

【スライドショーなどの資料提示の工夫】
・他学年、先生等から応援メッセージをもらう。
・活動の様子を振り返ったり、共有したりできるように、スライドショーを作成する。

【自己のよさを生かそうとする事後指導】
・成長を振り返りカードに書き、（低学年は、選ぶ・色を塗る、など）掲示する。
・他学年、教職員、保護者からの評価を知らせる。
・自分や仲間のよさを共有する。
・次の行事の見通しと個人目標を立てる。

【めあての実践を促す言葉掛け】
・朝の会、帰りの会等を活用して、めあての実践を促す言葉掛けを充実させ、児童の意欲を高められるようにする。

【振り返りの場の工夫】
・活動の様子を記録したスライドショーを見合い、成長や課題に気付けるようにする。
・他の学年とメッセージ交換を行い、互いのよさを実感できるようにする。

【教室掲示・学年掲示板の活用】
・学級目標、学年のめあてやテーマ、カレンダー、実行委員や係の連絡掲示板、個人のめあて・振り返り、保護者等のメッセージなどを掲示できるコーナーを作り、見通しをもたせながら、意欲を高められるようにする。

よりよい学校行事を展開していくための手だて（時系列）

(1) 年度初めに年間の学校行事の見通しをもち、学年の方針(目標)等を決める。
(2) 学年・学級の掲示コーナーをつくる。
(3) 学年オリエンテーションを開く。
(4) 行事のめあて(テーマ)を作る。
(5) 行事の事前指導を行う。(意欲を高め、見通しをもち、個人の目標を立てる。)
(6) 活動ごとにめあてを立て、振り返りの場を設ける。
(7) 活動の様子を映像や写真で提示し、そのときのことを思い出しながら振り返りができるようにする。
(8) 児童の願いが達成できるように行事を実施する。
(9) 行事の事後指導を行う。(成長や課題を振り返り、次の行事への期待と見通しをもつ。)
(10)自他の成長やよさを認め合えるカードを掲示する。

２　実践事例

（１）実践事例１　世田谷区立多聞小学校　「運動会の事後指導」

①　日時、場所、対象、授業者

日時　令和４年１０月１８日（火）　　場所　世田谷区立多聞小学校
対象　２年３組　　授業者　伊藤　優

②　題材名「運動会、広がる、つながる、かがやく、みんなで“わ”」

【主な関連項目】学級活動（３）ア　　学校行事の内容：（３）健康安全・体育的行事

③　一連の活動の流れ（運動会に向けた取り組み）

運動会をはじめとした各行事を通じて、児童が学年目標の「わ」を意識できるようにした。
学年目標の「わ」には４つの意味が込められている。

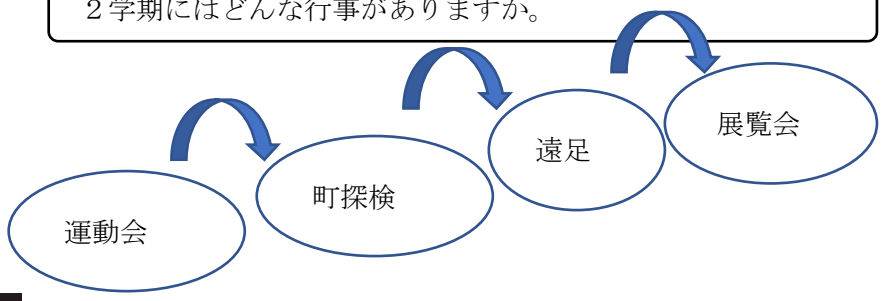
和・・仲間と助け合う「和」
輪・・お互いに認め合い協力する「輪」
話・・話し合うことを通じて、課題を解決する「話」
ワッ・・自分の成長や友達のよさに気付く感動の「ワッ」

事前

【運動会（行事）オリエンテーションの実施】
運動会（行事）の見通しをもち、学年目標の「わ」が大切であることに気付く。

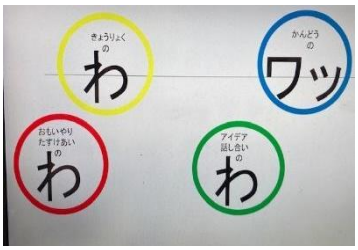
２学期にある行事を理解し、見通しをもてるようにする。

２学期にはどんな行事がありますか。



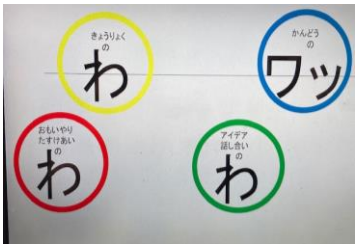
成功させるためには何が必要か考える。

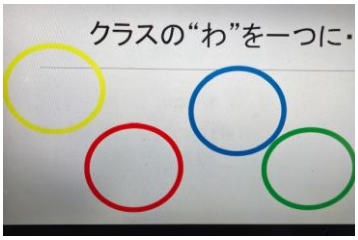
どうしたら運動会が成功するかな？

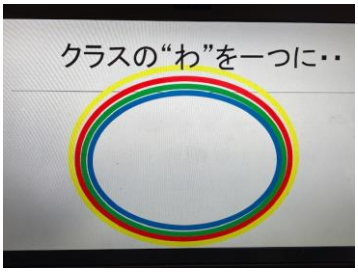


学年目標の「わ」と関連付ける。

学年の１２９人全員で力を合わせることの大切さを知る







【係活動】

カウントダウンカレンダー係

運動会まであと何日か分かるから、見通しがもてるね

ダンス係

ダンスも自分たちで考えたよ

学年目標のオリジナルキャラクター係

学年目標の「わ」をみんなが親しめるように、みんなでキャラクターを考えたよ。
キャラクターにすることで、学年目標の「わ」がもっと身近に感じられるようになったよ。

運動会の練習で、どの「わ」を意識して活動ができたかを振り返る時間を設けた。

私は、「早く並ぼう」と声をかけたから、協力の「わ」ができたかな。

【良いところ見付けカード】
運動会の練習を通じて見付けた友達の良いところを伝える。

ダンス練習の時、友達に立ち位置を教えていたね。優しいね。

メッセージありがとう。

【学年掲示板の活用】
友達の良いところ見付けカードは、学年掲示板に貼る。

友達の良いところを、みんなに知らせることができるね。

運動会の練習を通して、１２９人全員でたくさんの「わ」を見付けたね。

本時　「みんなとつながる“わ・わ・わ・わ”」
運動会で大きくした「わ」をつかって、クラスや学年のためにできることを決める。

〈つかむ〉

運動会での練習や当日の頑張りについてスライドショーを見ながら振り返り、保護者からのメッセージを聞く。

運動会の練習や本番で、たくさんの「わ」を使ったね。スライドを見ながら、どんな「わ」が心に残ったか思い出してみよう。

おうちの方からのメッセージを紹介するね。
運動会では、たくさんの「わ」を使ったね。これからも、その「わ」を大きくしてね。

運動会で大きくした「わ」をつかって、みんなのためにできることを考えよう。

〈さぐる〉

振り返りシート（模造紙・冊子）で自分が運動会で大きくした「わ」のNO. 1を選び、発表する。

私は、協力の「わ」を大きくしました。理由は、友達と一緒にダンスの練習を頑張ったからです。

私は、感動の「わ」が心に残りました。
みんなと動きを合わせて踊ったら、
おうちの人が、「ダンスかっこよかったよ。」と言ってくれたからです。

〈見つける〉

運動会で大きくした「わ」を振り返り、それを使ってクラスや学年のためにできることを話し合う。

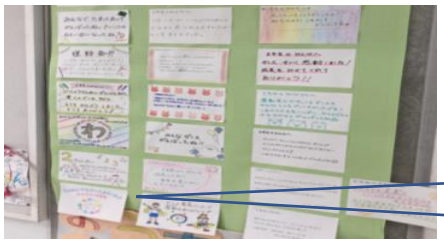
協力の「わ」を使って、朝の準備を手伝おう。

私は、思いやりの「わ」を使って、1年生に優しくしたいな。

〈決める〉 これからの生活で取り組むことを決め、具体的な目標をワークシートに書き、発表する。

私はこれから思いやりの「わ」を使って、みんなが元気になるような挨拶を頑張ります。

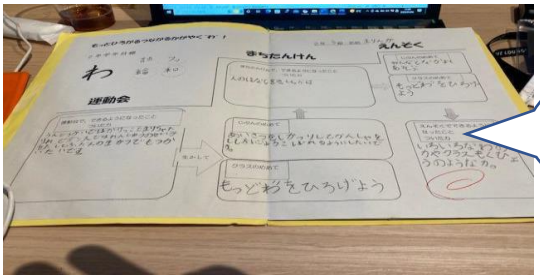
みんなの姿に感動しました。これからも友達との「わ」を大切にしてね。



たくさん「わ」の力を付けたね。
これからも「わ」を大切にしてね。

事後

【行事カードの活用】



運動会で大きくした「わ」の力を使って、
まちたんけんや遠足も成功させたいです。

「おはようございます。」
協力の「わ」で
挨拶いっぱいの学校にしたいね。

④　視点１～３の手だての検証・成果

視点１　みんなとともに生きていく力を育てる指導の工夫（人間関係形成）

【児童の意欲を高める事前指導】

・学年オリエンテーションを実施し、日程や目的を確認し見通しをもつようにする。

・学年のめあて(テーマ)を作る。

２学期には運動会をはじめたくさんの行事があることを知り、一つ一つを成功させることで自分たちが成長の階段を上っていくのだというイメージをもてるようにした。年度当初の学年目標の「わ」が、運動会の成功のためには大切であることを確認した。そして、運動会を通して、各クラスで紡いできた「わ」を学年全体の一つの大きな「わ」にするためにも、運動会の練習の中で仲間と助け合うことや、協力することが大切なことであると考えられるようにした。

【教室掲示・学年掲示板の活用】

・友達の「わ」を書いたカードを貼ったり、見通しをもてるようにしたりすることで、意欲を高められるようにした。

友達の良いところを書いたカードを学年掲示板に一つの輪になるように貼ることで、学年全員で取り組んでいる一体感を育むことができた。また、保護者からのメッセージを貼り、自分たちの頑張りが承認されることで次も頑張ろうとする意欲を高めることができた。
カウントダウンカレンダーや「わ」のキ　ャラクターを貼ることで、児童が見通しをもったり、学年目標の「わ」をより身近に感じられたりするようになった。

視点２　よりよい集団をつくろうとする力を育てる指導の工夫（社会参画）

【スライドショーなどの資料提示の工夫】

・活動の様子を振り返ったり、共有したりできるようにするスライドショーを作成する。

・保護者からのメッセージを紹介

運動会の準備や本番を通じて、常に意識をしてきた「わ」を振り返ることができるスライドを用意した。また、保護者から、運動会で培った「わ」をこれからの生活や次の行事に生かしてほしいというメッセージを紹介し、本時のめあてにつなげた。

視点３　なりたい自分に向けて頑張る力を育てる指導の工夫（自己実現）

【自己のよさを生かそうとする事後指導】

・次の行事の見通しと個人目標を立てる。

・成長を振り返りカードに書き、（低学年は、選ぶ・色を塗る、など）掲示する。

運動会で付いた力を、次の行事に生かすために、どの「わ」を使ったら成功することができるか、を考えて見通しをもって取り組むようになった。運動会で身に付いた「協力」や「思いやり」を、まちたんけんや遠足などに生かせるようになった。全ての行事で振り返りを行った。振り返りを行い「わ」に親しみをもつことで、まちたんけんでは、働く大人も協力の「わ」を使っていることに気付き、自分たちの学びが社会ともつながっていることを自覚した。また、ふだんから正門前で挨拶運動を自主的に行う姿も見られた。

⑤　講師紹介、指導講評

元東京都小学校特別活動研究会　学校行事部　部長　齋藤　厚代　先生

〈学校行事について〉

・各教科の学習と同じように、学校行事も、その経験が将来の夢につながっていくこともあるという点で、果たす役割は大きいと言える。

・児童がめあてを立てた際には、「行事の前と後とで、どのように違うのですか。」と問うことで、行事で身に付いた力を生かそうとうする姿を引き出すことができる。その際、「それが成長ですね。」などと価値付けることで、児童自身に「これが成長なんだ。」と気付かせることができるだろう。身に付けさせたい力を明確にし、意図的、計画的な指導を行うことが大切である。

〈本時〉

・児童が頑張りたいことを考えるにあたって、教師が学校生活を思い出させるためのカードを提示し可視化したことは、低学年の児童にとって有効であった。

・友達の良いところや頑張りを知るだけではなく、行事に向けた気持ちや自分の頑張りたいことについて考えられるように指導することで、ねらいに迫ることができる。

・行事を行う際には、「来年も楽しみだ。」といった縦の意識に加え、「行事によって身に付いた力を、ふだんの生活や次の行事にも生かしていこう。」といった横の意識を引き出す指導が重要である。そうすることで、児童自身が「次の行事でもまた、自分たちに力が付いていくのだ。」と、見通しをもつことができる。

・教師から提示した振り返りの項目である４つの「わ」を一つに絞り、他にはどのような「わ」があるのかを子供たち自身に考えさせることで、学びの可能性を育むことができるだろう。

・交流が上手な児童で、相手意識がある。「してあげる」という発言が少なくなかったが、「してもらう」側にも互いになれることを伝えるとよい。本時のねらいが「みんなのためにできることを考えよう」だったが、みんなの中に自分もいて、最終的には自分を高めることにつながる。

（２）実践事例２　世田谷区立若林小学校　「音楽会の事後指導」

①　日時、場所、対象、授業者

日時　令和４年１２月２日（金）　　場所　世田谷区立若林小学校

対象　３年１組　　授業者　伊勢　祐美子

②　題材名

「虹のたねを集めよう　自分もみんなも全てを大切にする子～音楽会を振り返って、未来へつなげよう～」

【主な関連項目】学級活動（３）ア 現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成
学校行事の内容：（２）文化的行事

・題材設定の理由

新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言下に入学の時期を迎え、令和２年６月に小学校に入学した子供たちである。その後、分散登校が続き、オンライン授業と対面授業を交互に繰り返しながら小学校生活をスタートさせた。子供同士の関わり合いや触れ合いが大きく制限され、休み時間に思いっきり友達と遊ぶことができなかった。行事は中止を余儀なくされ、実施することができた行事は、内容を大幅に縮小することになった。マスクをしない学校生活を経験することなく進級し、３年生になった子供たちは、自分の考えや思いを伝えることが苦手で、感情のコントロールや人の話を最後まで聞くことに課題がある。また、集団で一つのことに向かって取り組み、達成感を味わった経験が少ない。

そこで、３学年の児童への聞き取り調査の結果と担任３人の願いを基にして、３学年の行事のめあてを「虹のたねを集めよう」とした。虹を自分自身の人生、なりたい自分の姿に見立て、成長するために必要な数多くの力をたねに例えて、成長するための力（たね）をたくさん集めて身に付けようという意味を込めた。行事に向かって、練習を積み重ねていく中で「虹のたねを集めよう」が合言葉となって、子供たち自身が声を掛け合って取り組む姿が見られた。今年度も新型コロナウイルス感染症下の状況は変わらないが、創意工夫しながら、できる範囲での最高を子供たちと目指していきたい。音楽会に向けての活動を通して、子供たちが様々な人と関わりをもち、人間関係を育みながら、未来に向けて前進して欲しいと願い、本題材を設定した。

・音楽会について

本校は、音楽会、展覧会、学芸会の文化的行事を３年間に１回実施している。子供たちは、それぞれの行事を小学校生活の中で２回経験することになる。今年度は、新型コロナウイルス感染症予防の観点から音楽会の開催方法、練習方法、保護者や地域の参観方法などを音楽会委員会で繰り返し協議してきた。その結果、11 月 18 日（金）を児童鑑賞日として、３学年ずつ前半、後半に分けて実施し、11 月 19 日(土)を保護者鑑賞日として実施した。新型コロナウイルス感染症の影響で、異学年との交流が制限され、行事においても異学年の発表などを鑑賞する機会が少なく、上学年への憧れや尊敬の気持ちが醸成されにくい状況が続いていた。しかし、with コロナの観点から予防は徹底した上で、できることには挑戦していくことになり、３年生は、１、５学年の発表を対面で鑑賞し、２、４、６学年の発表はライブ配信で視聴した。今年度の若林小学校の音楽会のねらいは、下記のとおりである。

（１）　日常の音楽学習の成果を発表し、表現力を高めると共に正しい鑑賞態度を養う。
（２）　積極的に参加することにより、協力し、責任を果たす態度を育てる。
（３）　保護者や地域の人々に、学校教育について理解と関心をもってもらう。

また、代表委員会が全校の子供たちに向けて、学習支援ソフトのアンケート機能を活用して調査を実施し、結果を基にして代表委員会で検討し、音楽会のテーマが下記のように決定した。

「美しい音色を空に響かせよう　～思い出に残るハーモニー～」

③ 一連の活動の流れ

・音楽会に向けての取組　指導計画

日　時	教科領域	活動内容
10 月 31 日（月） １校時	学級活動（３） （学年）	・音楽会のねらいを理解する。 ・発表の内容、練習日程等を理解する。 ・「どんな音楽会にしたいか」「そのためにできること」を考え、学年全体で共有し、めあてを立てる。
11 月 1 日（火）～ 11 月 17 日（木）	音楽（学年）	・ベートーベン交響曲第 9 番「歓喜の歌」歌唱、リコーダーの学習（日本語、ドイツ語、手話） ・「スクールライフはエンジョイしなくちゃ！」歌唱の学習
11 月 1 日（火）～ 11 月 18 日（金） 中休み・昼休みなど	係活動	・行事と関連付けた係活動 ※安全面の観点から校庭・体育館の使用学年を制限しているため、校庭・体育館を使用できない中休み、昼休み等を活用して、同じ係の子供たちが相談して活動時間を決め、自主的に係活動を行っている。
11 月 11 日（金） 5 校時（本時）	学級活動（３）	・音楽会に向けて、今後の自分の取組を決める。
11 月 14 日（月）～ 11 月 18 日（金）	朝の会等	11 日に決めた取組を確認し、実践する場面等を指導する。
11 月 14 日（月）～ 11 月 18 日（金）	帰りの会等	11 日に決めた取組の実践を紹介し、学級全体で共有を図る。
11 月 18 日（金） １～４校時	行事 児童鑑賞日	・音楽会（１年、３年、５年、金管クラブ） ・２年、４年、６年の発表をライブ配信で視聴する。 ・各学年へメッセージカードを作成する。
11 月 18 日（金） ５校時１/３時間	音楽 （学年）	・児童鑑賞日の振り返り、学年全体で共有する。
11 月 19 日（土） １校時	行事 保護者鑑賞日	・３年生の発表 ・音楽会終了直後の感想を全員で共有する。
11 月 22 日（火）～	朝の会	・保護者からのメッセージカードの内容を共有する。
12 月 2 日（金） ５校時　【本時】	学級活動（３）	・音楽会を振り返り、今後の自分の取組を決める。
12 月 5 日（月）～	朝の会等	・12 月 2 日に決めた取組を確認し、実践する場面等を指導する。
12 月 5 日（月）～	帰りの会等	・12 月 2 日に決めた取組に対する振り返りを行う。

・過去の行事との関連　体育発表会での取組を生かした指導

10 月 1 日に行われた体育発表会では、短距離走、団体競技、表現運動などに意欲的に取り組み、たくさんの「虹のたね」を集めた。体育発表会の事後指導では、練習から当日までの活動の中で集めた「虹のたね」を出し合い、どんな場面で活用していくかを話し合った。体育発表会後、日常の様々な場面で、子供たちが「虹のたね」を話題にする機会が見られた。避難訓練の事前指導の際には、「今日の避難訓練で気を付けることはどんなことだろう」と子供たちに問うと「『集中のたね』を使って 1、２年生に手本を見せたい。」などの声が聞かれた。

・本時の展開

本時のねらい

音楽会を通して「集めた虹のたね」（身に付けた力）を振り返り、未来に向けて自分のめあてを決める。

活動	○児童の活動内容	・指導上の留意点
つかむ さぐる	① 教師の話から本日の目的を知る。 ② 音楽会に関連する活動の映像を見て、自分たちの取組を思い出す。 ③ 音楽会で「集めた虹のたね」を想起し、どんな場面で使ったのかを出し合う。 	・振り返りの大切さに触れる。 ・映像を見る視点を明確にする。 ・音楽会当日の演奏だけでなく、練習の過程や友達同士の関わり等にも着目できるような映像を準備する。 ・体育発表会、音楽会で「集めた虹のたね」の掲示物を参考にして考えるように促す。 ・学級目標、行事オリエンテーションの付箋等の掲示物を参考にする。 **・協力のたね** **・笑顔のたね** **・助け合いのたね** **・友情のたね** **・優しさのたね** **・励ましのたね** **・思いやりのたね** **・挑戦のたね** **・諦めないたね** **・頑張りのたね** **・集中のたね** **・感謝のたね** **・元気のたね　他**
見付ける 決める	④ 音楽会で「集めた虹のたね」を活用して、今後にどう生かしていくか学級全体で話し合う。 ⑤ なりたい自分に近付くために、「集めた虹のたね」を使って、日々の生活で自分が取り組むことを決める。 ⑥ 自分の取組を発表する。 **・親切で優しい人になるために、人を助けたい。** **・ポジティブな言葉を使うように気を付ける。** **・困っている人を助ける。** **・あいさつをしっかりする。** **・「ありがとう」を今よりもいっぱい言う。** **・「笑顔のタネ」を使って、自分のまわりの人全員に笑顔で接する。** **・笑顔で「大丈夫？」と声をかけて困っている人を助ける。** **・ふわふわ言葉を使うようにする。** **・虹のタネを使って、協力したり、助けたりして友達の力になる。** **・いい言葉を使って、友達が笑顔でいられるようにする。** **・「頑張りのタネ」を使って、どんなことにも全力でやる。** ⑦ 教師の助言を聞く。	・必要な場合は、話合いのルールを指導する。 ３－１話合いのルール ○たくさん意見を出す ○否定・批判しない ○付け足し・アレンジ OK ○最後までしっかり聞く 他 ・自分の取組が決められない子には、キャリア・パスポートの「なりたい自分」の記述や今までの行事の振り返り等を参考にするように促す。 ・今後の学校生活に期待がもてる話、行事を通して身に付けた力を活用して欲しい等の話をする。

④　視点１～３の手だての検証・成果

・研究主題に迫るために、以下の３つの視点を設定し、研究を進めていくこととした。

視点１　「みんなとともに生きていく力を育てる指導の工夫（人間関係形成）」
- ・児童の意欲を高める事前指導
- ・友達のよさを伝える時間の設定
- ・自分の役割を意識し、友達との関わりを深める係活動
- ・教室掲示・学年掲示板の活用

視点２　「よりよい集団をつくろうとする力を育てる指導の工夫（社会参画）」
- ・スライドショーなどの資料提示の工夫
- ・友達のよさを伝える時間の設定
- ・自分の役割を意識し、友達との関わりを深める係活動
- ・振り返りの場の工夫

視点３　「なりたい自分に向けてがんばる力を育てる指導の工夫（自己実現）」
- ・自己のよさを生かそうとする事後指導
- ・めあての実践を促す言葉掛け
- ・振り返りの場の工夫
- ・教室掲示・学年掲示板の活用

・視点１～３の手立ての検証・成果

視点１「みんなとともに生きていく力を育てる指導の工夫（人間関係形成）」

【児童の意欲を高める事前指導】

・音楽会学年オリエンテーション

10 月 31 日に音楽会に向けて、学年オリエンテーションを実施した。音楽会のねらい、内容などを詳しく説明した。また、３年生からスタートしたリコーダーの学習が、６年生が取り組んでいる鼓笛隊の活動につながっていくことを伝え、今後の見通しをもてるようにした。音楽の学習の成果を生かしながら、さらに３年生全体で励まし合いながら切磋琢磨し、一つのことに向かって練習を重ねていく過程を大切にして欲しい等の担任の願いを子供たちに語った。また、プロジェクトアドベンチャービーイング（注１）の手法を活用し、「こんな音楽会は嫌だという否定的な思いや「こんな音楽会にしたい」という肯定的な思い、「そのためにあなたは何をする」などの内容を一人一人が考えて付箋に記入し、全体で共有した。子供たちが書いた付箋は、模造紙に貼って掲示し、いつでも見ることができるようにした。付箋の記述や学級目標などを参考にして、音楽会に向けての個人の目標を考えて、学年オリエンテーションを終えた。

左：「こんな音楽会にしたい」
右：「そのためにあなたは何をする」

（注１）「だれでもわかるプロジェクトアドベンチャー入門」
プロジェクトアドベンチャージャパン 林壽夫　https://www.pajapan.com/

【教室掲示・学年掲示板の活用】

・学級の目標

学級の目標を決めるに当たり、「こんな学級は嫌だ」という一人一人の思いや「こんな学級にしたい」「そのために自分はこんなことをしたい」という願いや考えを出し合い、全体で共有した。また、４月当初の保護者会において、「どんな学級になって欲しいか」について保護者に考えてもらい、付箋に記入していただいた。子供たちは、教室に掲示された保護者が書いた付箋を熱心に読んでいた。

若林小学校の学校教育目標である「やさしい子ども　よく考える子ども　がんばる子ども」を基にして、保護者の願い、担任の願い、子供たちの願いを全員で共有しながら、学級会で話し合いを重ね、「自分で一生懸命考えてチャレンジする子　自分もみんなも全てを大切にする子　なりたい自分に向かって行動する子」という学級目標を決定した。学級目標の実現を目指して、学級活動を中心に、係活動や集会活動などに意欲的に取り組み、少しずつ仲を深める様子が見られた。

視点２「よりよい集団をつくろうとする力を育てる指導の工夫（社会参画）」

【自分の役割を意識し、友達との関わりを深める係活動】

・係活動

本学級の児童は、係活動に意欲的に取り組んでいる。４月当初の学級会で、係活動の決め方やルールなどについて話し合った。さらに、２学期、３学期のスタート時に係活動の細かいルールを改定して、「学級が楽しくなる係」を合言葉にして、係ごとに創意工夫して活動に。取り組んでいる。音楽会の練習がスタートし、動画係や音楽係がリコーダー演奏のコツなどを画像や動画で配信し始めたことをきっかけに、他の係が音楽会に関連した活動を計画し始めた。行事と係活動を関連付けることで、通常の活動が活性化され、児童がより主体的に活動する姿が見られた。

工作係が制作したメダルを首にかけてもらう子供たち

動画係が作成した映像を見ながら練習に取組む子供たち

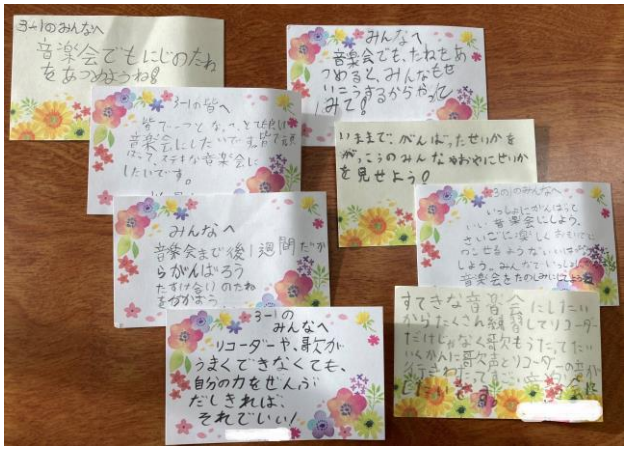
係名	活動内容（通常）	活動内容（音楽会関連）
ダンス	ダンスを発表する。みんなに踊り方を教える。	音楽会で発表する「喜びの歌」のダンスを考えて画像や映像で発信する。
遊び	外遊びを計画したり、みんなでできる遊びを紹介したりする。	音楽会に関連する遊びを提案し、休み時間に学級全体で遊びを楽しむ。
お笑い	だじゃれ、コント、漫才を考えて発表する。	音楽会に関連したお笑いネタを考え、休み時間などに発表する。
新聞	学級の出来事や流行などを記事にまとめて紹介する。	音楽会に関する記事を書いて新聞を発行する。
動画	身の回りのことや今、話題になっていることを動画で紹介する。	音楽会に関連した動画を作成する。歌やリコーダーのコツなどを動画にまとめて配信する。
音楽	給食の時間にみんなからのリクエスト曲を BGM として流す。	音楽会に関連する音楽を選曲し、給食の時間に BGM として流す。
インテリア	教室を飾り付けする。掲示板などを作成する。	音楽会の掲示板を飾り付けする。音楽会マスコットを作成し、掲示する。
イラスト	季節に合ったイラストやマンガを描いて発表する。	音楽会を盛り上げるイラストを描き、メッセージを添えて教室に掲示する。

行事の指導がスタートすると子供たちの日常が慌ただしくなりがちだが、係活動と行事を関連付けることで、子供たちが楽しみながら落ち着いて生活する姿が見られた。コロナ禍で係ごとに活動内容を相談しながら給食を食べるなどの取組が難しいため、子供たちからの要望で必要な場合は、係ごとに清掃を割り当てることもある。係の打ち合わせや確認を行いながら清掃に取り組む姿が見られた。

【友達のよさを伝える時間の設定】

・メッセージの交換

行事を通して、お互いのよさを実感できるように、他の学年とメッセージを交換し、学年掲示板に掲示した。また、行事の事前・事後などに学級の子供たちに向けて、行事に対する意気込みや励ましなどのメッセージを作成し掲示した。音楽会の本番直前に、掲示された友達からのメッセージを読んでいる子供が多く見られた。「友達のメッセージを読むと緊張しなくなる。」「メッセージを読んでパワーをもらった。」という声も聞かれた。



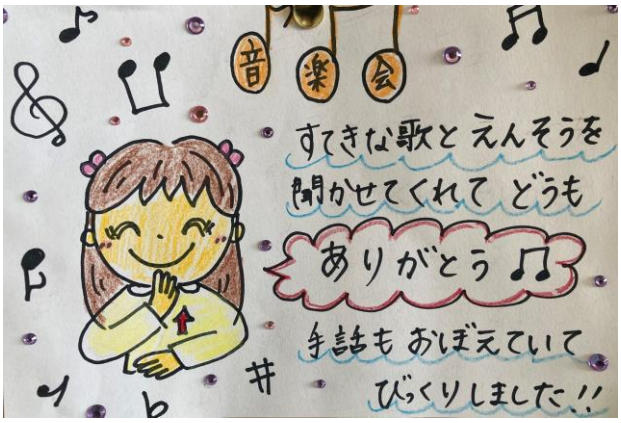
視点３「なりたい自分に向けて頑張る力を育てる指導の工夫（自己実現）

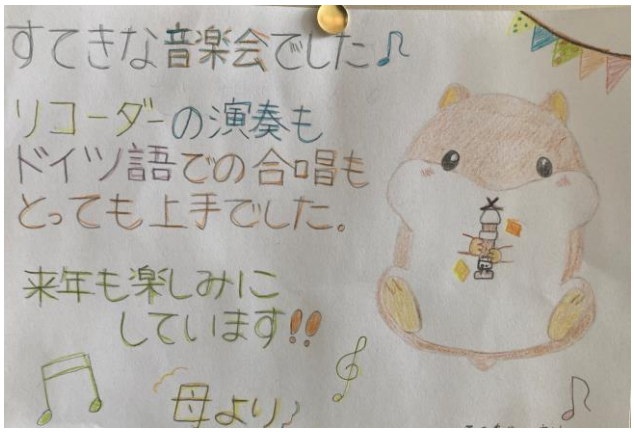
【教室掲示・学年掲示板の活用】

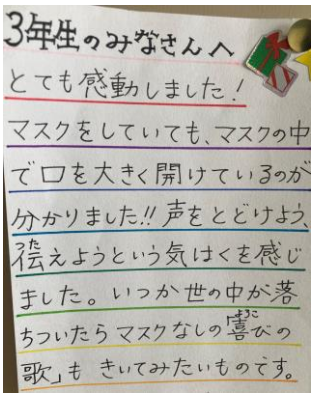
・保護者・地域からのメッセージカード

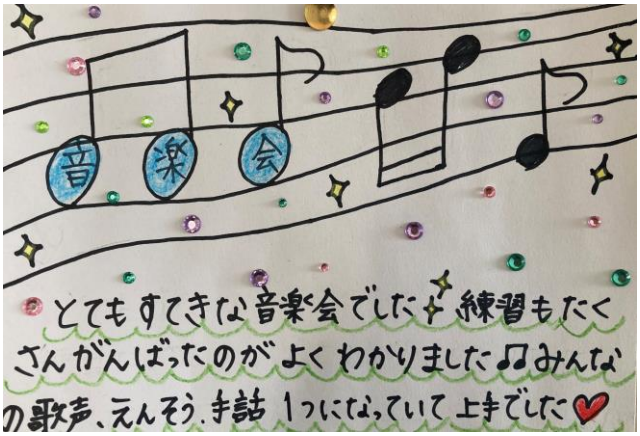
行事後に、保護者、地域の方々にメッセージカードを書いてもらう取組を実施した。３年生の子供たちに向けての感想や励ましを募集し、メッセージを子供たちに紹介することで、多くの人々の支えの中で自分たちが日々生活していることを実感できるようにした。

実施にあたり、保護者や地域の方々の負担にならないように様々な配慮が必要である。ポストカード程度の大きさの画用紙を準備し、提出は任意であることを伝え、メッセージの内容は、文章、一言、漢字一文字、イラスト、マンガ、写真など形式は自由とした。記名、無記名、言語も自由とし、提出期間を２週間程度に設定した。掲示されたメッセージを熱心に読み、素直に喜ぶ子供たちの姿が見られた。保護者や地域の方々からのメッセージは、子供たちが様々なことに挑戦する際の原動力になるように、行事だけでなく日常の指導でも活用する。









⑤ 講師紹介、指導講評

元東京都小学校特別活動研究会学校行事部部長　齋藤　厚代先生

〈係活動〉

・行事と関連付けた係活動が実施されている点は、今後の新たな提案になるだろう。
・４月当初に話し合って決めた係に関連するルールを９月に改定している点が有効である。
学期ごとに係活動の振り返りを行うことで、よりよい活動に発展することができる。

〈本時〉

・４月当初の自分たちの姿を思い返し、「変わろう」「変わりたい」と言葉に出して言える学級の土壌を作ったことに大きな価値がある。
・題材名にある「自分もみんなもすべてを大切に」をさらに意識付けることで、めあての内容や集めた虹のたねの扱い方に意味が見出せるだろう。
・集めた虹のたねは、数にして表すと効果的である。「２つ目のたねが集まったね。」「がんばるたねが２つ集まったよ。」「育てたら発芽するからね。」継続させる声掛けができるため、たねの発想には可能性がある。

〈目標（めあて）〉

・目標とは、「自分を変えるため」「自分にないものを得るため」に立てさせるものである。
・めあてを立て、それに向かって実践することで出来た喜びを体得できるように、子供の実態に合わせて指導法を考え、工夫することが大切である。
・文化的行事のねらいに照らすと、頑張りたいことなどを個別に示唆することが大切である。
・目標を常に意識させるために、可視化、数値化が有効である。
・「なりたい自分に向けて頑張る子供を育てる。」とあるが、そもそも「子供にとってなりたい自分」とはどのような自分なのかを考える必要がある。大きな目標の「サッカー選手になりたい。」や、曖昧な目標の「ステキになりたい。」、身近な目標の「ニンジンを食べられるようになりたい。」など、どれでもよいが、「そのために何をするか。」「自分なら何ができるのか。」といった、具体的な目標、いつまでの目標なのかを伝えて、一人一人がその目標を立てられるようになるよう指導することが必要である。

〈振り返り〉

・振り返りをより有効に行うために、生活班などの意図的なグループによって深めていくことも重要である。本時では、「笑顔のたねグループ」など同じたねのグループで振り返りを共有する方法も有効である。
・行事の振り返りを生かす姿勢や指導が今後教師に求められるだろう。行事は、イベントではなく授業であり、子供たちの意識改革の場である。なぜ行事を通して楽しい気持ちになったのか、なぜ力が付いたと感じたのかを分析したり、考えたりする指導が今後さらに必要である。

３ 成果と課題

（１） 成果

視点１　みんなとともに生きていく力を育てる指導の工夫（人間関係形成）

係活動を行事と関連付けたことで、行事前後も日常生活にある係活動を活性化することができ、みんなで行事を成功させたり、学校生活を楽しく豊かなものにしたりしようとする意識を高めることができた。

視点２　よりよい集団をつくろうとする力を育てる指導の工夫（社会参画）

各学校で異なる学校行事の内容や児童の実態に合わせてねらいを立て、年間を見通しながら事前・事後指導を積み重ねたことで、行事ごとに集団への所属意識が高まり、人間関係を豊かにしていこうとするめあてを立てるなど、よりよい集団を自分たちでつくろうとする意欲を高めることができた。

視点３　なりたい自分に向けて頑張る力を育てる指導の工夫（自己実現）

自分たち一人一人の成長や学年で成長したこと、また成長を感じ取れる保護者からのメッセージを可視化したことで、自分たちのもつよさや可能性に気付かせることができ、行事後の日常生活でもそれらを発揮しようとする姿を引き出すことができた。

運動会楽しかったね。ぼくは、これからも仲間と助け合う「和」を大事にしていきたいな。

これからの学校生活でも、協力の「輪」を大切にして友達のよいところをたくさん見付けていくね。

（２） 課題

視点３　なりたい自分に向けて頑張る力を育てる指導の工夫（自己実現）

「なりたい自分」の捉え方について、学校行事部としての考え方がまとまっていなかった。都小特活としてどう捉えるか、他の部会とも併せて、今後検証していく必要がある。

３つの視点すべてにかかわる指導の工夫

「決める」の段階では、めあてが自分事となり、成果を共有できるようなものを立てさせていくような発問や声掛けをしていく。また、タブレット端末の使用については効果を考え、どこで何を使っていくか、今後も考えていく。

今年度の研究に携わった人

部長	竹田　桃子	練馬・上石神井北小	部員	上野　純	足立・千寿小
副部長	四本　真美	大田・志茂田小	部員	船倉　大輔	板橋・蓮根小
副部長	松本　明子	北・浮間小	部員	原　千晶	大田・入新井第五小
会計	檜山　真理子	北・西浮間小	部員	白石　遼	北・滝野川第三小
授業者	伊勢　祐美子	世田谷・若林小	部員	石坂　広大	東村山・南台小
授業者	伊藤　優	世田谷・多聞小	部員	沖　晃史	東村山・南台小
部員	小山　雅人	世田谷・祖師谷小	部員	鈴木　絵里子	国分寺・第二小
部員	榎本　誠太	世田谷・塚戸小	担当副会長	橋本　弥記	国分寺・第五小
部員	平山　かおり	目黒・鷹番小	研究部長	平松　隆行	板橋・若木小
部員	中西　くみ子	北・西が丘小	会計副部長	吉田　有子	清瀬・清瀬第七小
部員	松田　笑子	江東・数矢小	事業部員	原田　恵子	北・西浮間小
部員	本橋　治	練馬・大泉学園小	アドバイザー	斎藤　厚代	元学校行事部部長
部員	湯沢　芽生	練馬・上石神井北小	アドバイザー	田所　貴美子	中野区・桃園第二小

研究の成果と今後の課題

研究部長　平松　隆行（板橋区立若木小学校長）

東京都小学校特別活動研究会（以下、都小特活）の研究は、今年度、各研究部で２回の研究授業を行い、特別活動が育成を目指す資質・能力の３つの視点である「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」に焦点を当て、その育成のための具体的な手だての有効性について検証してきた。

〇成果

・都小特活は、学級活動部、児童会活動部、クラブ活動部、学校行事部の４研究部で研究を進めているが、４研究部長が、研究の考え方や進め方について共通理解を図りながら、足並みを揃えて研究を進めた。そのことにより、特別活動の目指す資質・能力は同じでありながらも、それぞれの活動の特質に合わせた手だてを示し、そのよさを共有することができた。

・４研究部で、目指す児童像を「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の３つの視点で設定することで、そのための手だてとの関連が明確になり、手だての有効性が測りやすくなった。

・ICT 機器の活用により、効率的な意見集約、活動のめあての共有化など、授業の質を高めることができた。

〇今後の課題

・都小特活の研究は、特別活動の具体的な指導方法とその有効性を示し、東京都の教育の質の向上に寄与しなくてはならない。そのためには、学習指導要領に即して、より一般化し、その指導を行った誰もが成果を上げられるものを示していかなければならない。来年度は、この研究主題で研究を行う最後の年である。より汎化し、再現性のある具体的な指導方法を示していく。

・手だての有効性について、児童の振り返りや教師の見取りに加え、アンケートなどを実施し、特別活動の特質から難しい面もあるが、数値化して、客観的な有効性を示していく。

・ICT 活用により、特別活動が大切にしている「人と人の関わり合い」が後退しては本末転倒である。特別活動のねらいを達成するための「手だて」の一つとしての ICT 活用について、具体的な活用方法を示していく。

新型コロナウイルス感染症の流行から３年が経とうとしている。

振り返れば、子供同士の関わり合いの中で実践的に学ぶ特別活動は、様々な制限を受け、大きな危機に直面した３年間だった。学校現場からは、「子供たちが幼い。異学年との関わりがないからではないか。」「学級を自分たちでよりよくしようという意欲に乏しい子が多い。」「こうしたいという自分の願いをもてない子がいる。」といった「人間関係形成」や「社会参画」、「自己実現」の力が十分に育成されていないことへの心配の声が聞こえてきた。この３年間、都小特活では、これまでの研究を深めるとともに、コロナ禍でも子供たち同士の関わりを大切にした特別活動のあり方を試行錯誤しながら探ってきた。

そして、今。学校の教育活動は、大きな転機を迎えている。感染拡大防止のために、軒並み中止・縮小されてきた行事や取組が、少しずつ「再開」され始めてきている。

しかし、これは、コロナ禍以前に戻すということではない。新型コロナウイルス感染症の完全な収束が難しい中で、コロナと共に活動を行う「ウィズコロナ」の考え方を生かし、直面する教育課題に対応した活動の「再構築」である。

これまで積み重ねてきた研究の成果を大切にしつつも、新しい時代にふさわしい「特別活動」をみんなの力でつくり、その「特別活動」の力で、子供たちの幸せな未来を創造したい。

東京都小学校特別活動研究会会則

第１章　総　　則

第１条　この会は、東京都小学校特別活動研究会といい、事務局を会長校に置く。

第２条　この会は、東京都２３区、市、郡、島しょにおける小学校特別活動研究団体の連合機関とし特別活動の振興を図ることを目的とする。

第３条　この会は、前条の目的を達成するために、次のことを行う。

①　東京都２３区、市、郡、島しょ研究会との連絡連携に関すること。

②　特別活動の研究、及びその助成に関すること。

③　研究物・機関誌の発行に関すること。

④　この会と同じくする研究団体との連絡連携に関すること。

⑤　その他、この会の目的を達成するために必要なこと。

第２章　役　　員

第４条　この会は、東京都２３区、市、郡、島しょを単位とする研究会・学校及び特別活動に関心をもつ個人をもって組織する。

第５条　この会に次の役員をおく。

①会長１名、副会長若干名　②庶務・会計・研究・事業・編集の各正副部長　③学級活動・児童会活動・クラブ活動・学校行事の各部長　④会計若干名　⑤参与　⑥相談役

第６条　会長・副会長及び会計監査は理事会において選出する。理事は２３区、市、郡、島しょから選出する。庶務・会計・研究・事業・編集の各正副部長は会長が委嘱する。また各部長は各活動部の推薦を受けて会長が委嘱する。

第７条　会長は、会務を総理し、この会を代表する。副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときは、その会務を代理する。理事は重要事項の審議をする。

第８条　役員の任期は１年とする。ただし、重任することができる。役員に欠員が生じた場合、補欠役員の任期はその残任期間とする。

第９条　（１）この会に、顧問をおく。顧問は歴代の会長とし、現職にある間は参与とする。

（２）この会に、相談役をおく。相談役は、会長が役員経験者で再任用校長の中から委任する。

第３章　会　　議

第 10 条　この会の会議は、次の通りとする。①総会　②理事会　③役員会

第 11 条　総会は会長が招集し、毎年１回開催する。ただし、必要に応じて臨時に開くことができる。総会の議長は会員から選出する。

第 12 条　総会に付議する事項は、次の通りとする。

①予算の決議及び決算案の承認　②会則の変更　③その他重要なる事項

第 13 条　理事会・役員会は会長が招集し、会議の議長は会長が当たる。

第４章　会　　計

第 14 条　この会の経費は、都小研連からの配当金とその他の収入で支弁する。

第 15 条　この会の会計年度は、毎年４月１日に始まり、翌年３月３１日に終わる。

〈付則〉　１．この会則は、令和３年５月より実施する。（令和 3 年 5 月 20 日一部改正）

２．この会の運営に関する細則は、必要に応じて定めることができる。

各業務分担

庶務部	・年間計画の作成と推進 ・顧問、参与、相談役、役員、理事、部員名簿の作成 ・役員会、理事会、総会、研究発表会等の案内状の作成と発送 ・上記諸会合の進行と運営
周年担当部	※令和４年度のみ、６０周年担当部を設置する。 ・６０周年記念ページの作成 ・歴代会長の６０周年お祝いメッセージの依頼と集約 ・６０年のあゆみの作成
会計部	・年間予算計画の立案と予算執行 ・都助成金申請及び決算報告書提出 ・帳簿管理 ・決算事務（会計監査との連絡）
研究部	・研究基調提案の策定と提案（研究主題の基本的な方向性について） ・年間研究計画の立案と推進 ・４活動部による研究推進 （１）　学級活動部 （２）　児童会活動部 （３）　クラブ活動部 （４）　学校行事部 ・４活動部との連絡、調整（研究部会・拡大研究部会の開催） ・関係研究団体との連携、協力の窓口 ・一日研修会の研究推進業務 ・研究出版等に関わる内容の業務 ・各地区の研究活動の把握
事業部	・ホームページの運営・管理 ・ICT の推進 ・一日・宿泊研修会等の立案と運営 ・各種懇談会、懇談会の企画と運営（総会・研究発表後の懇談会等） ・研究紀要の発送業務 ・研究出版物の頒布に関する業務
編集部	・会報の編集、発送業務 ・総会、研究発表会の記録。編集 ・一日・宿泊研修会の記録、編集

令和４年度　東京都小学校特別活動研究会
顧問・役員・本部幹事名簿

１　顧　問　（歴代会長）

	代	氏　名
顧　問	1	高杉　新作
〃	2	斉藤　敏夫
〃	3	保科　明敏
〃	4	山田　明
〃	5	白井　健二
〃	6	小谷　威
〃	7	久納　六郎
〃	8	小島　明
〃	9	中田　英義
〃	10	広瀬　英二
〃	11	外村　近
〃	12	小河　一久
〃	13	古橋　宏
〃	14	岩園　敏明
〃	15	佐藤　弘
〃	16	小川　國壽
〃	17	小野　眞澄
〃	18	松野　彰夫
〃	19	小池　宏
〃	20	沖山　重次
〃	21	大谷　徹夫
〃	22	星野　隆治
〃	23	米本　滋雄

	代	氏　名
顧　問	24	小川　進一
〃	25	髙松　和彦
〃	26	中川　健二
〃	27	森山　裕夫
〃	28	川嶋　武司
〃	29	小野　莞一
〃	30	藤縄　清
〃	31	鹿海　治
〃	32	井上　和芳
〃	33	棚田　政治
〃	34	藤本　仁
〃	35	長田　信彦
〃	36	若林　彰
〃	37	関　幸治
〃	38	上野　研二
〃	39	石井　友行
〃	40	山口　祐一
〃	41	清水　晶子
〃	42	（参与欄）
〃	43	（参与欄）
〃	44	（参与欄）
〃	45	（参与欄）

２　参　与　（歴代会長）

代	氏　名	地区・校名	学校電話	Ｆａｘ番号
42	赤羽根　智	東久留米・本村小	042-471-0134	042-472-7981
43	小島　みつる	北・西浮間小	03-5915-0133	03-3967-1135
44	木田　明男	小平・小平第三小	042-321-0189	042-321-0164
45	岡野　範嗣	大田・入新井第五小	03-3762-6438	03-3762-8313

３　役　員　　◎校長　○副校長　◇主幹教諭　◆指導教諭　□主任教諭

役職名	氏　名	地区・校名	学校電話	Fax番号
会長	◎ 秋山　美栄子	目黒・下目黒小	03-3491-0332	03-5496-4859
副会長	◎ 石田　孝士	世田谷・芦花小	03-3303-3301	03-3303-6431
〃	◎ 出町桜一郎	国分寺・第四小	042-322-0044	042-325-4473
〃	◎ 橋本　弥記	国分寺・第五小	042-322-0045	042-325-4912

役職名	氏名	地区・校名	学校電話	Fax番号
周年担当部長	◎ 神谷なおみ	江東・第一大島小	03-3684-4314	03-3636-9730
庶務部長	◎ 笹間伸也	大田・羽田小	03-3741-5682	03-3741-5683
庶務副部長	◎ 中村和弘	江東・豊洲小	03-3531-7788	03-3532-5644
〃	◎ 細井鏡子	大田・北糀谷小	03-3742-5371	03-3742-5372
〃	◎ 中野浩一	町田・鶴川第一小	042-735-1234	042-735-1649
庶務部員	□ 吉田和子	江東・毛利小	03-3631-1647	03-3631-3458
〃	□ 鬼木雅人	東久留米・第二小	042-471-0134	042-472-7981
会計部長	◎ 吉田有子	清瀬・清瀬第七小	042-493-4317	042-495-6037
会計副部長	○ 田所貴美子	中野・桃園第二小	03-3363-0661	03-3363-0662
会計(学級活動)	□ 奥山優子	中央・月島第三小	03-3531-7225	03-3531-2253
会計(児童会)	□ 山野奈央子	世田谷・玉川小	03-5497-0262	03-3703-1688
会計(クラブ)	山口哲郎	葛飾・本田小	03-3694-1362	03-5698-1739
会計(学校行事)	□ 檜山真理子	北・西浮間小	03-5915-0133	03-3967-1135
研究部長	◎ 平松隆行	板橋・若木小	03-3550-0348	03-3934-2007
研究副部長	◎ 田村亜紀子	練馬・大泉南小	03-3922-1160	03-5387-2191
〃	○ 佐藤美徳	府中・府中第二小	042-361-9002	042-334-0865
〃	◇ 藤田寛樹	文京・湯島小	03-3813-6061	03-5689-4550
〃	◆ 大藏久美	小平・小平六小	042-341-0356	042-341-7467
〃	◆ 渋井洋子	東久留米・神宝小	042-474-4108	042-472-7990
〃	◆ 大野和代	足立‥千寿第八小	03-3888-7826	03-3888-7827
〃	◆ 宮内有加	中央・明石小	03-3541-8335	03-3541-6300
〃	◇ 髙橋信行	足立・千寿第八小	03-3888-7826	03-3888-7827
研究部員	◇ 佐藤真美	小平・小平第十二小	042-342-1761	042-342-1760
〃	◆ 中嶋規子	世田谷・経堂小	03-3420-3278	03-3420-2903
事業部長	◎ 酒井敬子	大田・おなづか小	03-3753-2615	03-3753-2616
事業副部長	◎ 森嶋正行	府中・府中第五小	042-361-9005	042-334-0868
〃	○ 佐藤千晴	国分寺・第二	042-572-8192	042-571-3318
事業部員	□ 兼古勇佑	江東・有明西学園	03-3527-6401	03-3527-6407
〃	高野慶文	多摩・東落合小	042-376-6214	042-337-7639
〃	佐藤麻美	豊島・高松小	03-3956-8157	03-3959-9607
〃	□ 梶井綾	目黒・八雲小	03-3718-6306	03-3718-5752
〃	□ 原田恵子	北・西浮間小	03-5915-0133	03-3967-1135
〃	鈴木絵里子	国分寺・第二	042-572-8192	042-571-3318
編集部長	◎ 関拓也	品川・延山小	03-3781-3806	03-3781-3942
編集副部長	○ 鈴木悟史	多摩・南鶴牧小	042-372-1860	042-337-7641
編集部員	□ 藤井美貴子	渋谷・上原小	03-3467-4273	03-3467-3260
〃	□ 伊勢祐美子	世田谷・太子堂小	03-3413-4621	03-3413-4799
〃	□ 関田裕子	世田谷・松原小	03-3322-0191	03-3322-4351
〃	酒井博子	東久留米・第六小	042-471-5370	042-472-7984
学級活動部長	◇ 髙橋美衣	中央・月島第二小	03-3531-7268	03-3531-2213
児童会活動部長	□ 畑理恵	葛飾・南奥戸小	03-3692-8877	03-5698-1741
クラブ活動部長	□ 矢部聡	世田谷・尾山台小	03-3701-2183	03-3701-2355
学校行事部長	竹田桃子	練馬・上石神井北小	03-3920-1011	03-3929-9053
会計監査	◎ 赤羽根智	東久留米・本村小	042-474-0404	042-472-7992
〃	◎ 木田明男	小平・小平第三小	042-321-0189	042-321-0164
相談役	◎ 新井正一	新宿・天神小	03-3358-3769	03-3358-3775
〃	◎ 伊藤幸一	東久留米・第七小	042-471-0114	042-477-5677

4　理事・副理事（上段が理事、下段が副理事）

No.	区市町村	校名	氏名	学校電話番号
1	千代田	富士見	◎小牧　来太	03-3263-1006
		麹町	◇寺田　美弥	03-3263-7337
2	中央	有馬	◎小林　一輝	03-3666-5702
		明石	◆宮内　有加	03-3541-8335
3	港	赤坂	◎齋藤　恵	03-3404-8602
		赤坂	高橋　泰基	03-3404-8602
4	新宿	天神	◎新井　正一	03-3358-3769
		落合第一	石川美由紀	03-3565-0940
5	文京	駒本	◎篠遠　信行	03-3827-5451
		昭和	小谷野　航	03-3944-0471
6	台東	谷中	◎増嶋　広曜	03-3828-9218
		松葉	◇川又　大樹	03-3841-2627
7	墨田	横川	◎近藤　幸弘	03-3625-0335
		隅田	木戸田正大	03-3614-0203
8	江東	第一大島	◎神谷なおみ	03-3684-4314
9	品川	芳水	◎山本　修史	03-3491-1555
		八潮学園	○森下久仁子	03-3799-1641
10	目黒	下目黒	◎秋山美栄子	03-3491-0332
		八雲	□梶井　綾	03-3718-6306
11	大田	入新井	◎岡野　範嗣	03-3762-6438
		北糀谷	◎細井　鏡子	03-3742-5371
12	世田谷	京西	◎菅谷万里子	03-3700-1128
		芦花	◎石田　孝士	03-3303-3301
13	渋谷	千駄谷	◎中野有一郎	03-3401-1707
		千駄谷	○大塚　晋一	03-3401-1707
14	中野	北原	□宮口　大介	03-3330-2411
		鷺宮	和田　翔太	03-3330-7371
15	杉並	高井戸第四	◎加納　直樹	03-3333-7828
		高井戸	鈴木　祥	03-3333-7628
16	豊島	清和	◎酒井　由江	03-3918-2605
		豊成	◆日向野　緑	03-3918-2315
17	北	西浮間	◎小島みつる	03-5915-0133
		浮間	□松本　明子	03-3969-0491
18	荒川	峡田	◎津田　利枝	03-3891-2051
		第六日暮里	◎島埜　秀男	03-3800-3474
19	板橋	若木	◎平松　隆行	03-3550-0348
		向原	◎浅見　智則	03-3956-8673
20	練馬	大泉南	◎田村亜紀子	03-3922-1160
		北町	◇神山　卓	03-3932-3296
21	足立	東栗原	◎伊地知広竹	03-3883-4215
		千寿第八	◇髙橋　信行	03-3888-7826
22	葛飾	中之台	◎佐久間貴広	03-3605-7353
		住吉	◇和田雄一郎	03-3607-2349
23	江戸川	本一色	◇浅山　孝子	03-3654-6030
		平井	□本多　泰夫	03-3613-9311

※　４７は、あきる野市のみです。
（福生市・日の出・瑞穂・檜原は理事不在のため別送）

◎校長　○副校長　◇主幹教諭　◆指導教諭　□主任教諭

No.	区市町村	校名	氏名	学校電話番号
24	八王子	元八王子	◇大森　道久	042-623-0728
25	立川	南砂	◎浜中　佳則	042-525-1474
		第九	○宮當　拓也	042-536-2231
26	武蔵野	境南	□横山　由希	0422-32-3400
27	三鷹	南浦	□島田　和崇	0422-44-6385
		第七	□能勢　純	0422-44-5378
28	青梅	第四	○岡田信一郎	0428-22-7268
		河辺	□秋嶺　創大	0428-23-1245
29	府中	府中第五	◎森嶋　正行	042-361-9005
		南町	○山田　一樹	042-366-3320
30	昭島	武蔵野	◎岡部　操	042-543-8666
		光華	○佐藤真由美	042-541-0313
31	調布	柏野	髙橋　優	042-488-2861
32	町田	鶴川第一	◎中野　浩一	042-735-1234
		七国山	□坂本　理恵	052-791-2171
33	小金井	東	○紅谷　昌元	042-383-1145
		南中	○星野　哲朗	042-383-1105
34	小平	小平第三	◎木田　明男	042-321-0189
		小平第六	◆大藏　久美	042-341-0356
35	日野	日野第八	◎船山　徹	042-591-2411
36	東村山	南台	○小熊　隆一	042-391-8117
		秋津東	□片山　邦夫	042-391-8191
37	国分寺	第四	◎出町桜一郎	042-322-0044
		第五	◎橋本　弥記	042-322-0045
38	国立	国立第四	○大類　英美	042-572-4197
39	狛江			
40	東大和	第五	◎加藤　進	042-562-1981
41	清瀬	清瀬第七	○吉田　有子	042-493-4317
42	東久留米	第七	◎伊藤　幸一	042-471-0114
		本村	◎赤羽根　智	042-474-0404
43	武蔵村山	第三	◎前川　潤	042-561-1753
		第三	○田島　照久	042-561-1753
44	多摩	東落合	◎野々村　剛	042-376-6214
		豊ヶ丘	○滋野　卓也	042-371-3341
45	稲城	長峰	○古門　雅司	042-331-3111
46	羽村			
47	あきる野	前田	◇池田　純子	042-559-7611
		増戸	□井手　優子	042-596-0240
48	西東京	東	◎三澤　亘潤	042-421-6009
		東	□宮腰　幸子	042-421-6009
49	島嶼部	大島さくら	○佐藤　芳晴	04992-2-8021
		大島さくら	日下部和哉	04992-2-8021

あ　と　が　き

副 会 長　　石 田　孝 士
（世田谷区立芦花小学校長）

令和４年度は、新型コロナウイルスの流行が繰り返しましたが、社会をはじめ学校現場でも感染予防措置を十分取りながら極力通常の状況に近付けることが多くなりました。ウィズ・コロナの時代に入ったことを感じさせる社会状況でした。このような中、各学校では様々な工夫をしながら特別活動をすすめてきました。この３年間、特別活動にとっても苦しい時期でしたが、その反面、日本の教育にとって特別活動が必要不可欠なものであることも認識されました。

今年度は、昨年度に続き学級活動部・児童会活動部・クラブ活動部・学校行事部の４部会が各２回の検証授業を行い、授業を通して、これまでの研究の有効性や課題を明確にしてきました。検証授業を支える仮説や手だてなどは参集とオンラインとを併用することにより多くの部員が参加でき充実したものとなりました。一人一台の端末を特別活動での話合いで活用する姿も珍しくなくなり、現在の課題の改善にも４部の研究部員が果敢に挑戦してくれました。このような姿に対して、改めて各研究部員の皆様に敬意と感謝を申し上げます。

今年度、本研究会は創立されて６０周年の節目の年でもありました。６０年間、一歩一歩着実に歩みをすすめてまいりました。昭和３９年度に出された研究集録の第１号の巻頭言に当時の会長斉藤敏夫先生が「遠路を重い資料を抱えられ、夜おそくまで精力的に努力された姿」とあります。特別活動を愛し、広めていきたいという思いは、この６０年間経った今でも本研究会の神髄でもあります。この思いを次の１０年、２０年へとつなげていきます。

いよいよ来年度は、現在の研究主題での研究の最終年度となります。確実な成果と次の研究主題へと円滑に移行できるように研究をすすめ、子供達に着実に「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」という特別活動で身に付ける３つの資質・能力の育成を図っていきます。

終わりに、本研究をすすめるにあたりご支援・ご協力を賜りました東京都教育委員会、各地区の教育委員会及び理事の皆様、研究の場を提供いただきました各校の校長先生、教職員の皆様方に感謝を申し上げます。また、文部科学省初等中等教育局視学官　安部　恭子先生をはじめ、ご指導・ご助言いただきました関係の皆様方に心よりお礼を申し上げます。

東京都小学校特別活動研究会 創立６０周年記念
研究紀要第５９号
**「よりよい人間関係や生活をつくり、
自己のよさを生かす特別活動」**

印 刷　令和５年２月２４日
発 行　令和５年２月２４日
編 集　東京都小学校特別活動研究会
発行者 会長 秋山　美栄子
目黒区立下目黒小学校校長
印刷所 ㈲二葉謄社
電話　042-479-4360

人間関係形成
社会参画
自己実現